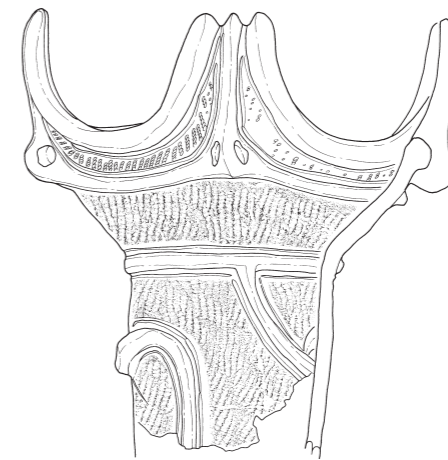


# 若林遺跡

(第1地点)

— 宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —



2009

水戸市教育委員会

# 若林遺跡

(第1地点)

— 宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2009

水戸市教育委員会





## ごあいさつ

若林遺跡は、笠間市池野辺付近を水源とする桜川下流域の東茨城台地の上に位置しております。近隣には、河和田城跡をはじめ、高天原遺跡、坏遺跡など縄文時代から戦国時代までの多くの遺跡が残されており、古くから住みよい土地であったと考えられます。

歴史的文化遺産である埋蔵文化財は、その性格上一度壊されてしまうと二度と原状に復することができないため、私たちが大切に保存しながら後世へ伝えていかなければならない貴重な財産です。

近年の大規模開発等による都市化の様相が強まる中で、埋蔵文化財の現状保存は非常に困難になりつつありますが、本市においてはその意義や重要性を踏まえ、文化財保護法並びに関係法令に基づき保護・保存に努めているところです。

このたびの調査は、若林遺跡地内において宅地分譲の工事が計画されたところ、文化財保護の観点から十分に協議を重ねた結果、その一部において遺跡の現状保存が困難であるとの結論に至り、次善の策として発掘調査を実施し、記録の上での保護措置を講ずることとしたものです。

今回の調査により、縄文時代中期と中世の集落跡の一部が確認され、本市の原始・中世史研究はもとより、今後において埋蔵文化財を保護保存する上で貴重な資料を得ることができました。特に中世の遺構群は、近傍の河和田城跡や岩間街道などの政治拠点や交通路との関係が指摘されることであり、大変興味深いものです。

ここに刊行する本書が、かけがえのない貴重な文化財に対する意識の高揚と学術研究等の資料として、広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、調査の実施にあたり多大な御理解と御協力を賜りました地権者、事業者並びに施工業者の皆様にご心から感謝申し上げます。

平成 21 年 8 月

水戸市教育委員会

教育長 鯨岡 武



## 例 言

1. 本書は、水戸市に所在する若林遺跡（第1地点）の発掘調査報告書である。
2. 調査は宅地造成工事に伴い、茨城セキスイハイム株式会社より委託を受けた、株式会社東京航業研究所が、水戸市教育委員会の指導のもと実施した。
3. 調査の概要は下記の通りである。

所在地 水戸市見和3丁目1391番1外

調査面積 646.19 m<sup>2</sup>

調査期間 平成21年2月2日～平成21年3月20日

調査指導 関口慶久（水戸市教育委員会）

調査担当 林 邦雄（株式会社東京航業研究所）

調査参加者 石崎寿子，岡野政雄，黒須秀昭，森安幸且，飛田とし子，富田 仁，中山忠雄，  
福原雅美，皆川明子，村上巧兒，渡辺恵子

### 事務局

鯨岡 武 水戸市教育委員会教育長

内田 秀泰 水戸市教育委員会教育次長

仲田 立 水戸市教育委員会文化振興課長

中里 誠志郎 水戸市教育委員会文化振興課長補佐

内田 秀泰 水戸市教育委員会教育次長

仲田 立 水戸市教育委員会文化振興課長

中里 誠志郎 水戸市教育委員会文化振興課長補佐

宮崎 賢司 水戸市教育委員会文化振興課文化財係長

萩谷 慎一 水戸市教育委員会文化振興課文化財係主査

関口 慶久 水戸市教育委員会文化振興課文化財係文化財主事

渥美 賢吾 水戸市教育委員会文化振興課文化財係文化財主事

金子 千秋 水戸市教育委員会文化振興課文化財係嘱託員（埋蔵文化財専門員）

4. 本書の執筆・編集は、林 邦雄・関口が行った。
5. 出土遺物及び図面・写真などの記録類は、報告書刊行後一括して水戸市大串貝塚ふれあい公園にて保管する。
6. 発掘調査から本書の刊行に至るまで、下記の方々・諸機関より御教示・御協力を賜った。記して深く謝意を表す次第です（敬称略・順不同）。

今尾文昭，岡本東三，大塚初重，川崎純徳，川尻秋生，瓦吹 堅，黒澤彰哉，後藤一成，  
後藤孝行，後藤道雄，斎藤弘道，坂井秀弥，清野孝之，関根唯充，高野裕璽，日高 慎，  
山中敏史，山本典幸，横倉要次

茨城県教育庁文化課，独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所，文化庁文化財部記念物課

## 凡 例

1. 本文中に掲載した実測図の縮尺は、原則として次の通りである。  
全体図 1/300 遺構分布図 1/100
2. 遺物実測図の縮尺は各頁に記載した。
3. 遺構実測図中のレベルは海拔高、方位は座標北を示す。
4. 遺物写真図版の縮尺は実測図と一致する。
5. 遺物番号は本文、挿図、写真図版と一致する。
6. 遺構実測図中のスクリーントーンは焼土の堆積分布範囲を示す。
7. 遺構内における遺物出土状態を示すにあたり、次の記号を使用した。 ●土器 △石器

# 目 次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
1-1 調査に至る経緯	1
1-2 発掘作業の経過	2
1-3 整理等作業の経過	2
第2章 遺跡の周辺環境	3
2-1 地理的環境	3
2-2 歴史的環境	3
第3章 調査の方法と成果	7
3-1 調査の方法	7
3-2 基本土層	7
3-3 遺構	13
3-4 遺物	36
第4章 考察	67
引用・参考文献	69
写真図版	

# 挿図・表目次

第1図 若林遺跡の位置	3	第15図 10・18・19・47・59号土坑, 3号ピット(2)	21
第2図 若林遺跡と周辺遺跡の位置	4	第16図 11号土坑(1号地下式壙)	21
第3図 基本土層図	7	第17図 13・14号土坑, 1・16号ピット	22
第4図 調査区の位置	8		
第5図 調査区方眼図	9	第18図 15・16・17号土坑	23
第6図 遺構分布図(調査区南部)	10	第19図 20～23・57号土坑, 25・34・35号ピット	24
第7図 遺構分布図(調査区中央部)	11	第20図 24号土坑, 6号ピット	25
第8図 遺構分布図(調査区北部)	12	第21図 25・26号土坑, 29号ピット	25
第9図 1号竪穴住居跡	13	第22図 28・29・31・37・38号土坑, 12・ 13・19～23・31・32号ピット(1)	26
第10図 1号土坑	17		
第11図 2～5号土坑	18	第23図 28・29・31・37・38号土坑, 12・ 13・19～23・31・32号ピット(2)	27
第12図 8号土坑	18		
第13図 6・7・9・12号土坑	19		
第14図 10・18・19・47・59号土坑, 3号ピット(1)	20		

第 24 図	27 号土坑	27	第 36 図	出土遺物 (2)	39
第 25 図	30・32・48・53 号土坑, 2・17・18・27・30 号ピット (1)	27	第 37 図	出土遺物 (3)	40
第 26 図	30・32・48・53 号土坑, 2・17・18・27・30 号ピット (2)	28	第 38 図	出土遺物 (4)	41
第 27 図	33・34・35・40・49・50・51 号土坑, 10・28 号ピット	29	第 39 図	出土遺物 (5)	42
第 28 図	36・41・42・55・58 号土坑, 5・7・14・15・24・26 号ピット (1)	30	第 40 図	出土遺物 (6)	43
第 29 図	36・41・42・55・58 号土坑, 5・7・14・15・24・26 号ピット (2)	31	第 41 図	出土遺物 (7)	44
第 30 図	54 号土坑	31	第 42 図	出土遺物 (8)	45
第 31 図	39・52 号土坑	31	第 43 図	出土遺物 (9)	46
第 32 図	43・44・45・46・56・60 号土坑, 4・8 号ピット	32	第 44 図	出土遺物 (10)	47
第 33 図	1 号屋外炉	33	第 45 図	出土遺物 (11)	48
第 34 図	2 号屋外炉	34	第 46 図	出土遺物 (12)	49
第 35 図	出土遺物 (1)	38	第 47 図	出土遺物 (13)	50
			第 48 図	出土遺物 (14)	51
			第 49 図	出土遺物 (15)	52
			第 50 図	出土遺物 (16)	53
			第 1 表	若林遺跡と周辺遺跡一覧	5
			第 2 表	土坑一覧	14
			第 3 表	ピット一覧	35
			第 4 表	出土土器属性一覧	54
			第 5 表	出土石器属性一覧	62
			第 6 表	出土土器・石器計量表	63

## 図版目次

図版 1	調査区全景	図版 10	出土遺物 (1)
図版 2	調査区全景	図版 11	出土遺物 (2)
図版 3	テストピット・住居跡・土坑の遺構 調査状況	図版 12	出土遺物 (3)
図版 4	土坑の遺構調査状況	図版 13	出土遺物 (4)
図版 5	土坑の遺構調査状況	図版 14	出土遺物 (5)
図版 6	土坑の遺構調査状況	図版 15	出土遺物 (6)
図版 7	土坑の遺構調査状況	図版 16	出土遺物 (7)
図版 8	土坑の遺構調査状況	図版 17	出土遺物 (8)
図版 9	土坑・屋外炉・ピットの遺構調査状 作業風景	図版 18	出土遺物 (9)
		図版 19	出土遺物 (10)

# 第1章 調査に至る経緯と経過

## 1-1 調査に至る経緯

平成18年9月1日付にて事業者江原七五三子（以下「事業者」という。）から宅地造成工事に伴う「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」が水戸市教育委員会（以下「市教委」という。）教育長あて提出された。

開発予定地である水戸市見和3丁目1391番1外は、周知の埋蔵文化財包蔵地「若林遺跡」に該当していることから、事業者の依頼を受け、平成18年10月12日及び13日の2日間にわたり試掘・確認調査を行った。開発対象地3,289㎡に対し、長さ34m×幅2m（トレンチ1）、長さ16m×幅2m（トレンチ2）、長さ37m×幅2m（トレンチ3）、長さ18m×幅2m（トレンチ4）をそれぞれ設定し、遺構確認面たる関東ローム層上面を目標に掘削した結果、縄文時代中期の土坑や集石遺構などが多く確認された。

試掘・確認調査の結果を受けて、事業者及び施工責任者との協議を重ねた結果、開発行為による位置指定道路（進入路）、防火水槽埋設箇所、雨水調整施設等の埋蔵文化財が損壊する箇所について、埋蔵文化財を現状保存するために計画の変更は困難であるとの見通しに達し、文化財保護法（昭和25年法律第214号、以下「法」という。）第93条第1項及び第184条第1項、並びに文化財保護法施行令（昭和50年政令第267号）第5条第2項の規定により、事業者から茨城県教育委員会（以下「県教委」という。）あて「埋蔵文化財発掘の届出」が、市教委へ提出された。

市教委においては、先の事業者及び施工責任者との協議を踏まえ、茨城県埋蔵文化財発掘調査取扱い基準との照合の結果、埋蔵文化財が損壊する箇所については、次善の策として記録保存を目的とした本発掘調査を必要である旨の意見書を添えて、平成18年10月27日付にて県教委教育長あて進達した（教生第927号）。

これに対しては、法第93条第2項に基づき、県教委教育長から平成18年11月15日付文第1334号にて「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」の通知があり、①開発道路及び防火水槽等の設置工事については、工事に当たって遺構等が損壊されるなど埋蔵文化財の保存に影響があるので、工事着手前に発掘調査を実施すること、なお調査の結果重要な遺構等が発見された場合には、その保存等について別途協議を要すること、②宅地部分の盛土工事については、工事に当たって市教委の埋蔵文化財担当職員が立ち会うこと、なお工事中に重要な遺構等が発見された場合にはその保存等について別途協議を要すること、③埋蔵文化財が保存されている範囲について、今後住宅建設工事を行う場合には、法に基づく届出を別途必要とすること、以上の3点について勧告があった。

その後、開発行為事前協議等により別途関係機関との調整に時間を要していたこともあり、事業者による事前の本発掘調査は行われなかった状態が続いたが、平成20年7月に至って、改めて施工責任者を通じて、事業者から計画を進めたい旨連絡が入り、再び市教委との協議に入った。その結果、平成18年当時の工事計画とほぼ変わらぬ工事計画であり、先の届出内容に変更すべき点が見当たらないことから、市教委としては、県教委からの平成18年度の通知内容を履行するよう伝えた。

これを受けて、事業者は、株式会社東京航業研究所と発掘調査業務委託契約を締結するとともに、



市教委との三者協定がなされ、株式会社東京航業研究所から法第92条第1項に基づく「埋蔵文化財発掘調査の届出」が市教委を通じて県教委へ提出され、平成21年2月2日から記録保存を目的とした本発掘調査を実施することとなった。(渥美)

## 1-2 発掘作業の経過

発掘調査は、平成21年2月2日から平成21年3月20日まで実施した。

先ず2月2日にL字状を呈する調査区の北側から表土除去作業を開始し、4日より順次、遺構確認作業に入った。耕作に伴う攪乱はハードローム層にまで及んでおり、特に格子状のトレンチャー跡(幅約25～30cm)は調査区の全域にわたって認められたが、北端を除いた調査区の広い範囲で土坑を中心とする多数の遺構群の分布を確認することができた。試掘段階で大きな攪乱が認められた調査区中央部を中心とする区域でも、攪乱層の下部において10基近い土坑の分布が確認された。

これを受けて10日より調査区南部の土坑群の調査に着手し、順次、遺構調査の範囲を北側に広げていった。3月4日からは土坑群の調査と並行してピット群や屋外炉、および調査区北部の竪穴住居跡の調査に入り、13日には遺構群の調査を完了した。また、同日には調査区南部において基本土層の確認作業(3号テストピット)を実施した。以後、16日に調査区全体の清掃、17日にラジコンによる全体写真の空撮と調査区北部における基本土層確認作業(1・2号テストピット)、18日に残りの写真測量作業と各種記録作業、20日に調査区の埋め戻し作業を行い、全調査を完了した。(林)

## 1-3 整理等作業の経過

整理作業は平成21年3月21日より平成21年8月14日までの約5ヶ月にわたって実施した。

3月21日～5月31日には遺物の洗浄・注記・接合作業および写真整理作業と並んで、写真測量による遺構の図化作業を、STP(デジタル図化解析機)を用いて行った。

6月1日～7月31日には遺構図面の修正・トレース、遺物の実測・トレース、遺物写真の撮影、図版作成、原稿執筆などの作業を行い、8月1日より8月14日にかけて報告書編集作業を実施した。

(林)

## 第2章 遺跡の周辺環境

### 2-1 地理的環境

若林遺跡は、北緯 36 度 22 分 18 秒、東経 140 度 25 分 22 秒（世界測地系）の茨城県水戸市見和 3 丁目地内に所在し、その範囲は東西 200 m、南北 250 m に及ぶ。

若林遺跡が所在する水戸市見和地区は、桜川と沢渡川に挟まれた見和台地の南側、那珂川水系の支流である桜川によって開折された河岸段丘の北岸、標高 33～35 m の台地縁辺部に位置する。

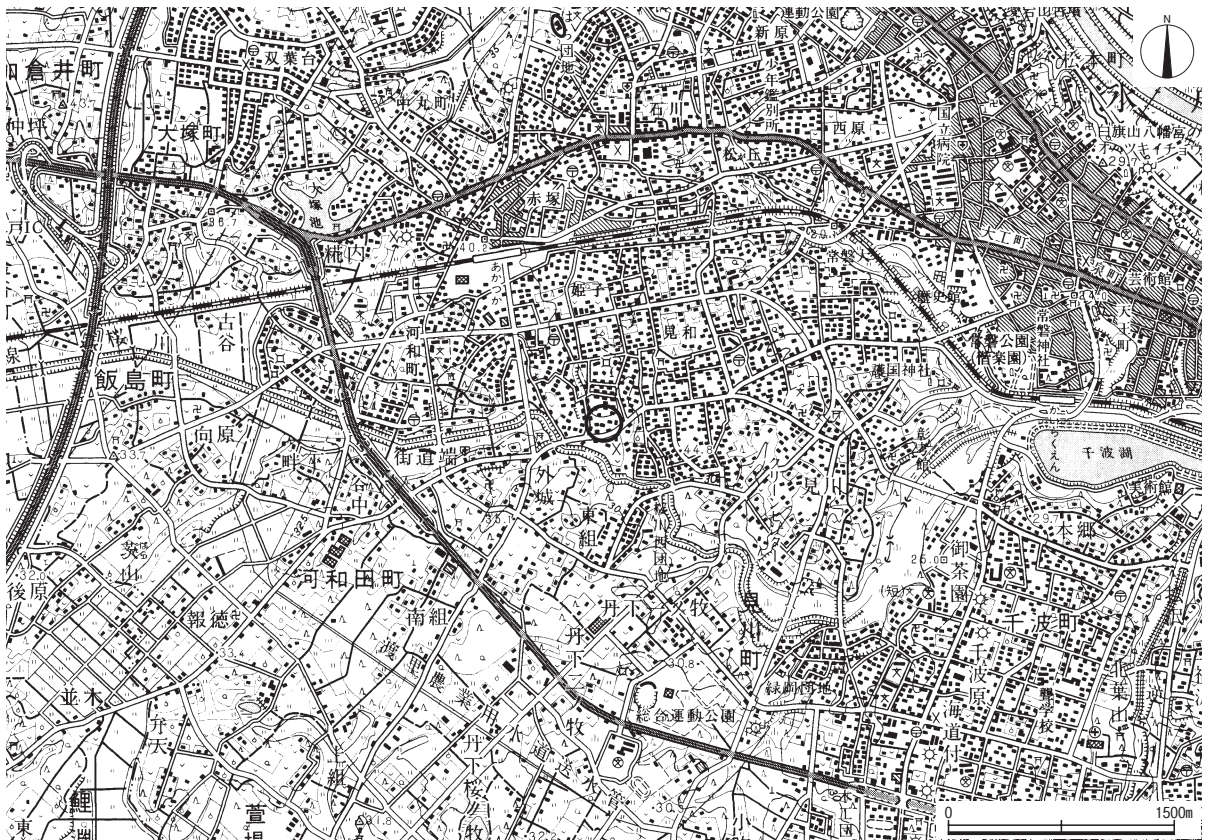
桜川は古くは千波湖を経由して那珂川まで達していたことより、桜川の水運やその水資源の活用を基盤として、古来より発展していた。その流路沿いに多くの遺跡が存在していることからみてもそれを裏付ける。（第2図）

（林）

### 2-2 歴史的環境

若林遺跡の立地する桜川流域の見和台地には先土器時代から近代に至るまでの多数の集落跡や古墳、城館跡などが確認されている（第2図、第1表）。以下、若林遺跡周辺の先土器時代から中・近世遺跡を概観する。

**先土器時代～縄文時代草創期** この時期の遺跡としては赤塚遺跡や松原遺跡、清水遺跡、一本松遺跡、向原遺跡などが挙げられるが、発掘調査が行われた遺跡は赤塚遺跡と松原遺跡である。



第1図 若林遺跡の位置（国土地理院発行 1：50,000「水戸」に加筆）





第2図 若林遺跡と周辺遺跡の位置 (茨城県遺跡地図1:25,000「水戸」に加筆)

第1表 若林遺跡と周辺遺跡一覧

遺跡 番号	遺跡名	所在地	種 類	現 況	時代・時期							備 考
					旧 石	縄 文	弥 生	古 墳	奈 平	中 世	近 世	
014	高天原遺跡	河和田1丁目	集落跡	宅地、畑地		○	○	○				S59～60発掘調査
015	坏遺跡	河和田1,3丁目	集落跡	宅地、畑地		○		○				H8発掘調査
016	若林遺跡	見和3丁目外	集落跡	宅地、畑地		○						
022	愛宕町遺跡	愛宕町愛宕	集落跡	宅地、畑地		○	○	○				
042	赤塚遺跡	河和田町3丁目前原	集落跡	宅地、畑地、山林	○	○		○	○			
083	街道端古墳群	河和田町街道端	古墳群	畑地				○				円墳3、湮滅
084	高天原古墳群	河和田1丁目高天原	古墳群	宅地				○				方墳2、円墳7、湮滅
085	赤塚古墳群	河和田3丁目	古墳群	宅地、公園				○				帆立貝式2、円墳21、一部湮滅
102	河和田城跡	河和田町803外	城館跡	宅地、山林						○		H11年度一部発掘調査
107	台内田遺跡	見川3丁目大内田	集落跡	宅地、畑地		○		○				
139	北原遺跡	中丸町北原	集落跡	宅地、畑地		○		○	○			
144	宮西遺跡	東赤塚	集落跡	宅地		○		○				湮滅
145	巡見遺跡	河和田町巡見	集落跡	宅地		○		○				湮滅
167	杵掛遺跡	見川町杵掛2563外	集落跡	宅地				○				湮滅
173	見川城跡	見川3丁目	城館跡	宅地、畑地						○		

若林遺跡より1.5 kmほど西に位置する赤塚遺跡は3次にわたる発掘調査が行われ、武蔵野台地のⅢ層やⅦ層にあたる石器群が出土している（外山1983）。松原遺跡からは縄文時代草創期にあたる安山岩製の石斧や剥片、頁岩製の石錐が遺構外より出土している（石井1981）。また、清水遺跡と一本松遺跡からも縄文時代草創期にあたる石器が採取されている。

**縄文時代** 縄文時代の遺跡は、高天原遺跡、若林遺跡、坏遺跡、一本松遺跡、赤塚遺跡、山田遺跡、金剛寺遺跡、寺山遺跡、向原遺跡、北原遺跡、巡見遺跡、全隈権現台遺跡、小鍋遺跡、松原遺跡などが該当する。このうち赤塚遺跡、坏遺跡、高天原遺跡、若林遺跡が東西に1.5 kmの範囲に並んで位置していて、当該期における積極的な土地利用がうかがい知れる。

赤塚遺跡では前期の浮島・興津系の土器や晩期の土器が出土している（外山前掲）。

坏遺跡は6次にわたる発掘調査が行われ、第1地点では4軒の住居跡と15基の土坑が検出され、中期の阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期を中心に加曾利E式や大木式の土器が大量に出土している（井上・鈴木1996）。第3地点では8基の袋状土坑と5基の陥し穴状土坑が（小川編2007）、第4地点でも第1地点と同時期の土坑やピットが検出されている。遺物は阿玉台I b式期から加曾利E I式期を中心に勝坂式や中峠式、大木式、後期加曾利B式期の土器が出土している（三輪編2007）。

高天原遺跡では中期の阿玉台Ⅲ式～加曾利E II式期頃の長辺が9.8 mほどの巨大な隅丸方形の住居跡が1軒と大木8 b式期の袋状土坑が4基検出されている（井上1985）。

今回の調査地点である若林遺跡の発掘調査はおこなわれていないが、分布調査で阿玉台～加曾利E式期の土器が採取されている。

**弥生時代** 弥生時代の遺跡は高天原遺跡、赤塚遺跡、堀遺跡、飯島町遺跡、仙光寺遺跡、清水遺跡、山田遺跡、向原遺跡、毛勝谷原遺跡、松原遺跡、大塚新地遺跡などが挙げられる。このうち、発掘調査は数例である。

大塚新地遺跡では後期の住居跡が10軒、土坑50基、中期の壺棺墓が1基確認されていて（渡辺1981）、この付近の中心的な集落跡と考えられている。しかし全体的に水戸市域での弥生時代は低調で、



若林遺跡の周辺では高天原遺跡で後期の土器や石器が出土しているのみである。

堀遺跡からは、弥生時代後期の竪穴住居跡が1軒検出されており、弥生土器の壺2個体と土師器の壺と埴が共伴して出土している（井上編 1995）。

**古墳時代** この時期の遺跡は、高天原遺跡、坏遺跡、一本松遺跡、赤塚遺跡、堀町西古墳、下荒匂古墳群、街道端古墳群、高天原古墳群、赤塚古墳群、飯島町遺跡、仙光内遺跡、清水遺跡、釜久保遺跡、寺山遺跡、峯山古墳、向原遺跡、北原古墳群、北原遺跡、巡見遺跡、山田A古墳群、大久保遺跡、小鍋遺跡、大久保古墳群、毛勝谷原遺跡、毛勝谷原古墳群、松原遺跡、稲荷塚古墳群、飯島町古墳群などがあげられる。若林遺跡の周辺では集落として、前期が15軒、中期が2軒、後期が27軒の住居跡や前期の方形周溝墓1基を検出している大塚新地遺跡があげられる。古墳としては23基の古墳が確認されている赤塚古墳群や9基の古墳が確認されている高天原古墳群、3基の古墳が確認されている飯島町古墳群が挙げられる。集落跡は若林遺跡周辺では大塚新地遺跡以外は概ね低調である。

**奈良・平安時代** この時期の遺跡は、赤塚遺跡、坏遺跡、堀遺跡、堀町西古墳、仙光内遺跡、池上遺跡、釜久保遺跡、金剛寺遺跡、開江宿遺跡、松原遺跡、大塚新地遺跡などが挙げられる。この時期は若林遺跡西方の台渡里廃寺跡近隣が当該期の中心であったと考えられる。そのような中、赤塚遺跡では当該期の火葬墓および10基の墓抗が検出され（外山前掲）、坏遺跡から奈良時代の住居跡が1軒検出されている（井上・鈴木前掲）ことなど、注目すべき成果も見られる。

**中世～近世** 中世～近世の遺跡は河和田城跡を中心に、金剛寺遺跡、淡島神社経塚、経塚遺跡、街道端愛宕神社塚などが挙げられる。このうち、淡島神社経塚、経塚遺跡、街道端愛宕神社塚は河和田城の近接地である。河和田城跡は桜川南岸の台地上に位置し、城下を走る岩間街道を含め当該期の中心が桜川南岸であることが確実である。桜川北岸においては高天原遺跡において塚が確認され、カラケを中心に土器も出土している（井上 1985）。（関口）

# 第3章 調査の方法と成果

## 3-1 調査の方法

調査区の座標は公共座標（世界測地系）を基準に設定した。

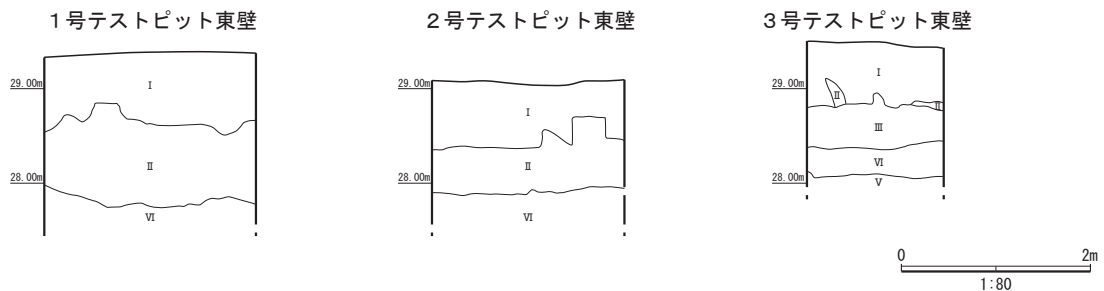
調査対象地は、東西約 25 m，南北約 70 m，幅約 6 m の L 字状を呈する道路予定地，および道路予定地に付随する約 4 × 2 m の排水柵設置予定地 11 ヶ所であり，両者をあわせた調査総面積は 646.19 m<sup>2</sup>を測る。

調査にあたっては，重機を用いて表土（耕作土）を除去した後，主として人力による遺構確認面までの掘り下げを行った。包含層および遺構内出土遺物については，原則として光波測量機を用いて全点三次元記録を実施した。また，遺構についてはデジタルカメラによる写真測量と，手実測作業を併用した。写真撮影にあたっては 35 mmモノクロフィルム，35 mmカラーリバーサルフィルム，デジタルカメラ（1,300 万画素）を併用し，適宜，記録撮影を行った。（林）

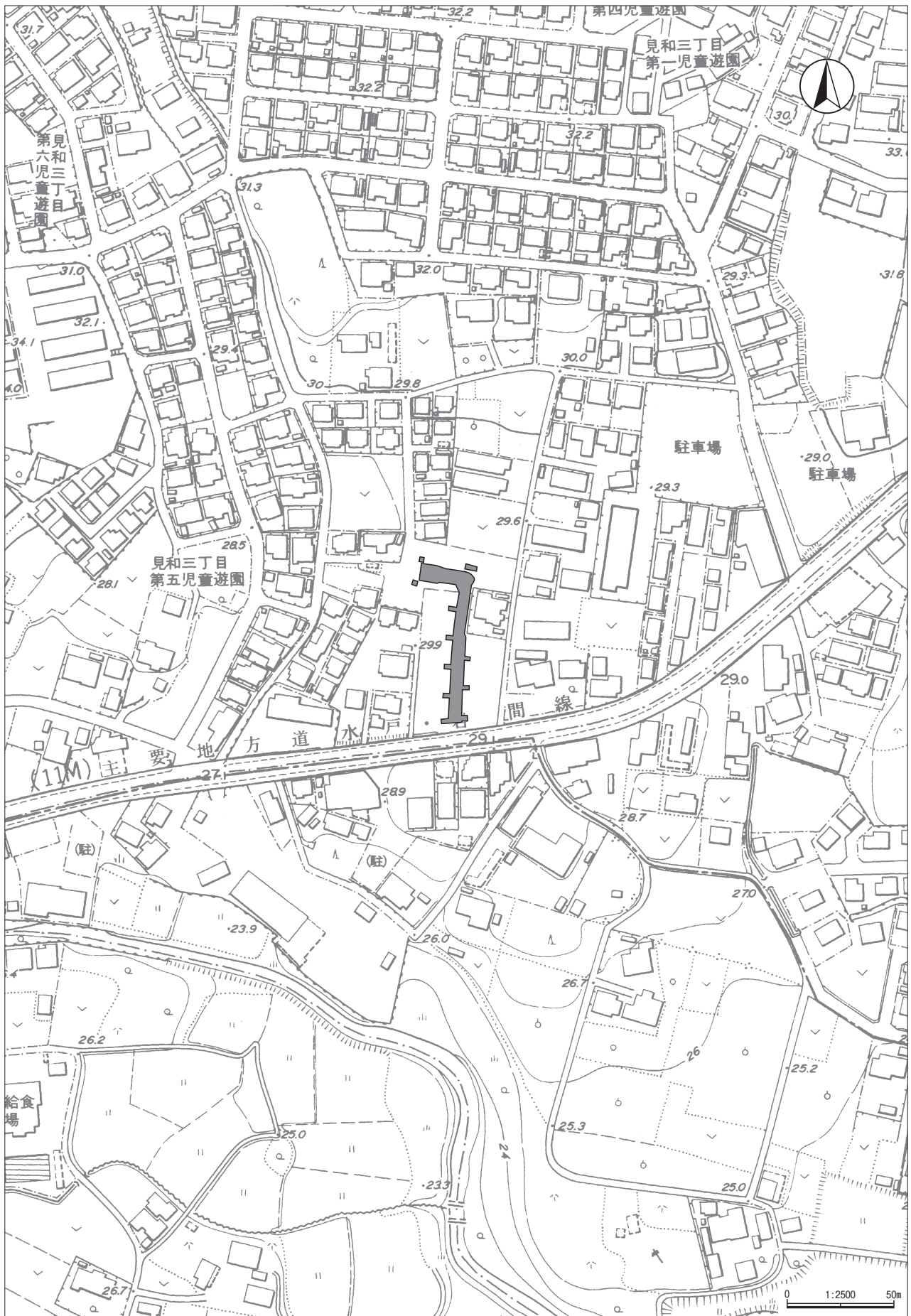
## 3-2 基本土層

調査区の北部に 2 ヶ所（1・2号テストピット），南部に 1 ヶ所（3号テストピット），あわせて 3 ヶ所にわたり基本土層確認のためのテストピットを深く設け，土層観察作業を行った。基本土層の概要は以下の通りである。

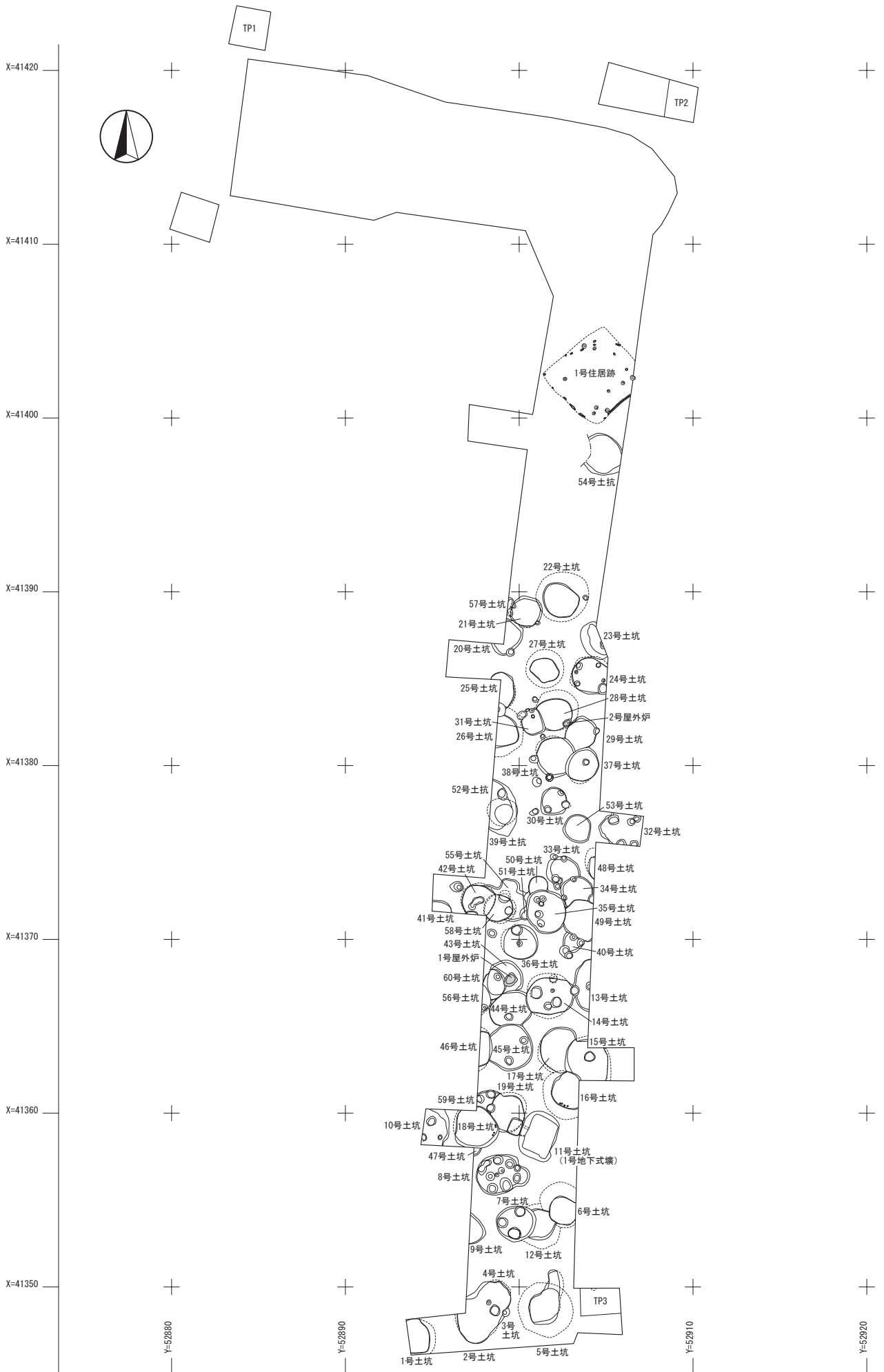
- I 層 表土層（近・現代の耕作土層）
- II 層 10YR5/8 黄褐色土層 ロームブロックを少量含む。粘性をもち，ややしまる。
- III 層 10YR5/8 黄褐色ローム層 白・赤・黒色スコリアを少量含む。粘性をもち，硬くしまる。
- IV 層 鹿沼軽石層
- V 層 10YR4/4 暗褐色ローム層 鹿沼軽石粒を微量含む。粘性をもち，しまる。
- VI 層 2.5YR8/8 灰白色ローム層 粘土を多量含む。粘性をもち，しまる。（林）



第3図 基本土層図

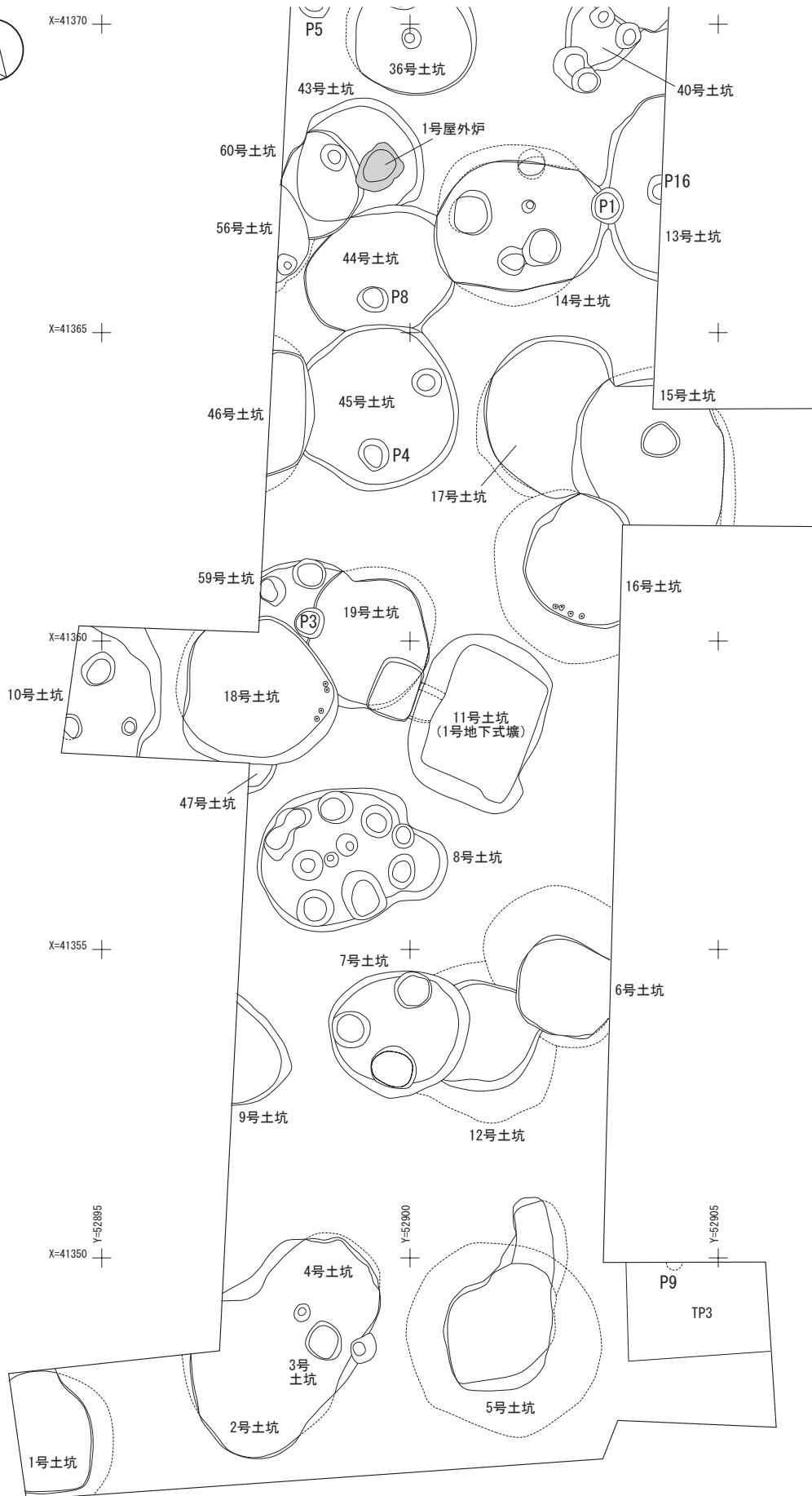


第4図 調査区の位置

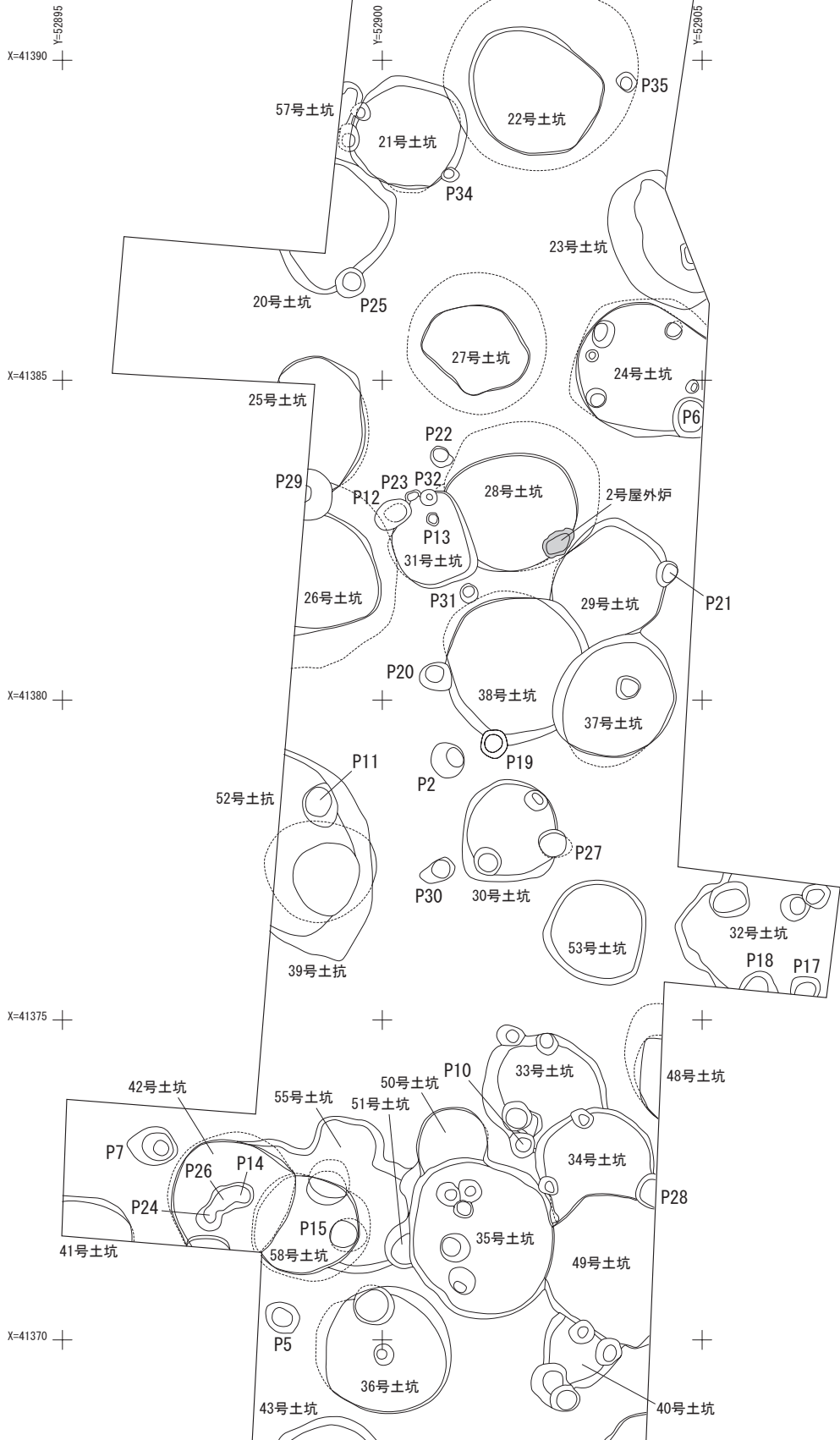


第5図 調査区方眼図

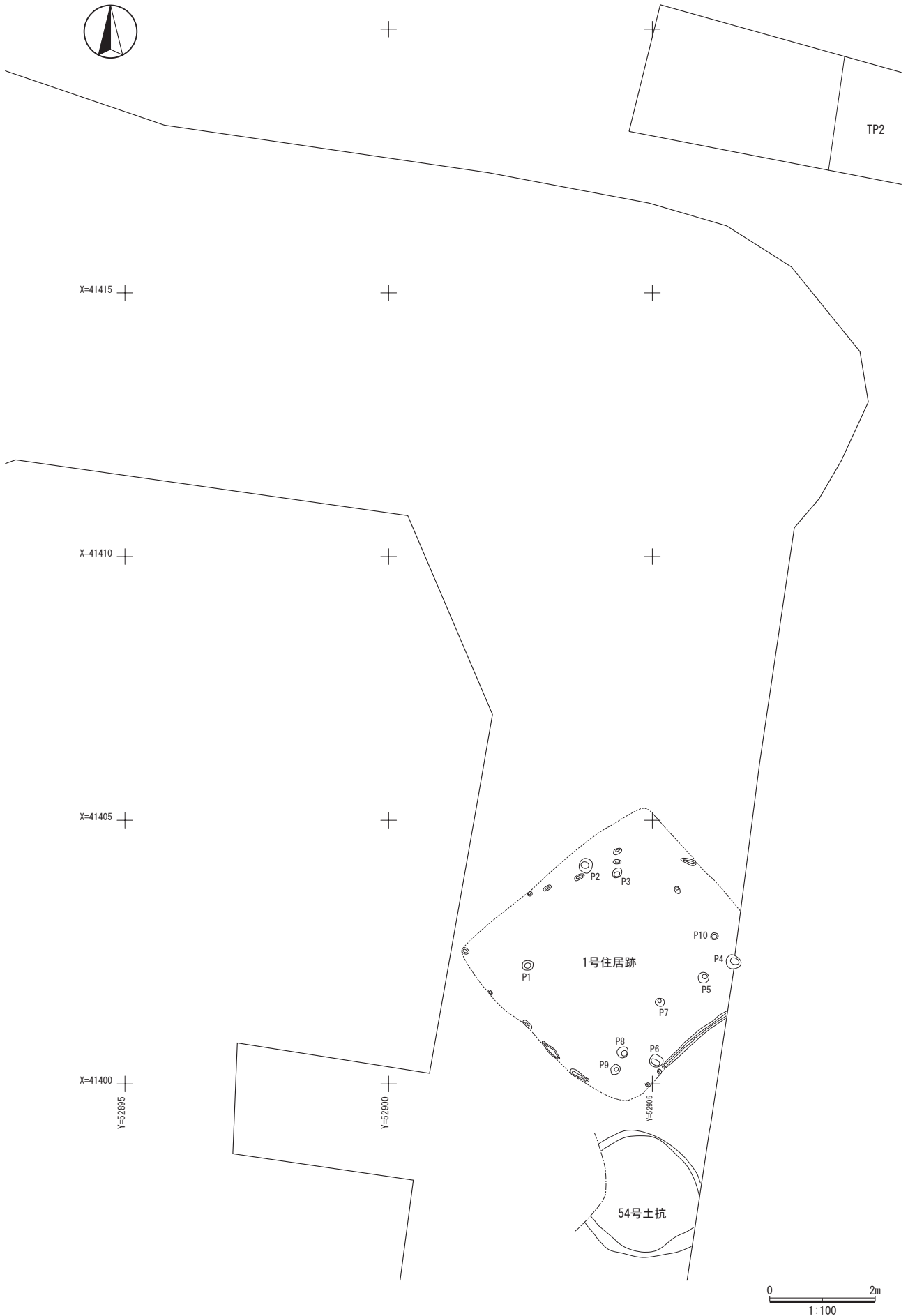




第6図 遺構分布図 (調査区南部)



第7図 遺構分布図 (調査区中央部)



第8図 遺構分布図 (調査区北部)

### 3-3 遺構

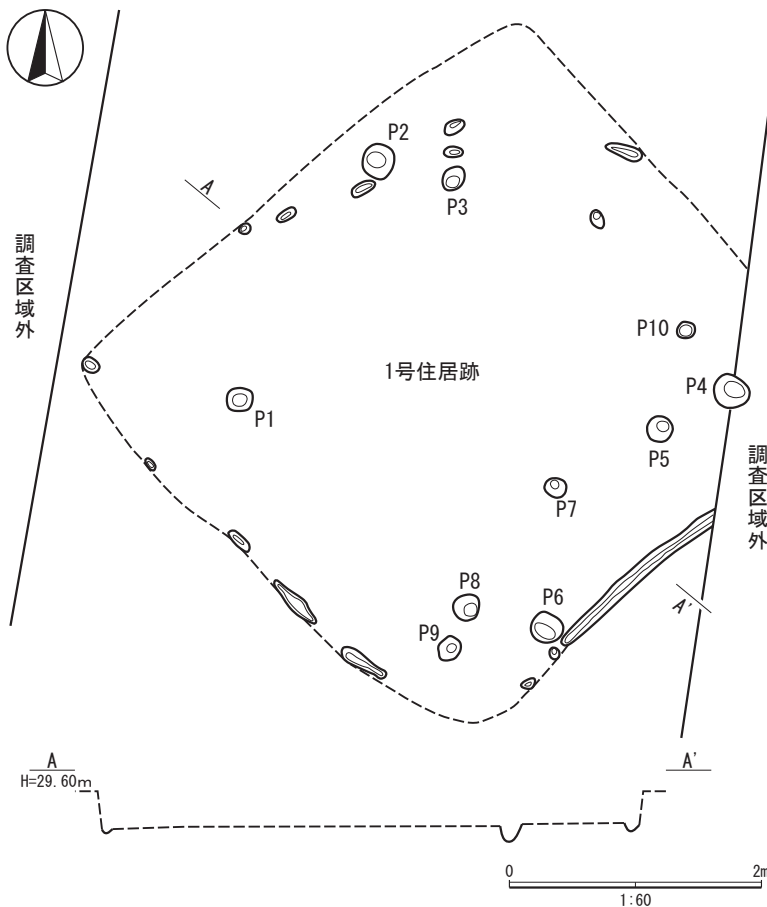
調査区より検出された遺構の内訳は、竪穴住居跡1軒、土坑60基、屋外炉2基、ピット34基である。ただし、調査区南部に位置する11号土坑は中世の地下式壙としてとらえられるものであることから、本報告では当該土坑を1号地下式壙と改称し、残る59基の土坑との区分を行うことにした。地下式壙を除くと、竪穴住居跡や土坑群、屋外炉は、縄文時代中期に位置づけられるものが多い。屋外出土のピット群は、土坑群との切り合い関係や覆土のあり方などから大部分が中世以降の所産であったと考えられる。

空間的には土坑群や屋外炉は調査区の南部から中央部にかけて分布する傾向を示すのに対し、竪穴住居跡は土坑群の北側に単独で分布しており、その北側からは遺構は一切検出されなかった。なお、屋外炉については、周囲に明確な床面や掘り込み等が認められなかった為、屋外炉としたが、竪穴住居跡の壁が削平されたのもである可能性があることを明記しておく。

ピット群も土坑群と混在するように調査区の南部から中央部にかけて広がっており、さらに中世の地下式壙が調査区の南部に単独で分布する。

#### (1) 竪穴住居跡

1号竪穴住居跡 調査区北部のもっとも南寄りに位置する。南側に近接して54号土坑が分布する。



第9図 1号竪穴住居跡

上面を大きく削平されており、掘り込み面は不明である。周溝の一部が確認されただけであり、覆土や壁、床面、炉址などは残存していない。平面形は推定長軸440cm、推定短軸420cmの隅丸状の方形を呈するものと思われる。推定長軸方向はN-50°-Eである。周溝は確認部を途切れ途切れに巡る。幅6~11cm、深さ5~10cmを測る。住居内より合計10基のピットが検出された。口径13~32cm、深さ15~81cmを測る。壁寄りに分布するが、配列に明瞭な規則性は認められない。ピット内には少量のローム粒を含む暗褐色土が堆積していた。粘性をもち、しまる。遺物はP2内より縄文土器片

1点が出土しているが、細片のため、図示するまでには至らなかった。出土遺物や遺構の形状、覆土のあり方などから判断して縄文時代中期前葉・阿玉台式土器の時期の所産であった可能性が高い。

## (2) 土坑

前述した通り調査段階で確認された土坑の総数は合計60基にのぼるが、調査区南部より検出された11号土坑は中世の地下式墳としてとらえられるものであり、残る59基の土坑とは性格を大きく異にすることから、1号地下式墳として別項で改めて説明を加えることにする。以上の土坑群は調査区北部の1号竪穴住居跡に南接する54号土坑を除いて調査区の南部から中央部にかけて密集分布する姿をみせており、1号竪穴住居跡より北側からの検出例は認められない。平面形は円形ないし楕円形を主体とするのに対し、断面形は円筒状、鍋底状、袋状、フラスコ状ときわめて多様である。その中でも口径が底径よりも小さい袋状、口径がさらに狭まり頸部が細くくびれるフラスコ状といった特徴的な土坑の分布が目立つが、耕作などによって上面を削平されたものや上部が崩れたものが多く、両者の厳密な区分は難しい。土坑からは阿玉台式をはじめとして勝坂式、大木式、加曾利E式土器などが出土しており、縄文時代中期前葉～後葉を中心とする時期の所産であった可能性が高い。唯一、47号土坑のみ覆土のあり方などから近代の芋穴であったと考えられる。土坑群の詳細については第2表の土坑一覧を参照されたい。

第2表 土坑一覧

番号	位置	平面形態	断面形態	口径長軸 (cm)	口径短軸 (cm)	底径長軸 (cm)	底径短軸 (cm)	深さ (cm)	底部の標高 (m)	内部施設	出土遺物	時期	備考
1号	南端	推定円形	フラスコ状	<208>	—	<202>	—	71	28.38		縄文土器片98点, 磨石1点, 凹石1点, R・F1点, 剥片1点, 礫48点	中期・阿玉台期	
2号	南端	推定円形	袋状	(204)	—	(224)	—	90	28.43		縄文土器片154点, 磨製石斧1点, 磨石2点, 礫51点(2～4号土坑出土遺物混在)	中期・阿玉台～加曾利E期	3号土坑に切られる。
3号	南端	推定円形	袋状	(140)	—	(166)	—	90	28.43	開口部に1基, 坑底に2基のピット	縄文土器片154点, 磨製石斧1点, 磨石2点, 礫51点(2～4号土坑出土遺物混在)	中期・阿玉台～加曾利E期	2・4号土坑を切る。
4号	南端	推定円形	袋状	(98)	—	(122)	—	74	28.43		縄文土器片154点, 磨製石斧1点, 磨石2点, 礫51点(2～4号土坑出土遺物混在)	中期・阿玉台～加曾利E期	3号土坑に切られる。
5号	南端	楕円形	フラスコ状	225	174	319	298	108	28.11	北側に張り出し部	縄文土器片765点, 磨石11点, 敲石1点, 蜂の巣石1点, 台石1点, 礫70点	中期・阿玉台～加曾利E期	覆土中層に略完形土器6点集中。
6号	南部	推定円形	フラスコ状	175	—	252	—	88	28.12		縄文土器片108点, R・F1点, 剥片6点, 礫29点	中期・阿玉台期	12号土坑を切る。
7号	南部	円形	円筒状	218	207	200	181	50	28.45	坑底にピット3基	縄文土器片78点, 磨石4点, R・F1点, 礫70点	中期・加曾利E期	12号土坑を切る。北側覆土中層に遺物集中。底面近くより略完形土器1点出土。
8号	南部	不整楕円形	円筒状	300	230	282	220	42	28.60	坑底にピット10基	縄文土器片218点, 磨石8点, 敲石1点, 台石1点, 剥片12点, 礫415点	中期・加曾利E期	底面に小礫集中。東側に張り出し部。

法量の( )は推定値, < >は残存値

番号	位置	平面形態	断面形態	口径長軸 (cm)	口径短軸 (cm)	底径長軸 (cm)	底径短軸 (cm)	深さ (cm)	底部の標高 (m)	内部施設	出土遺物	時期	備考
9号	南部	推定楕円形	円筒状	(180)	—	(162)	—	62	28.37		縄文土器片 11 点, 磨石 1 点, 剥片 1 点, 礫 15 点	中期・阿玉台~加曽利 E 期	
10号	南部	不整楕円形	鍋底状	<208>	—	<200>	—	40	28.67	坑底にピット 3 基	縄文土器片 47 点, 磨石 3 点, 蜂の巣石 1 点, 台石 1 点, 礫 5 点	中期・加曽利 E 期	
11号	南部										縄文土器片 70 点, 須恵器片 1 点, 打製石斧 1 点, 磨石 22 点, 敲石 1 点, 凹石 1 点, 台石片 10 点	中世	1号地下式墳
12号	南部	楕円形	フラスコ状	<180>	—	260	—	60	28.24		縄文土器片 296 点, 磨石 1 点, 剥片 1 点, 礫 37 点	中期・阿玉台期	6・7号土坑に切られる。底面近くより略完形土器 3 点出土。うち 1 点は逆位の深鉢。
13号	南部	推定楕円形	鍋底状	<300>	—	<286>	—	67	28.75		縄文土器片 65 点, 凹石 1 点, 蜂の巣石 1 点, 剥片 1 点, 礫 14 点	中期・加曽利 E 期	14号土坑, 1号ピットを切り, 16号ピットに切られる。覆土中層より略完形土器 1 点出土。
14号	南部	楕円形	袋状	286	212	270	262	76	28.36	坑底にピット 5 基	縄文土器片 245 点, 打製石斧 1 点, 磨石 2 点, R・F1 点, 剥片 5 点, 礫 31 点	中期・阿玉台期	13・44号土坑, 1号ピットに切られる。
15号	南部	楕円形	袋状	240	—	292	—	76	28.38	坑底にピット 1 基	縄文土器片 137 点, 磨石 3 点, 凹石 1 点, 剥片 2 点, 礫 38 点	中期・阿玉台~加曽利 E 期	16・17号土坑を切る。
16号	南部	推定円形	フラスコ状	220	241	286	—	100	28.01	壁に沿って坑底に小ピット 4 基	縄文土器片 119 点, 敲石 1 点, 蜂の巣石 1 点, 礫 41 点	中期・阿玉台~加曽利 E 期	15号土坑に切られる。
17号	南部	楕円形	袋状	262	—	275	—	51	28.63		縄文土器片 5 点, 礫 2 点	中期・阿玉台期	15号土坑に切られる。
18号	南部	略円形	袋状	250	241	265	220	40	28.60	壁に沿って坑底に小ピット 4 基	縄文土器片 56 点, 磨石 1 点, 凹石 1 点, 礫 13 点	中期・阿玉台期	59号土坑を切り, 47号土坑に切られる。南側底面より略完形土器 1 点出土。
19号	南部	略円形	袋状	204	198	226	195	58	28.47		縄文土器片 25 点, 磨石 1 点, 台石 2 点, 礫 6 点	中期・阿玉台~加曽利 E 期	18・59号土坑, 1号地下式墳, 3号ピットに切られる。
20号	中央部	楕円形	円筒状	200	—	172	—	42	28.85		縄文土器片 104 点, 台石 1 点, 礫 1 点	中期・阿玉台~加曽利 E 期	57号土坑, 25号ピットに切られる。
21号	中央部	略円形	円筒状	172	168	163	154	30	29.01	坑底にピット 2 基	縄文土器片 102 点, 磨石 2 点, 剥片 1 点, 礫 14 点	中期・阿玉台~加曽利 E 期	57号土坑, 34号ピットに切られる。
22号	中央部	楕円形	フラスコ状	218	190	290	284	96	28.37		縄文土器片 122 点, 剥片 1 点, 礫 11 点	中期・阿玉台~加曽利 E 期	35号ピットに切られる。
23号	中央部	楕円形	鍋底状	218		190		106	28.71	坑底にピット 1 基	縄文土器片 74 点, 礫 4 点	中期・阿玉台~加曽利 E 期	
24号	中央部	楕円形	袋状	<208>	200	<218>	205	84	28.66		縄文土器片 392 点, 打製石斧 1 点, 磨石 1 点, 敲石 1 点, 蜂の巣石 2 点, 礫 31 点	中期・阿玉台~加曽利 E 期	6号ピットに切られる。北側覆土層に遺物集中。
25号	中央部	楕円形	円筒状	190	—	181	—	44	28.77		縄文土器片 126 点, 磨石 1 点, 剥片 1 点, 礫 19 点	中期・阿玉台~加曽利 E 期	26号土坑, 29号ピットに切られる。
26号	中央部	楕円形	フラスコ状	232	—	<280>	—	164	27.88		縄文土器片 157 点, 打製石斧 1 点, 礫 7 点	中期・阿玉台~加曽利 E 期	25号土坑を切り, 29号ピットに切られる。

質量の ( ) は推定値, < > は残存値

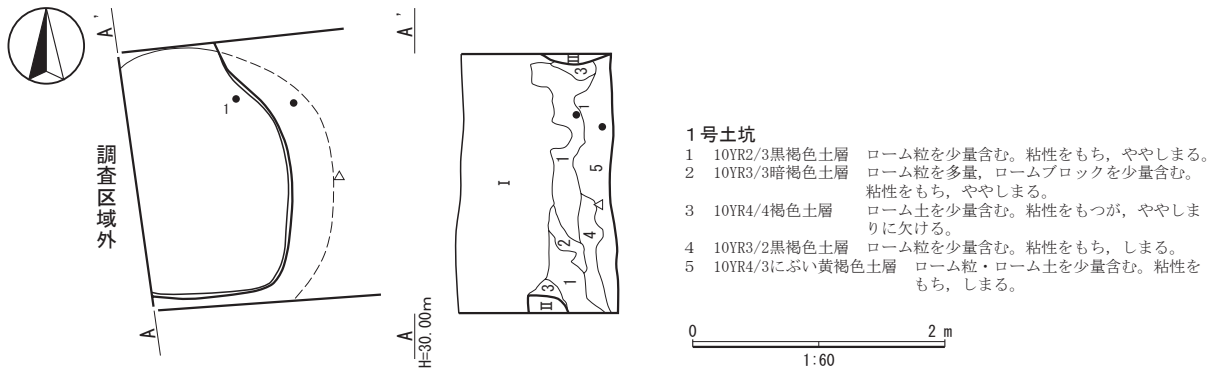
番号	位置	平面形態	断面形態	口径長軸 (cm)	口径短軸 (cm)	底径長軸 (cm)	底径短軸 (cm)	高さ (cm)	底部の標高 (m)	内部施設	出土遺物	時期	備考
27号	中央部	楕円形	フラスコ状	168	138	218	215	62	28.61		縄文土器片 98点, 剥片 3点, 礫 10点	中期・阿玉台~加曾利E期	
28号	中央部	円形	フラスコ状	(200)	181	254	233	66	28.56		縄文土器片 153点, 石鏃 1点, 磨製石斧 1点, 台石 2点, 礫 12点	中期・加曾利E期	31号土坑・2号屋外炉に切られる。底面より略完形土器 1点出土。
29号	中央部	楕円形	円筒状	(200)	172	180	168	44	28.86		縄文土器片 62点, 礫 28点	中期・阿玉台~加曾利E期	37・38号土坑, 21号ピットに切られる。
30号	中央部	楕円形	円筒状	168	148	140	136	56	28.65	坑底にピット 2基	縄文土器片 302点, 打製石斧 2点, 磨石 17点, 敲石 3点, 凹石 1点, 台石 1点, 礫 39点	中期・加曾利E期	覆土中層に小礫が集中。27号ピットに切られる。
31号	中央部	楕円形	袋状	146	120	156	121	42	28.73		縄文土器片 21点, 磨製石斧 1点, 磨石 2点, 礫 18点	中期・加曾利E期	28号土坑を切り, 12・13・23・32号ピットに切られる。
32号	中央部	不整楕円形	鍋底状	<246>	—	<236>	—	34	28.92	坑底にピット 3基	縄文土器片 63点, 磨製石斧 1点, 凹石 1点, 剥片 3点, 礫 6点	中期・阿玉台~加曾利E期	17・18号ピットに切られる。
33号	中央部	楕円形	円筒状	<181>	—	<134>	—	30	28.92	壁際にピット 1基, 坑底にピット 3基	縄文土器片 123点, 剥片 2点, 礫 7点	中期・加曾利E期	34号土坑, 10号ピットに切られる。
34号	中央部	推定円形	円筒状	<183>	—	<164>	—	51	28.73	坑底にピット 2基	縄文土器片 82点, 礫 4点	中期・加曾利E期	33・49号を切り, 28号ピットに切られる。
35号	中央部	楕円形	円筒状	254	222	240	216	44	28.74	坑底にピット 5基	縄文土器片 245点, 磨製石斧 1点, 磨石 1点, 礫 35点	中期・加曾利E期	50・51号土坑を切り, 49号土坑に切られる。
36号	中央部	円形	袋状	198	—	212	—	66	28.42	坑底にピット 2基	縄文土器片 103点, 礫 2点	中期・阿玉台~加曾利E期	
37号	中央部	楕円形	袋状	200	182	(202)	175	54	28.81	ピット 1基	縄文土器片 122点, 剥片 3点, 礫 10点	中期・加曾利E期	29・38号土坑を切る。
38号	中央部	円形	袋状	232	—	245	—	64	28.59		縄文土器片 376点, 磨製石斧 1点, 磨石 3点, R・F 1点, 剥片 1点, 礫 8点	中期・阿玉台~加曾利E期	29号土坑を切り, 19・20・31号ピット, 37号土坑に切られる。覆土中層より略完形土器 1点出土。
39号	中央部	楕円形	フラスコ状	112	100	174	158	70	28.04		縄文土器片 92点, 磨石 1点, 剥片 3点, 礫 30点	中期・阿玉台~加曾利E期	52号土坑, 11号ピットに切られる。
40号	中央部	推定楕円形	円筒状	<120>	—	<92>	—	65	28.98	壁際にピット 2基, 坑底にピット 2基	縄文土器片 14点, 礫 2点	中期・阿玉台~加曾利E期	49号土坑に切られる。
41号	中央部	推定楕円形	袋状	<112>	—	<116>	—	118	28.34		縄文土器片 119点, 礫 3点	中期・加曾利E期	覆土中層に遺物集中。
42号	中央部	楕円形	袋状	(186)	—	(200)	—	60	28.52	坑底にピット 1基	縄文土器片 133点, 凹石 1点, 台石 1点, 礫 18点	中期・阿玉台期	55・58号土坑に切られる。覆土中層より略完形土器 1点出土。
43号	南部	推定楕円形	円筒状	<204>	—	<182>	—	30	28.80	坑底にピット 1基	縄文土器片 63点, 磨石 1点, 剥片 1点, 礫 23点	中期・阿玉台期	60号土坑を切り, 44号土坑・1号屋外炉に切られる。
44号	南部	楕円形	円筒状	(252)	202	(218)	198	40	28.65		縄文土器片 39点, 礫 11点	中期・阿玉台期	14・43号土坑を切り, 45・60号土坑, 8号ピットに切られる。
45号	南部	円形	円筒状	268	—	248	—	48	28.61	坑底にピット 1基	縄文土器片 57点, 磨石 1点, 石皿 1点, 台石 1点, R・F 1点, 剥片 1点, 礫 11点	中期・阿玉台期	44号土坑を切り, 46号土坑, 4号ピットに切られる。

法量の ( ) は推定値, < > は残存値



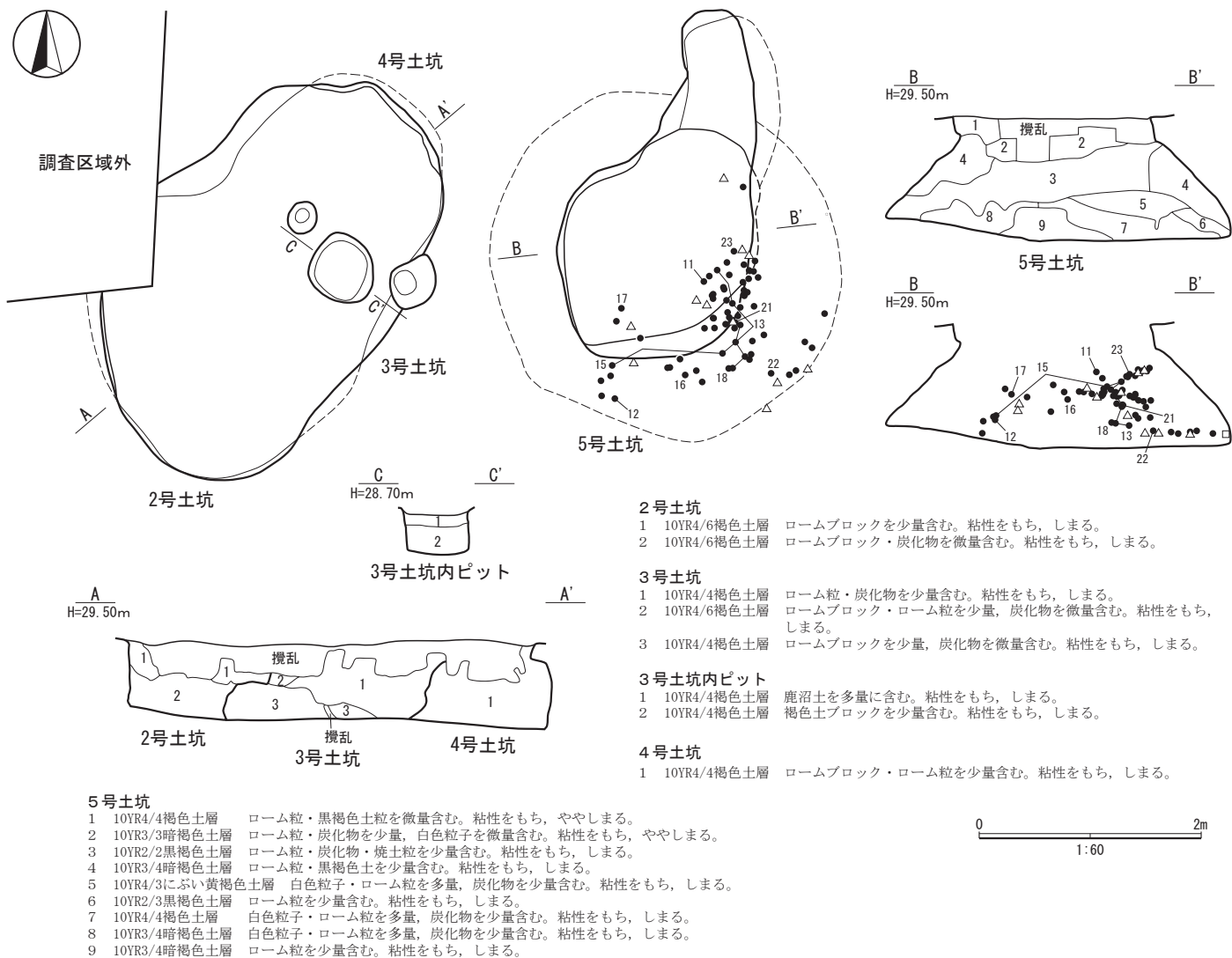
番号	位置	平面形態	断面形態	口径長軸 (cm)	口径短軸 (cm)	底径長軸 (cm)	底径短軸 (cm)	深さ (cm)	底部の標高 (m)	内部施設	出土遺物	時期	備考
46号	南部	推定楕円形	袋状	<202>	—	<252>	—	54	28.51		縄文土器片 14 点, 磨石 2 点, 台石 1 点, 礫 6 点	中期・阿玉台~加曾利 E 期	45 号土坑を切る。
47号	南部	推定円形	円筒状	<122>	—	120	—	28	28.78		—	近代	18 号土坑を切る。
48号	中央部	推定楕円形	フラスコ状	<122>	—	<178>	—	94	28.30		縄文土器片 58 点, 磨石 1 点, 台石 1 点, 礫 14 点	中期・阿玉台期	
49号	中央部	推定楕円形	円筒状	<248>	—	<235>	—	62	28.75		縄文土器片 157 点, 打製石斧 1 点, 磨石 1 点, 石皿 1 点, 礫 16 点	中期・加曾利 E 期	35・40 号土坑を切り, 34 号土坑, 28 号ピットに切られる。覆土中層に遺物集中。
50号	中央部	楕円形	円筒状	<114>	—	<110>	—	26	28.79		縄文土器片 76 点, R・F 1 点, 礫 2 点	中期・阿玉台期	35 号土坑に切られる。
51号	中央部	推定楕円形	鍋底状	<66>	—	<46>	—	36	28.87		—	中期・阿玉台~加曾利 E 期	35 号土坑に切られる。
52号	中央部	不整楕円形	円筒状	<340>	—	<280>	—	50	28.66		縄文土器片 127 点, 打製石斧 1 点, 磨石 2 点, 凹石 1 点, 台石 1 点, 剥片 3 点, 礫 16 点	中期・加曾利 E 期	39 号土坑を切り, 11 号ピットに切られる。
53号	中央部	楕円形	鍋底状	160	158	140	138	<5>	29.11		—	中期・阿玉台~加曾利 E 期	
54号	北部	円形	円筒状	234	—	216	—	44	29.01		縄文土器片 246 点, 磨石 2 点, 剥片 2 点, 礫 10 点	中期・阿玉台~加曾利 E 期	調査区北部に単独で分布。北側に近接して 1 号竪穴住居。
55号	中央部	不定形	円筒状	(264)	—	<260>	—	<5>	29.01	北側に張り出し部	縄文土器片 2 点, 礫 2 点	中期・阿玉台~加曾利 E 期	42・58 号土坑を切り, 35 号土坑に切られる。
56号	南部	推定楕円形	袋状	<146>	—	<166>	—	50	28.66	ピット 1 基	縄文土器片 73 点, 磨石 4 点, 凹石 1 点, 蜂の巣石 1 点, R・F 1 点, 剥片 2 点, 礫 6 点	中期・阿玉台期	60 号土坑を切り, 43・44 号土坑に切られる。
57号	中央部	推定楕円形	円筒状	<125>	—	<110>	—	40	29.21		縄文土器片 2 点	中期・阿玉台~加曾利 E 期	20・21 号土坑を切る。
58号	中央部	円形	袋状	162	—	180	—	38	28.58	坑底にピット 1 基	縄文土器片 49 点, 磨石 1 点, 礫 11 点	中期・阿玉台~加曾利 E 期	42 号土坑を切り, 50 号土坑, 15 号ピットに切られる。
59号	南部	推定円形	鍋底状	<134>	—	<126>	—	42	28.70	坑底にピット 2 基	—	中期・阿玉台~加曾利 E 期	18・19 号土坑を切り, 3 号ピットに切られる。
60号	南部	推定楕円形	フラスコ状	<140>	—	<120>	—	52	28.56		—	中期・阿玉台期	44 号土坑を切り, 56 号土坑に切られる。

法量の ( ) は推定値, < > は残存値

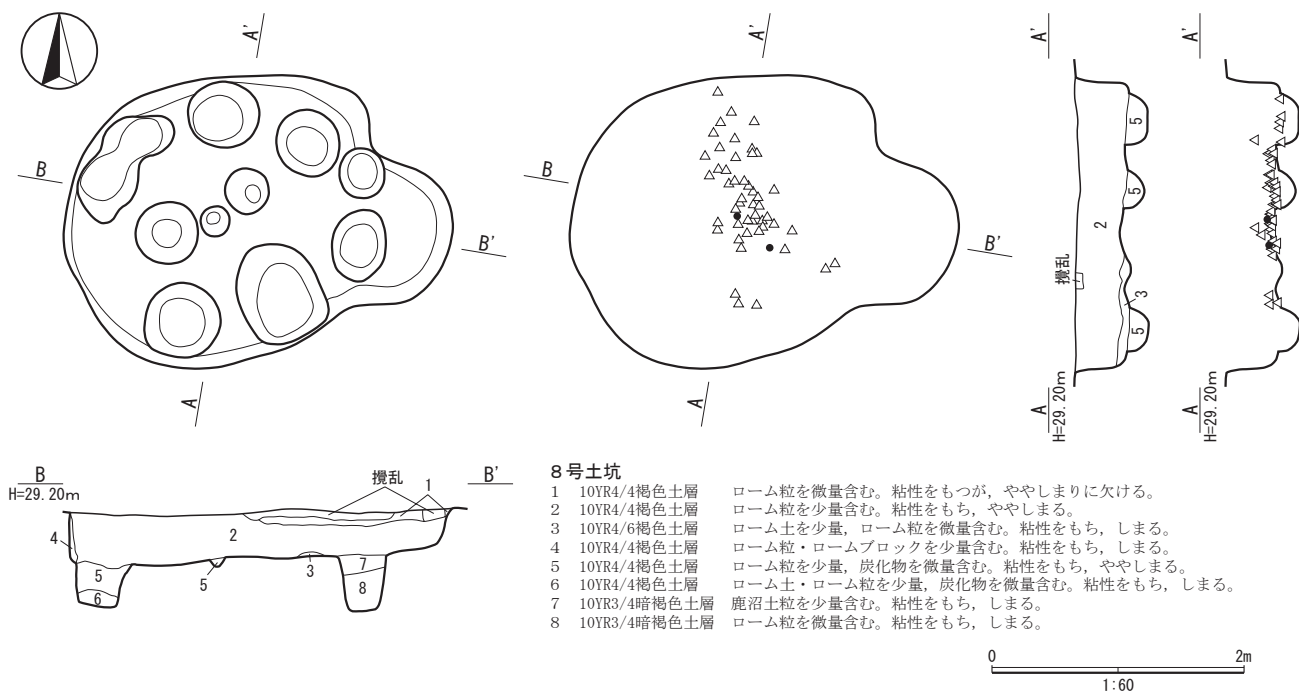


第 10 図 1 号土坑

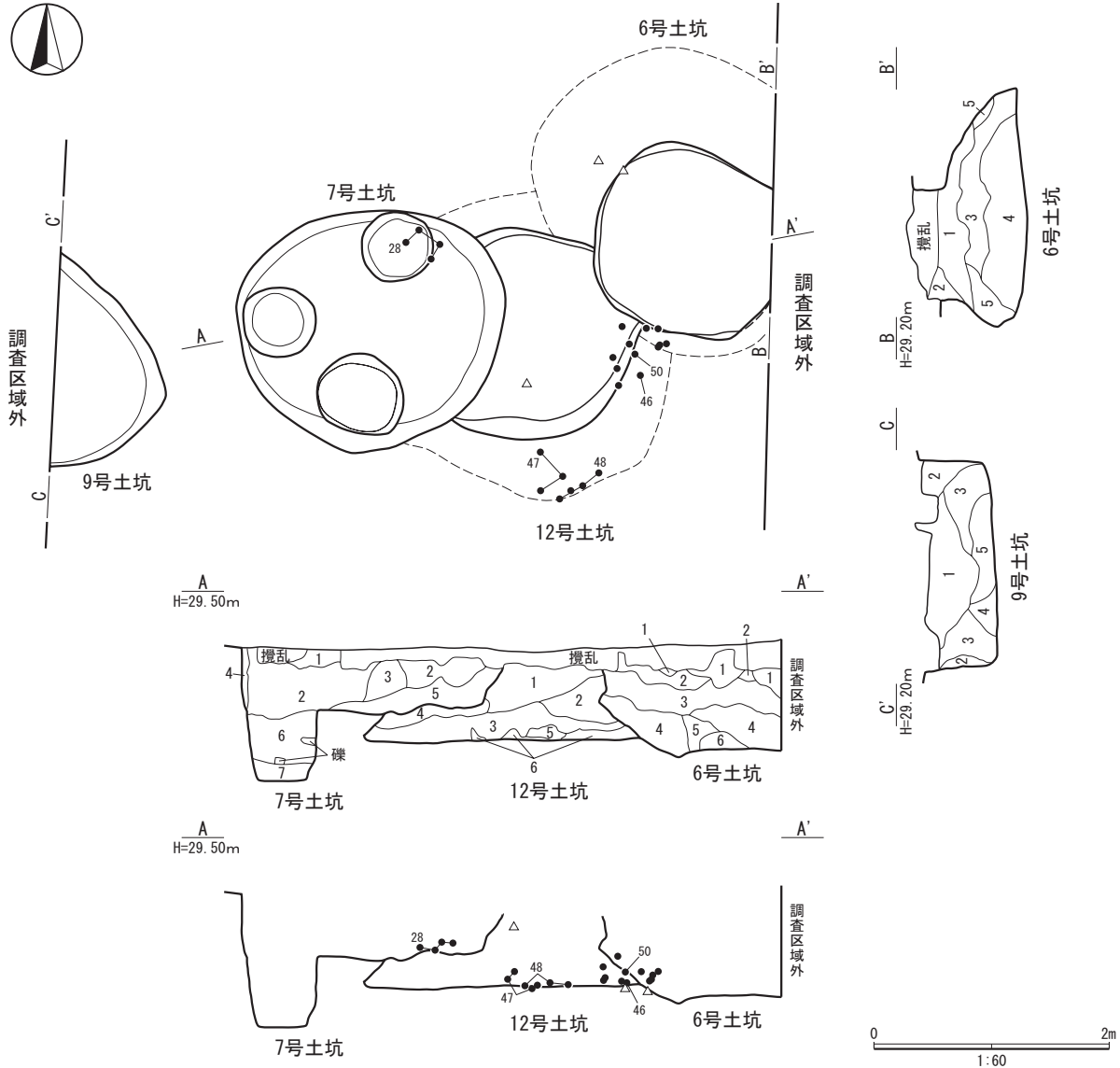




第11図 2～5号土坑



第12図 8号土坑



**6号土坑**

- 1 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒を少量、ロームブロックを微量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・白色粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR4/6褐色土層 ローム粒を多量に、炭化物を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 4 10YR4/4褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 5 10YR4/6褐色土層 ローム粒・ロームブロックを多量に含む。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。
- 6 10YR4/4褐色土層 ローム粒・鹿沼土粒を少量含む。粘性をもち、しまる。

**7号土坑**

- 1 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・白色粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR4/6褐色土層 ロームブロックを多量に、ローム粒を少量含む。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。
- 3 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 4 10YR5/8黄褐色土層 暗褐色土を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 5 10YR2/2黒褐色土層 ローム粒・鹿沼土粒を少量、ロームブロックを微量含む。粘性をもち、しまる。
- 6 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 7 10YR4/4褐色土層 暗褐色土を少量含む。粘性をもち、しまる。

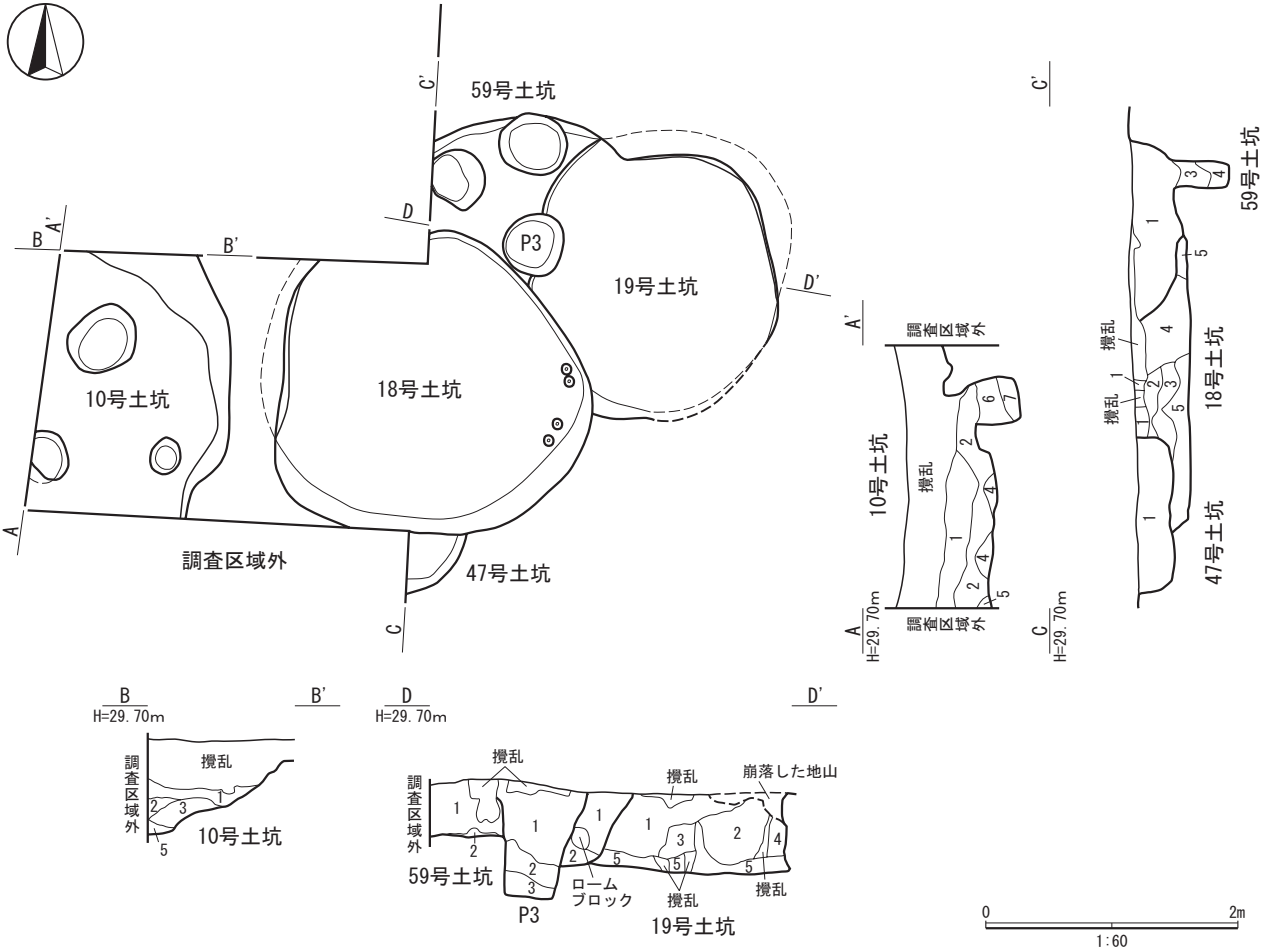
**9号土坑**

- 1 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR4/4褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR5/4にぶい黄褐色土層 ローム粒・ローム土・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。
- 4 10YR5/3にぶい黄褐色土層 ロームブロックを多量、ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 5 10YR4/4褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。

**12号土坑**

- 1 10YR2/2黒褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒を多量、炭化物を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒・鹿沼土粒を少量、ロームブロックを微量含む。粘性をもち、しまる。
- 4 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を多量、ロームブロックを少量含む。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。
- 5 10YR4/6褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量、鹿沼土粒を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 6 10YR4/4褐色土層 ローム粒・鹿沼土粒を少量含む。粘性をもち、しまる。

第13図 6・7・9・12号土坑



**10号土坑**

- 1 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒を少量、ロームブロックを微量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を多量、炭化物を微量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 3 10YR5/8黄褐色土層 ローム土主体。粘性をもつが、しまりに欠ける。
- 4 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を少量、炭化物を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 5 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 6 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 7 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。

**18号土坑**

- 1 10YR2/1黄色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR2/2黒色土層 ローム粒・焼土粒を少量、炭化物を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR3/2黒褐色土層 ローム粒を多量に、焼土粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 4 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒を少量、炭化物を微量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 5 10YR2/2黒褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。

**19号土坑**

- 1 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・炭化物を少量、ロームブロックを微量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒・炭化物・焼土粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒・鹿沼土粒を少量、炭化物を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 4 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒を少量、炭化物を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 5 10YR4/4褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。

**47号土坑**

- 1 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。

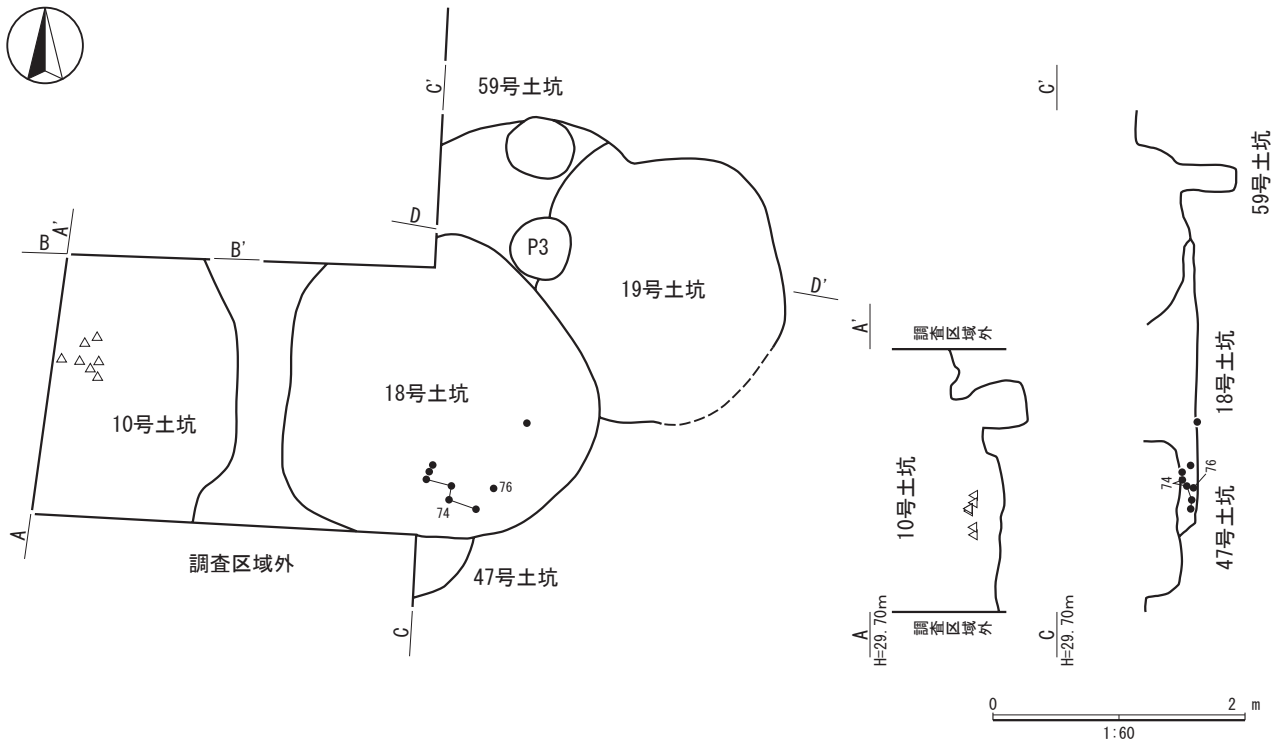
**59号土坑**

- 1 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を多量に、ロームブロックを微量含む。粘性をもつが、しまりに欠ける。
- 2 10YR4/4褐色土層 ロームブロックを少量含む。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。
- 3 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。
- 4 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・黒褐色土を少量含む。粘性をもち、しまる。

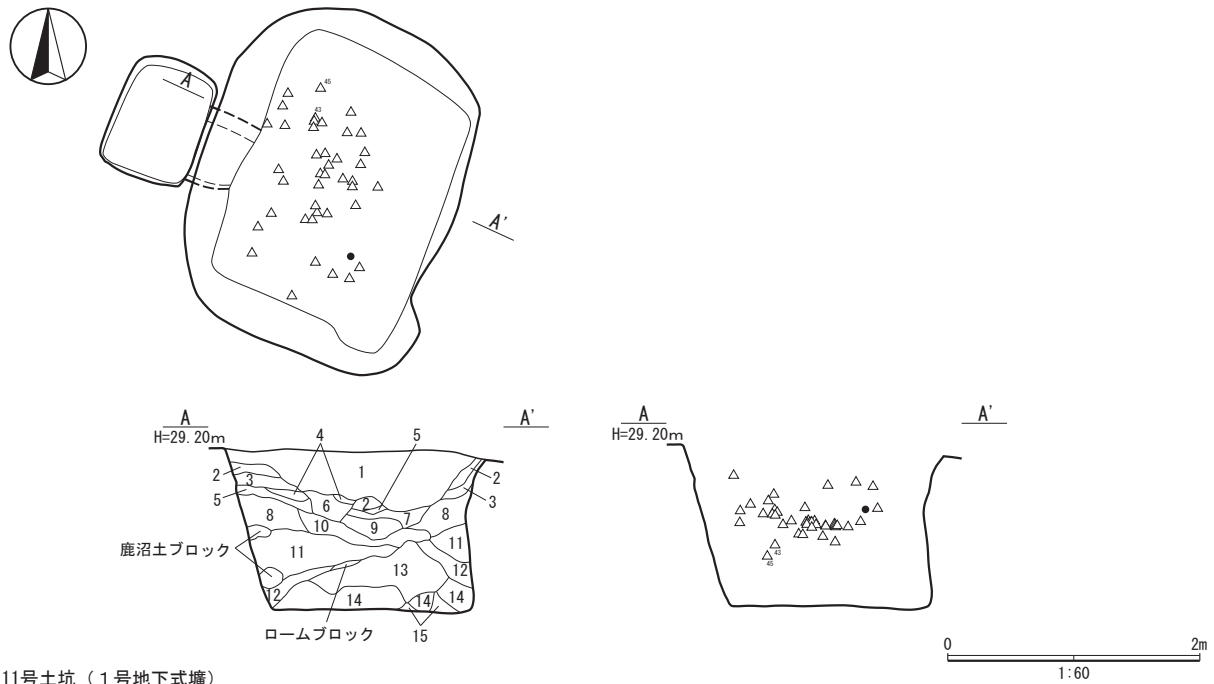
**P3**

- 1 10YR6/8明黄褐色土層 ロームブロック・褐色土を多量に含む。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。
- 2 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒・焼土粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR6/8明黄褐色土層 ロームブロック主体。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。

第 14 図 10・18・19・47・59 号土坑, 3 号ピット (1)



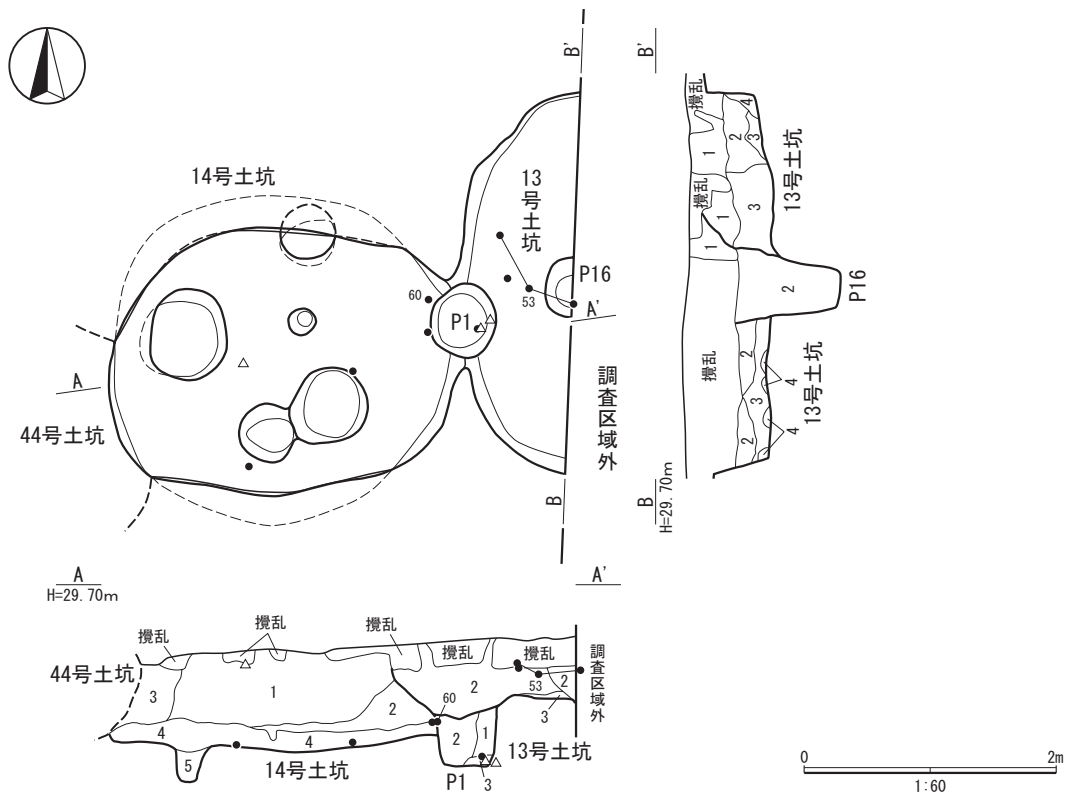
第15図 10・18・19・47・59号土坑, 3号ピット (2)



11号土坑 (1号地下式墳)

- |    |              |   |
|----|--------------|---|
| 1  | 10YR3/1黒褐色土層 | ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。                    |
| 2  | 10YR4/1黒褐色土層 | ローム土を多量に含む。粘性をもち、しまる。                   |
| 3  | 10YR3/3暗褐色土層 | 白色粒子を多量に、ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。           |
| 4  | 10YR3/4暗褐色土層 | ローム粒を少量含む。粘性をもち、ややしまる。                  |
| 5  | 10YR3/4暗褐色土層 | ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。                    |
| 6  | 10YR3/1黒褐色土層 | ローム土を多量に含む。(ブロック状) 粘性をもち、しまる。           |
| 7  | 10YR3/4暗褐色土層 | 白色粒子・ローム粒を多量に含む。粘性をもち、しまる。              |
| 8  | 10YR4/4褐色土層  | ロームブロックを多量に含む。粘性をもつが、しまりに欠ける。           |
| 9  | 10YR3/3暗褐色土層 | ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。粘性をもち、ややしまる。           |
| 10 | 10YR3/4暗褐色土層 | ローム粒を微量含む。粘性をもち、しまる。                    |
| 11 | 10YR4/4褐色土層  | ローム粒・ロームブロックを多量に含む。粘性をもつが、しまりに欠ける。      |
| 12 | 10YR4/4褐色土層  | ローム粒・ロームブロック・黒褐色土を多量に含む。粘性をもつが、しまりに欠ける。 |
| 13 | 10YR4/4褐色土層  | ロームブロック主体。粘性をもつが、しまりに欠ける。               |
| 14 | 10YR7/8黄橙色土層 | ローム土・ロームブロック主体。天井部の崩落土。粘性をもち、しまりに欠ける。   |
| 15 | 10YR4/4褐色土層  | ローム粒を多量に含む。粘性をもつが、しまりに欠ける。              |

第16図 11号土坑 (1号地下式墳)



#### 13号土坑

- 1 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR3/2黒褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR4/3にぶい黄褐色土層 ローム粒・ローム土を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 4 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・ローム土を少量含む。粘性をもち、しまる。

#### 14号土坑

- 1 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・ロームブロック・炭化物を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を少量、炭化物を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR3/1黒褐色土層 ロームブロック・褐色土・焼土ブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。
- 4 10YR4/4褐色土層 ローム粒を少量、ロームブロックを微量含む。粘性をもち、しまる。
- 5 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を微量含む。粘性をもち、ややしまる。

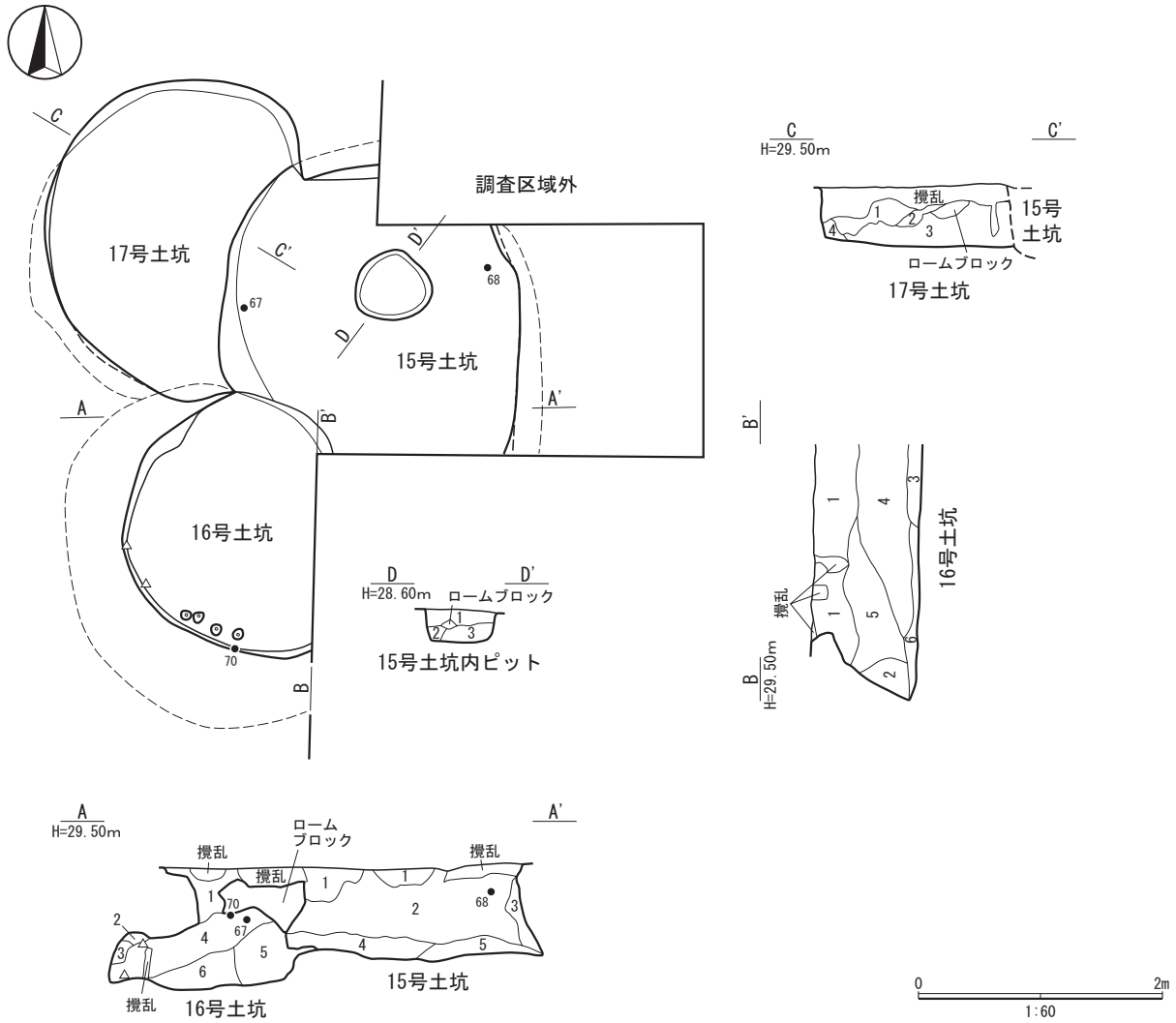
#### P1

- 1 10YR4/6褐色土層 ロームブロックを多量、ローム粒を少量含む。粘性をもつが、しまりに欠ける。
- 2 10YR4/4褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。
- 3 10YR4/4褐色土層 ローム粒を多量含む。粘性をもち、しまる。

#### P16

- 1 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、ややしまる。

第17図 13・14号土坑, 1・16号ピット



**15号土坑**

- 1 10YR4/3にぶい黄褐色土層 ローム粒を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR4/3にぶい黄褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR4/4褐色 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 4 10YR4/4褐色土層 ローム粒・黒褐色土粒・鹿沼土粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 5 10YR4/4褐色土層 ローム粒を少量、鹿沼土粒を微量含む。粘性をもち、しまる。

**15号土坑内ピット**

- 1 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 7.5YR4/4褐色土層 ローム粒・ロームブロック・炭化物を少量含む。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。
- 3 10YR4/4褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。

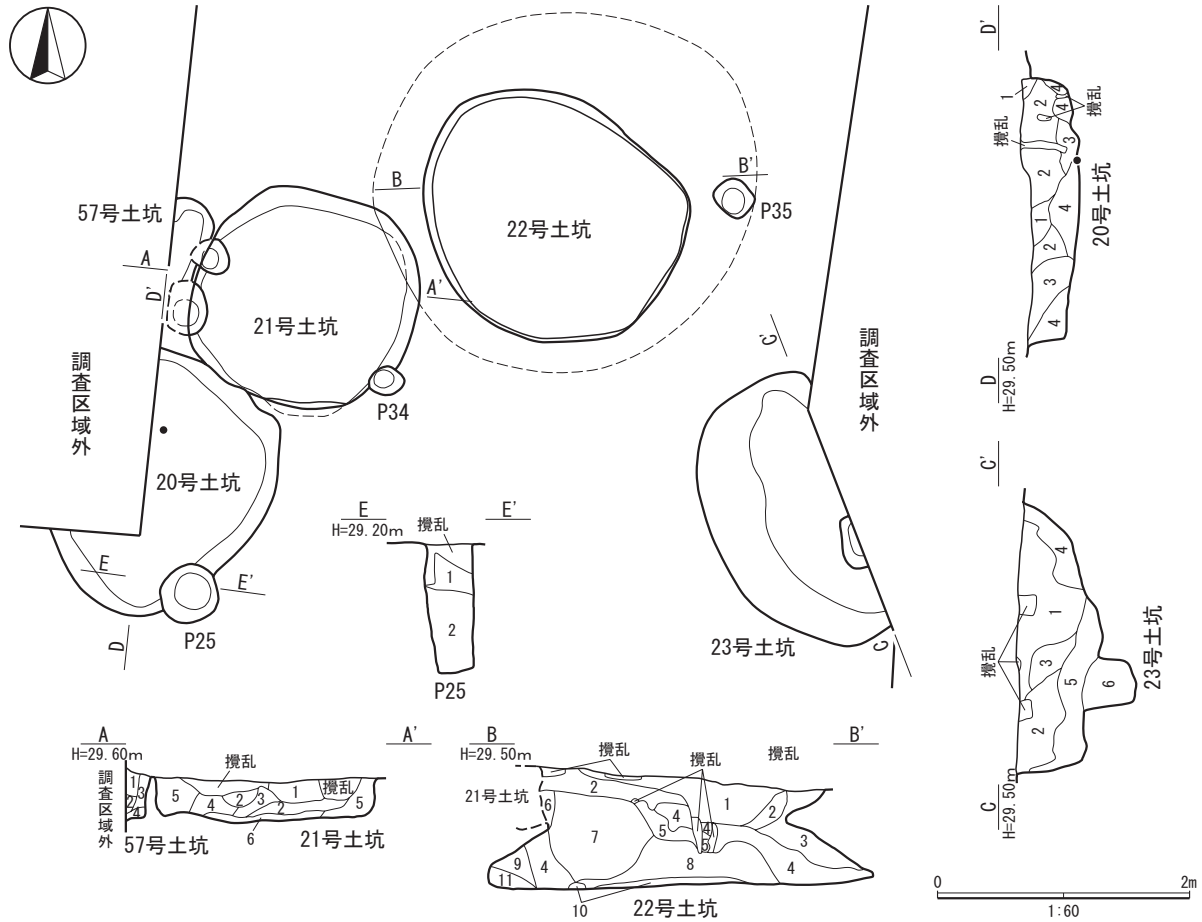
**16号土坑**

- 1 10YR5/6黄褐色土層 ローム粒を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR4/4褐色土層 ローム粒を多量に、七本桜層土少量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR4/4褐色土層 ロームブロックを多量に、ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまりに欠ける。
- 4 10YR3/1黒褐色土層 ローム粒を多量に、七本桜層土少量含む。粘性をもち、しまる。
- 5 10YR4/4褐色土層 ロームブロックを多量に、ローム粒・炭化物を少量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 6 10YR4/6褐色土層 ローム粒を多量に、七本桜層土少量含む。粘性をもち、しまる。

**17号土坑**

- 1 10YR2/3黒褐色土層 褐色土を多量、ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR4/3にぶい黄褐色土層 ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 4 10YR6/8明黄褐色土層 ローム土を多量に含む。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。

第18図 15・16・17号土坑



#### 20号土坑

- 1 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を少量、ロームブロックを微量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 3 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を多量に含む。粘性をもち、ややしまる。
- 4 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・黒褐色土を少量含む。粘性をもち、しまる。

#### 21号土坑

- 1 10YR6/8明黄褐色土層 ロームブロック・褐色土を多量に含む。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。
- 2 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒・焼土粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR6/8明黄褐色土層 ロームブロック主体。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。
- 4 10YR6/8明黄褐色土層 褐色土を多量に、ロームブロックを少量含む。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。
- 5 10YR2/3黒褐色土層 ロームブロック・焼土粒を多量に、ローム粒・炭化物を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 6 10YR5/4にぶい黄褐色土層 ローム粒・黒褐色土を少量含む。粘性をもち、しまる。

#### 22号土坑

- 1 10YR2/2黒褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒・鹿沼土粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR2/2黒褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 4 10YR4/4褐色土層 ロームブロック・鹿沼土ブロック・黒褐色土ブロックを少量含む。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。
- 5 10YR4/4褐色土層 ロームブロック・鹿沼土ブロックを多量に、黒褐色土ブロックを少量含む。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。
- 6 10YR4/6褐色土層 ロームブロックを多量に含む。粘性をもつが、しまりに欠ける。
- 7 10YR4/6褐色土層 鹿沼土粒・今市層土を少量含む。粘性をもつが、しまりに欠ける(覆土粒子状)。
- 8 10YR4/6褐色土層 ロームブロックを多量に、鹿沼土ブロック・黒褐色土ブロック・今市層土を少量含む。粘性をもつが、しまりに欠ける。
- 9 10YR4/4褐色土層 ロームブロックを多量に、鹿沼土ブロック・黒褐色土ブロックを少量含む。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。
- 10 10YR2/3黒褐色土層 鹿沼土粒を多量に、ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。
- 11 10YR7/8明橙色土層 ロームブロック主体。粘性をもつが、しまりに欠ける。

#### 23号土坑

- 1 10YR3/2黒褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR4/3にぶい黄褐色土層 ローム粒・焼土粒を少量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 3 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。
- 4 10YR2/2黒褐色土層 ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。
- 5 10YR3/4暗褐色土層 ロームブロックを多量に含む。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。
- 6 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。

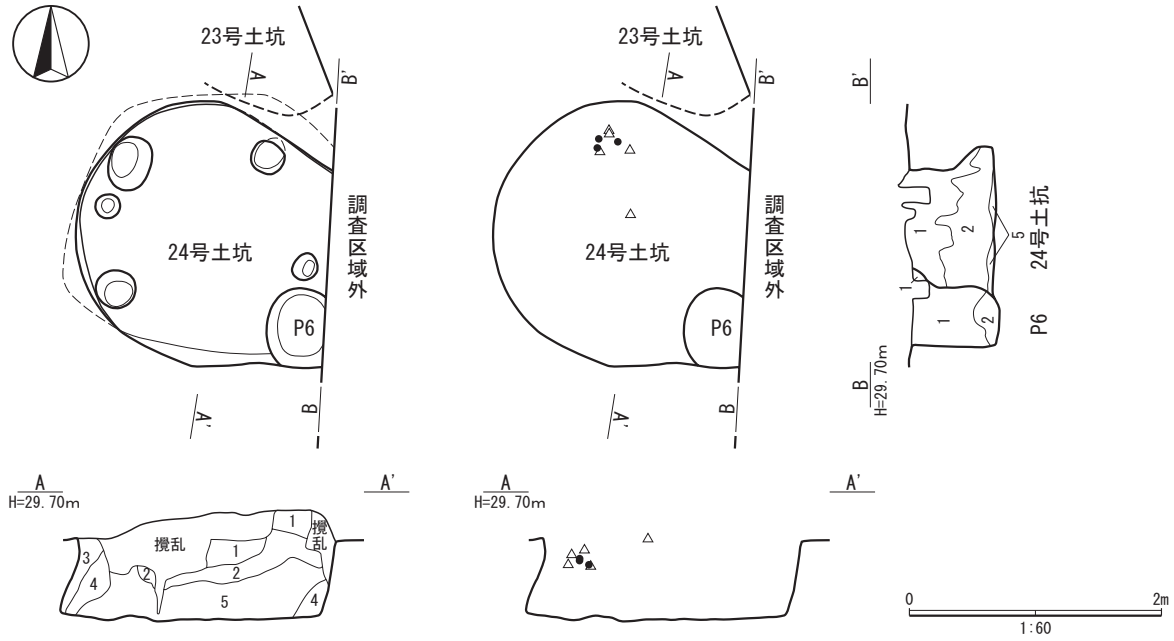
#### 57号土坑

- 1 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 3 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を多量に含む。粘性をもち、ややしまる。
- 4 10YR4/4褐色土層 ローム粒・黒褐色土を少量含む。粘性をもち、しまる。

#### P25

- 1 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 2 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。

第19図 20～23・57号土坑, 25・34・35号ピット



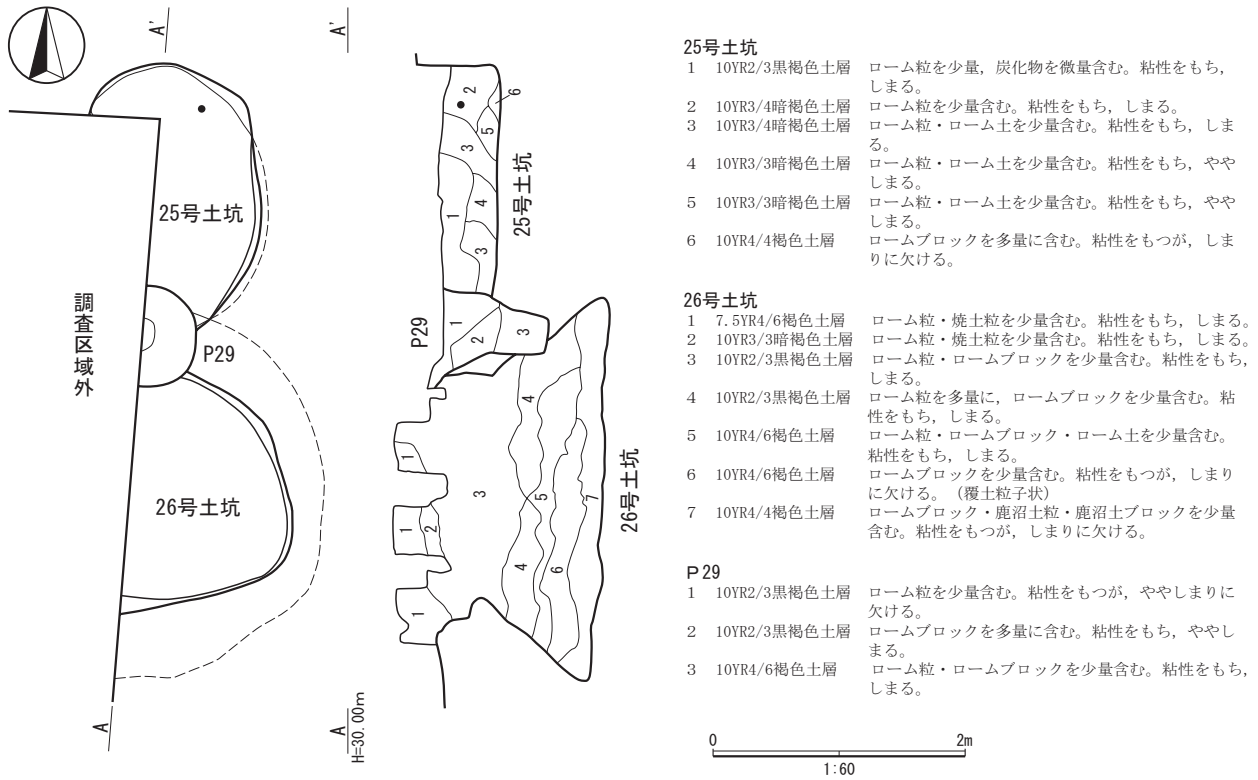
**24号土坑**

- 1 10YR3/2暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒少量、焼土粒を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・焼土粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 4 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 5 10YR4/4褐色土層 ローム粒・焼土粒を少量、炭化物を微量含む。粘性をもち、しまる。

**P6**

- 1 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。
- 2 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、ややしまる。

第20図 24号土坑, 6号ピット



**25号土坑**

- 1 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒を少量、炭化物を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・ローム土を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 4 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒・ローム土を少量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 5 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒・ローム土を少量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 6 10YR4/4褐色土層 ロームブロックを多量に含む。粘性をもつが、しまりに欠ける。

**26号土坑**

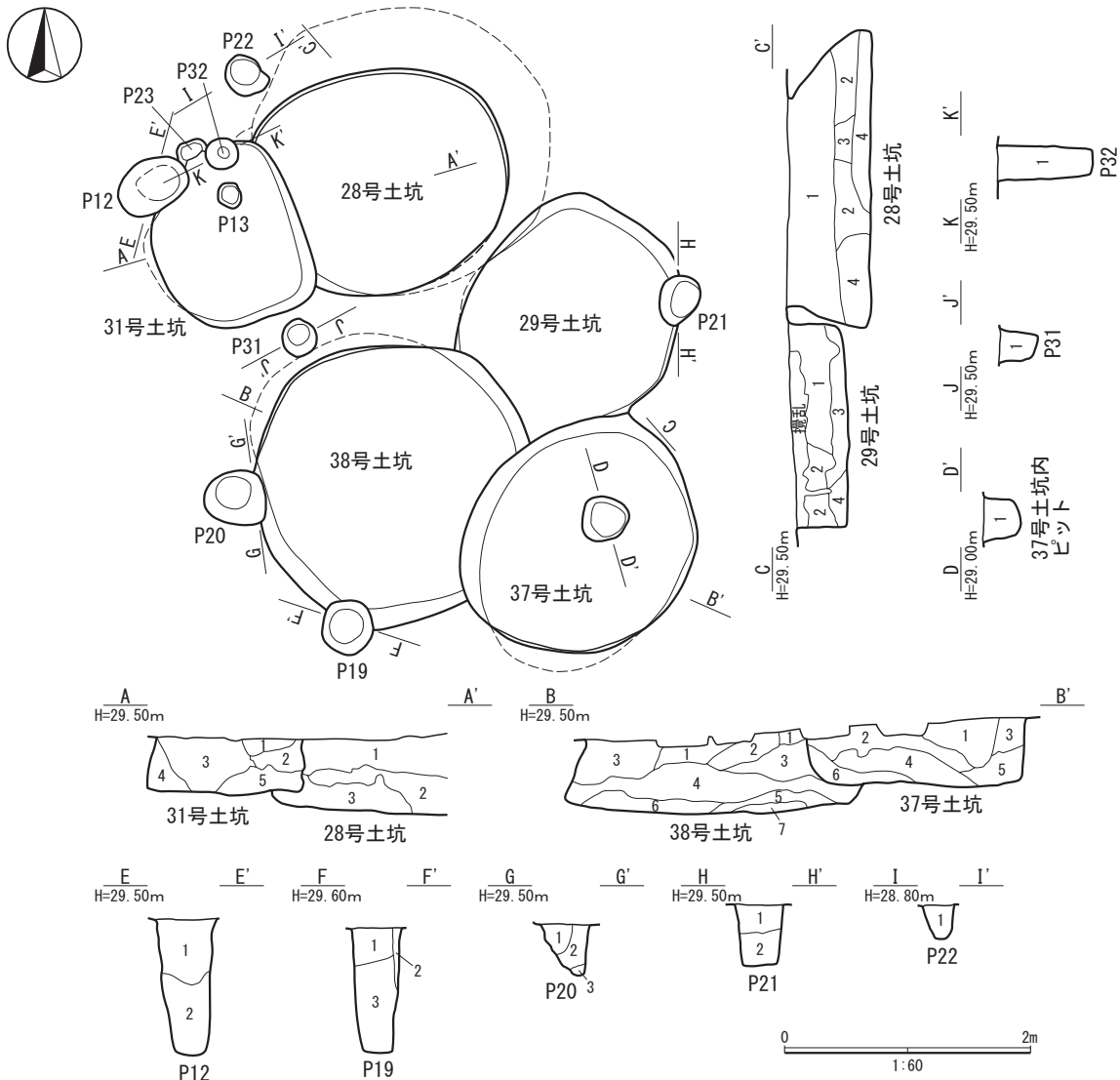
- 1 7.5YR4/6褐色土層 ローム粒・焼土粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒・焼土粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。
- 4 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒を多量に、ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。
- 5 10YR4/6褐色土層 ローム粒・ロームブロック・ローム土を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 6 10YR4/6褐色土層 ロームブロックを少量含む。粘性をもつが、しまりに欠ける。(覆土粒子状)
- 7 10YR4/4褐色土層 ロームブロック・鹿沼土粒・鹿沼土ブロックを少量含む。粘性をもつが、しまりに欠ける。

**P29**

- 1 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。
- 2 10YR2/3黒褐色土層 ロームブロックを多量に含む。粘性をもち、ややしまる。
- 3 10YR4/6褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。

第21図 25・26号土坑, 29号ピット





**28号土坑**

- 1 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒・ローム土を少量、炭化物・焼土粒を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR4/4褐色土層 七本桜層土を少量、ロームブロックを微量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・今市層土を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 4 10YR4/4褐色土層 七本桜層土を少量含む。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。

**29号土坑**

- 1 10YR4/4褐色土層 ロームブロックを多量に含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量、炭化物を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR4/3にぶい黄褐色土層 ロームブロックを少量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 4 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒を多量、炭化物・焼土粒を微量含む。粘性をもち、しまる。

**31号土坑**

- 1 10YR2/2黒褐色土層 ローム粒を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR2/2黒褐色土層 ローム粒を少量、炭化物・焼土粒を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR4/4褐色土層 ローム粒を多量、炭化物を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 4 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 5 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を少量、炭化物を微量含む。粘性をもち、しまる。

**37号土坑**

- 1 10YR3/2黒褐色土層 ローム粒を少量、炭化物を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・ロームブロック・黒褐色土粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR3/4暗褐色土層 焼土粒を多量、ローム粒を少量、炭化物を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 4 10YR4/4褐色土層 ローム粒を多量に含む。粘性をもち、しまる。
- 5 7.5YR3/4暗褐色土層 ローム粒を少量、ロームブロック・焼土粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 6 10YR5/6黄褐色土層 ローム粒・ロームブロックを多量に含む。粘性をもち、ややしまる。

**37号土坑内ピット**

- 1 10YR3/4暗褐色土層 ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。

**38号土坑**

- 1 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を少量、炭化物を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR6/8明黄褐色土層 ロームブロック主体。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。
- 3 10YR3/4暗褐色土層 ロームブロックを多量、焼土粒を微量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 4 10YR3/2黒褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 5 10YR2/2黒褐色土層 ロームブロックを多量、ローム粒を少量含む。やや粘性に欠け、しまる。
- 6 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 7 10YR2/2黒褐色土層 ローム粒を多量に含む。粘性をもち、しまる。

**P12**

- 1 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、ややしまる。

**P19**

- 1 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR4/4褐色土層 暗褐色土を少量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 3 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、ややしまる。

**P20**

- 1 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 2 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR4/3にぶい黄褐色土層 ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。

**P21**

- 1 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 2 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。

**P22**

- 1 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。

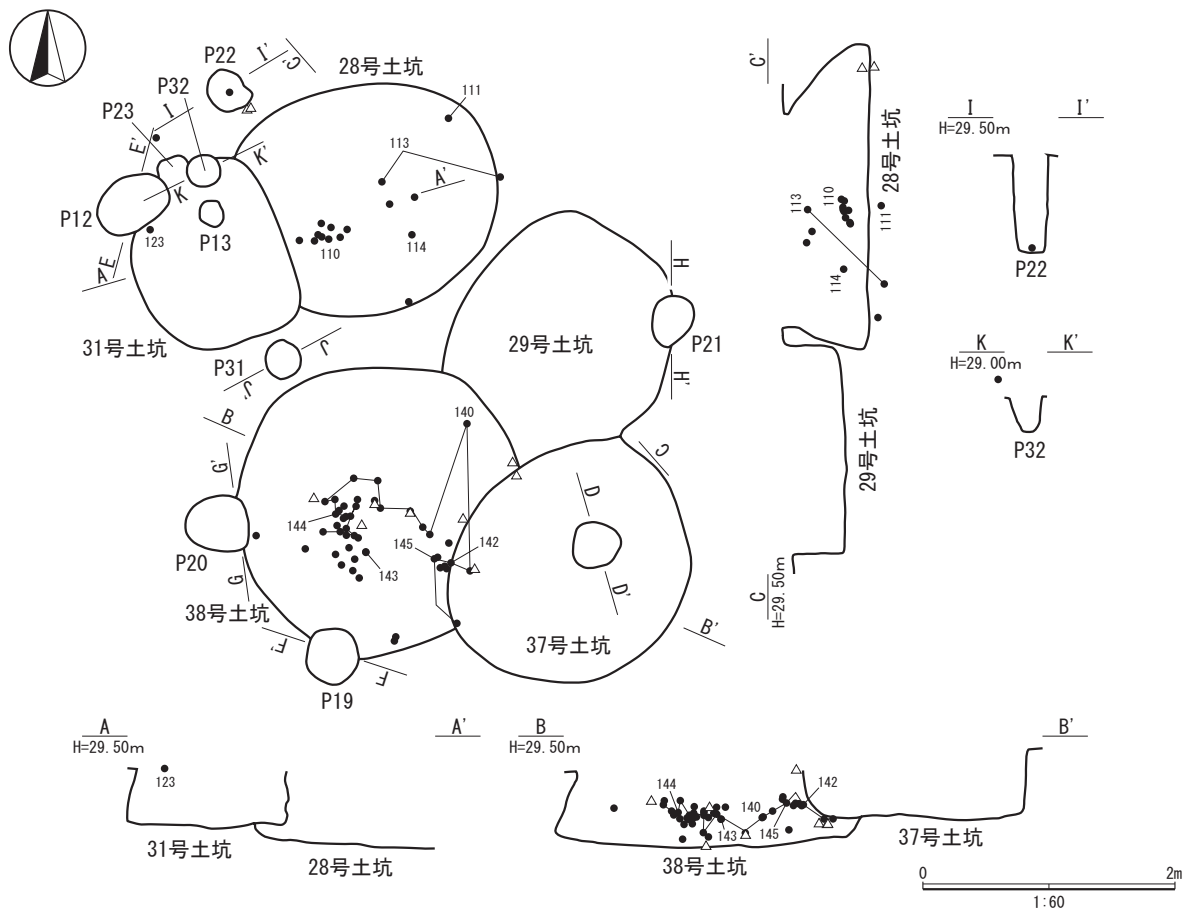
**P31**

- 1 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。

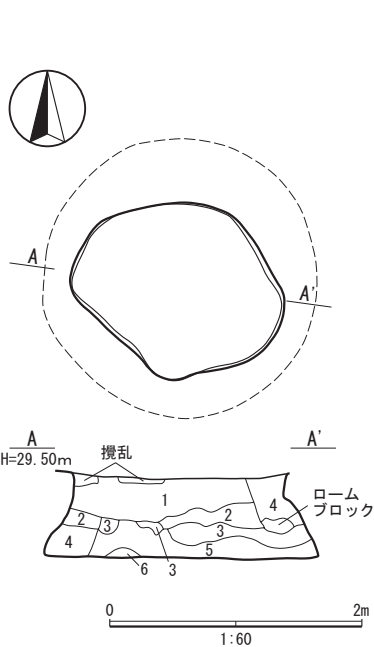
**P32**

- 1 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、ややしまる。

第22図 28・29・31・37・38号土坑, 12・13・19~23・31・32号ピット(1)

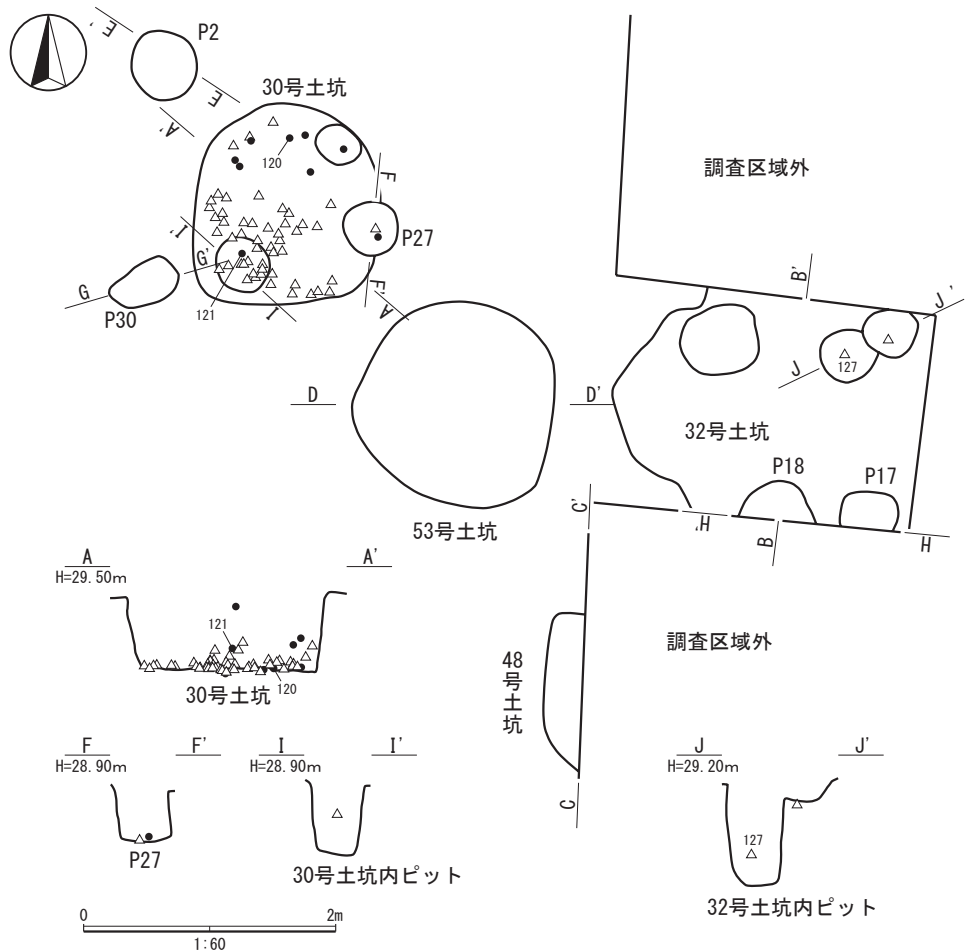


第23図 28・29・31・37・38号土坑, 12・13・19～23・31・32号ピット (2)

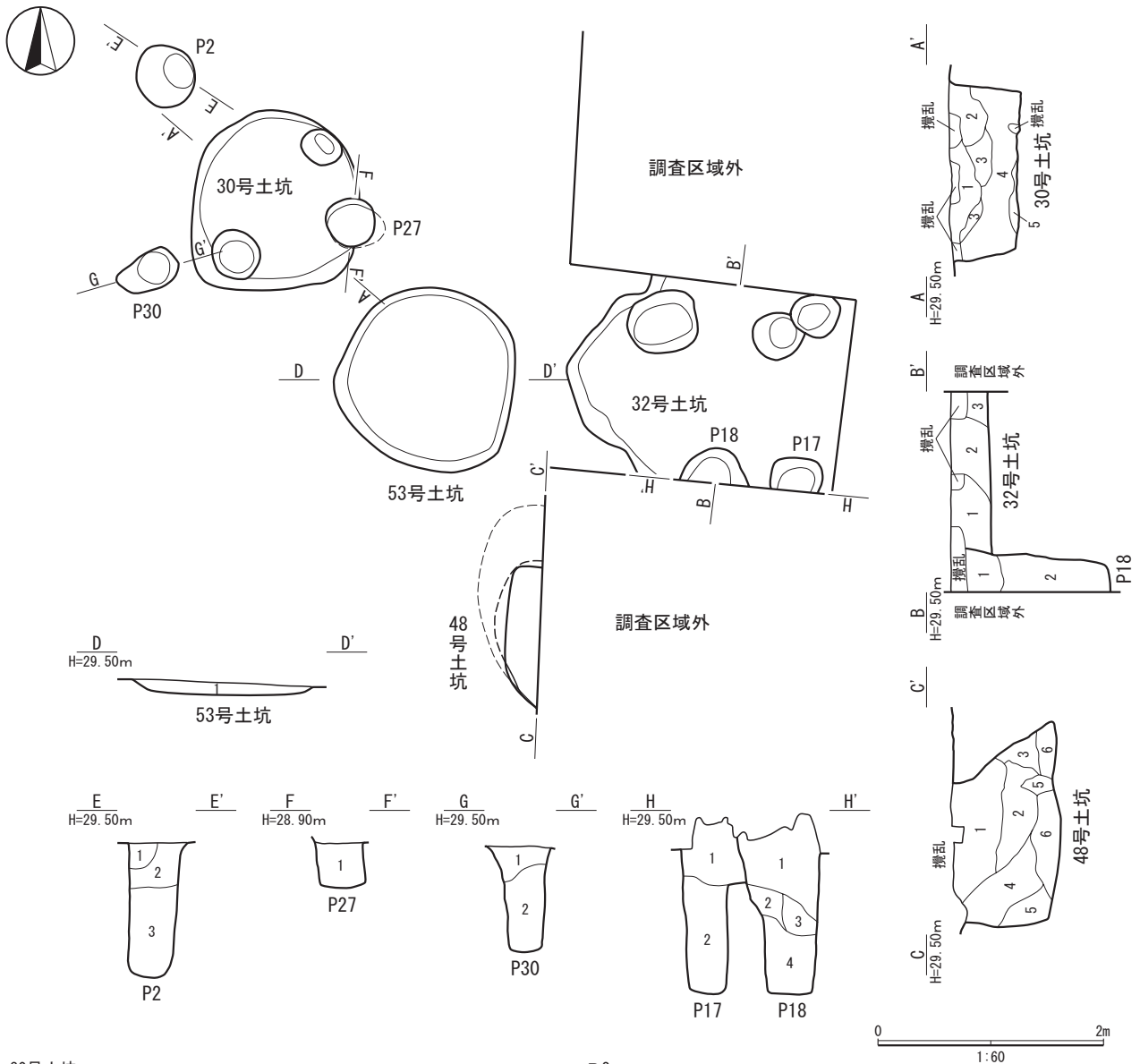


- 27号土坑
- 1 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒・ロームブロック・炭化物を微量含む。粘性をもち、しまる。
  - 2 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒を少量、炭化物・焼土粒を微量含む。粘性をもち、しまる。
  - 3 10YR4/3にぶい黄褐色土層 ロームブロックを多量、ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
  - 4 10YR3/2黒褐色土層 ロームブロックを多量に含む。粘性をもち、しまる。
  - 5 10YR4/4褐色土層 ローム粒・ロームブロックを多量、黒褐色土ブロックを少量含む。粘性をもち、ややしまる。
  - 6 10YR4/4褐色土層 ロームブロックを多量に含む。粘性をもつが、しまりに欠ける。

第24図 27号土坑



第25図 30・32・48・53号土坑, 2・17・18・27・30号ピット (1)



**30号土坑**

- |   |              |                                     |
|---|--------------|-------------------------------------|
| 1 | 10YR3/4暗褐色土層 | ローム粒・炭化物を少量含む。粘性をもち、しまる。            |
| 2 | 10YR4/4褐色土層  | ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。                |
| 3 | 10YR3/4暗褐色土層 | ローム土を多量、ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。        |
| 4 | 10YR3/4暗褐色土層 | ローム粒を多量、ロームブロック・炭化物を少量含む。粘性をもち、しまる。 |
| 5 | 10YR4/6褐色土層  | ローム粒微量含む。粘性をもち、しまる。                 |

**32号土坑**

- |   |              |                                     |
|---|--------------|-------------------------------------|
| 1 | 10YR3/4暗褐色土層 | ローム粒・炭化物を少量含む。粘性をもち、しまる。            |
| 2 | 10YR3/3暗褐色土層 | ローム粒を少量、炭化物を微量含む。粘性をもち、しまる。         |
| 3 | 10YR4/4褐色土層  | ローム土を多量、ロームブロック・黒色土を少量含む。粘性をもち、しまる。 |

**48号土坑**

- |   |              |   |
|---|--------------|---|
| 1 | 10YR3/4暗褐色土層 | ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。粘性をもち、しまる。             |
| 2 | 10YR3/2黒褐色土層 | ローム粒・ロームブロックを少量、焼土粒・炭化物を微量含む。粘性をもち、しまる。 |
| 3 | 10YR3/4暗褐色土層 | ローム粒を多量に含む。粘性をもち、しまる。                   |
| 4 | 10YR3/4暗褐色土層 | ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。            |
| 5 | 10YR4/4褐色土層  | ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。                    |
| 6 | 10YR4/6褐色土層  | ローム粒・鹿沼土粒・黒色土を少量含む。粘性をもち、ややしまる。         |

**53号土坑**

- |   |              |                              |
|---|--------------|------------------------------|
| 1 | 10YR3/3暗褐色土層 | ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。 |
|---|--------------|------------------------------|

**P2**

- |   |              |                                  |
|---|--------------|----------------------------------|
| 1 | 10YR4/4暗褐色土層 | ロームブロックを少量、ローム粒を微量に含む。粘性をもち、しまる。 |
| 2 | 10YR3/4暗褐色土層 | ローム粒を少量含む。粘性をもち、ややしまる。           |
| 3 | 10YR4/4褐色土層  | ローム粒を微量含む。粘性をもち、しまる。             |

**P17**

- |   |              |                                |
|---|--------------|--------------------------------|
| 1 | 10YR3/3暗褐色土層 | ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。           |
| 2 | 10YR4/4褐色土層  | ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、ややしまる。 |

**P18**

- |   |              |                                |
|---|--------------|--------------------------------|
| 1 | 10YR3/4暗褐色土層 | ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。   |
| 2 | 10YR4/4褐色土層  | ロームブロックを少量含む。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。 |
| 3 | 10YR3/4暗褐色土層 | ローム粒・炭化物を微量含む。粘性をもち、ややしまる。     |
| 4 | 10YR3/3暗褐色土層 | ローム粒を少量含む。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。    |

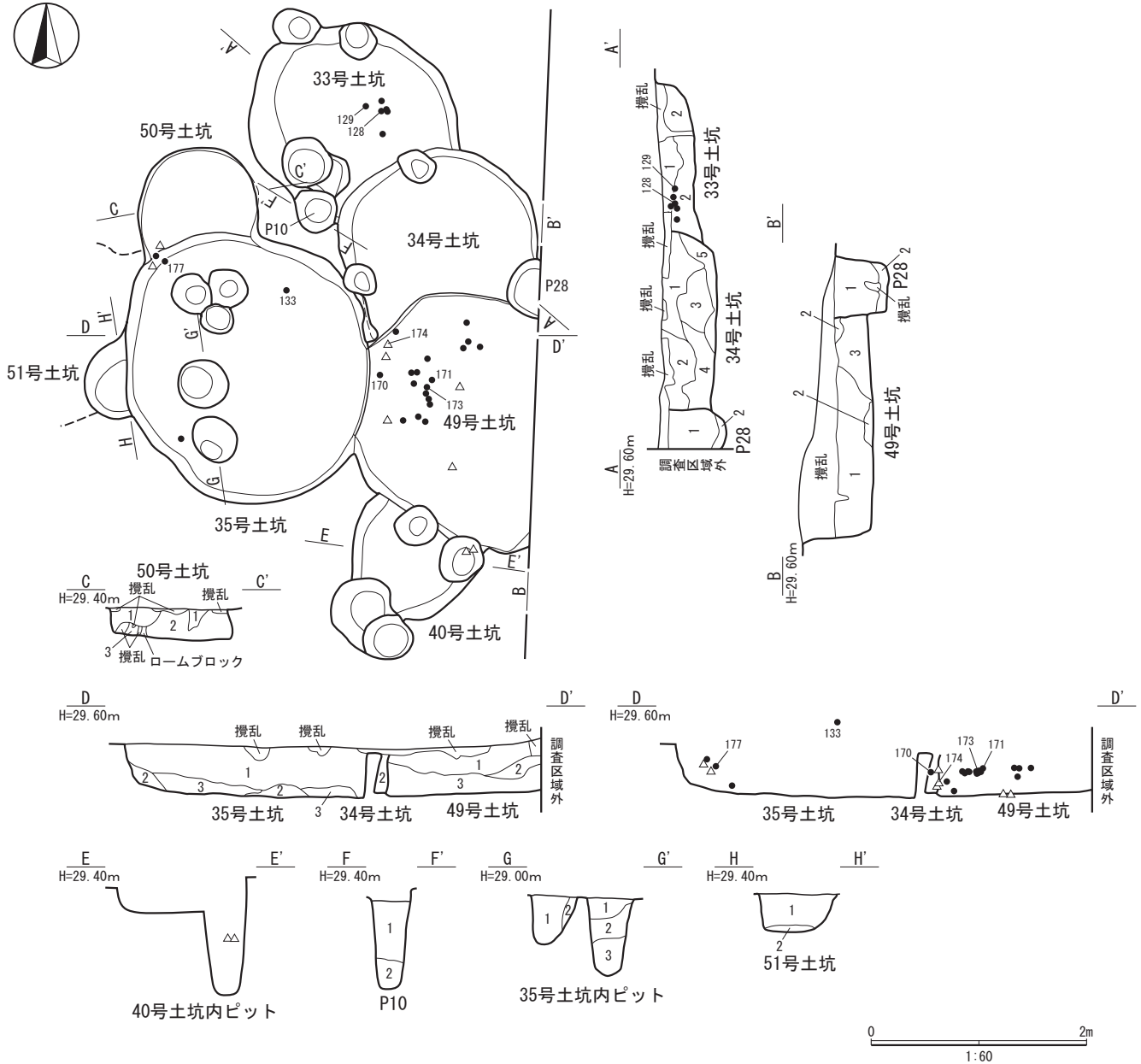
**P27**

- |   |             |                                 |
|---|-------------|---------------------------------|
| 1 | 10YR4/4褐色土層 | ローム粒を少量、ロームブロックを微量含む。粘性をもち、しまる。 |
|---|-------------|---------------------------------|

**P30**

- |   |              |                                   |
|---|--------------|-----------------------------------|
| 1 | 10YR2/3黒褐色土層 | ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。              |
| 2 | 10YR3/4暗褐色土層 | ローム粒を少量、ロームブロックを微量含む。粘性をもち、ややしまる。 |

第26図 30・32・48・53号土坑, 2・17・18・27・30号ピット (2)



**33号土坑**

- 1 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒・焼土粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。

**34号土坑**

- 1 10YR4/4褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR4/4褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR4/6褐色土層 ロームブロックを多量、ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 4 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 5 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒を少量、炭化物を微量含む。粘性をもち、しまる。

**35号土坑**

- 1 10YR4/3にぶい黄色土層 ローム粒を多量、炭化物を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR4/3にぶい黄色土層 ローム粒・ロームブロックを多量に含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR4/3にぶい黄色土層 ローム粒・ロームブロック少量含む。粘性をもち、しまる。

**35号内土坑内ピット**

- 1 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR4/4褐色土層 ローム粒を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR4/3にぶい黄褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。

**49号土坑**

- 1 10YR4/3にぶい黄褐色土層 ローム粒を少量、炭化物を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR4/3にぶい黄色土層 ローム粒を少量、ロームブロックを微量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。

**50号土坑**

- 1 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR4/4黒褐色土層 ローム粒を多量、ロームブロック・炭化物を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR6/8明黄褐色土層 ロームブロック主体。粘性をもち、ややしまる。

**51号土坑**

- 1 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒を少量、焼土粒・炭化物を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR4/2灰黄褐色土層 ローム粒を少量含む。やや粘性に欠け、しまる。

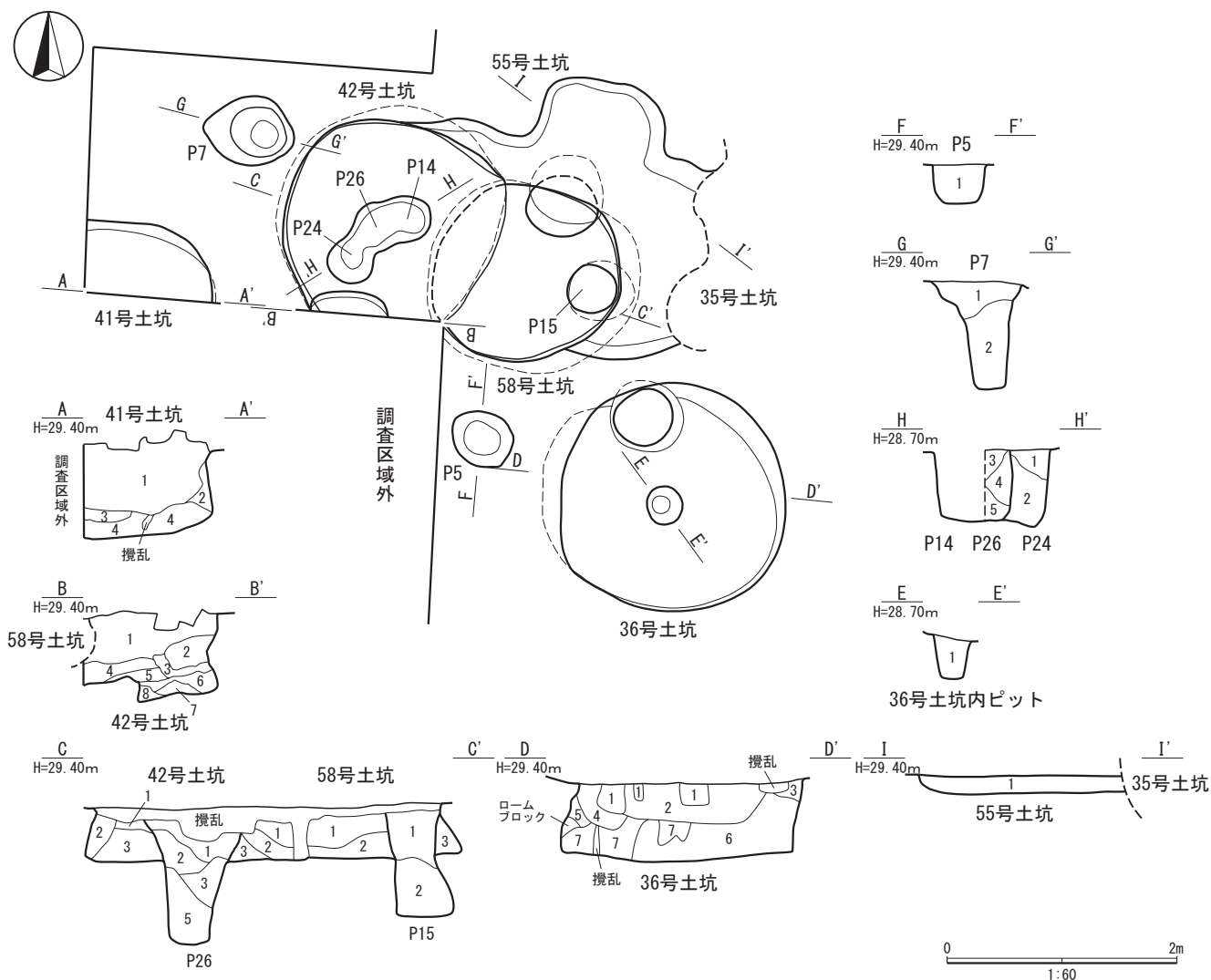
**P10**

- 1 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 2 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。

**P28**

- 1 10YR4/4褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 2 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。

第27図 33・34・35・40・49・50・51号土坑, 10・28号ピット



**36号土坑**

- 1 10YR4/3にぶい黄褐色土層 ローム土・ロームブロックを多量に含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR4/3にぶい黄褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒・ロームブロック・焼土粒を少量、炭化物を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 4 10YR4/4褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。
- 5 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量、黒褐色土粒を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 6 10YR4/4褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 7 10YR4/4褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。

**36号土坑内ピット**

- 1 10YR4/4褐色土層 ローム粒を少量に含む。粘性をもち、しまる。

**41号土坑**

- 1 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR5/6黄褐色土層 ロームブロック・ローム土を多量に含む。粘性をもち、ややしまりに欠ける。
- 4 10YR4/4褐色土層 ロームブロック・ローム土を多量に含む。粘性をもち、ややしまる。

**42号土坑**

- 1 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR3/4暗褐色土層 ロームブロック・ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR4/4褐色土層 ロームブロックを多量に含む。粘性をもち、ややしまる。
- 4 10YR4/3にぶい黄褐色土層 ローム粒・ローム土を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 5 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。
- 6 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 7 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 8 10YR3/3暗褐色土層 ロームブロックを少量含む。粘性をもち、ややしまる。

**55号土坑**

- 1 10YR4/4褐色土層 ローム粒を微量含む。粘性をもち、しまる。

**58号土坑**

- 1 10YR4/4褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR4/4褐色土層 ロームブロックを多量に含む。粘性をもち、ややしまる。

**P5**

- 1 10YR3/4暗褐色土層 ローム土を少量含む。粘性をもち、しまる。

**P7**

- 1 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を少量、ロームブロックを微量含む。粘性をもち、ややしまる。

**P15**

- 1 10YR4/4褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR5/8黄褐色土層 ロームブロック主体。粘性をもつが、ややしまりに欠ける。

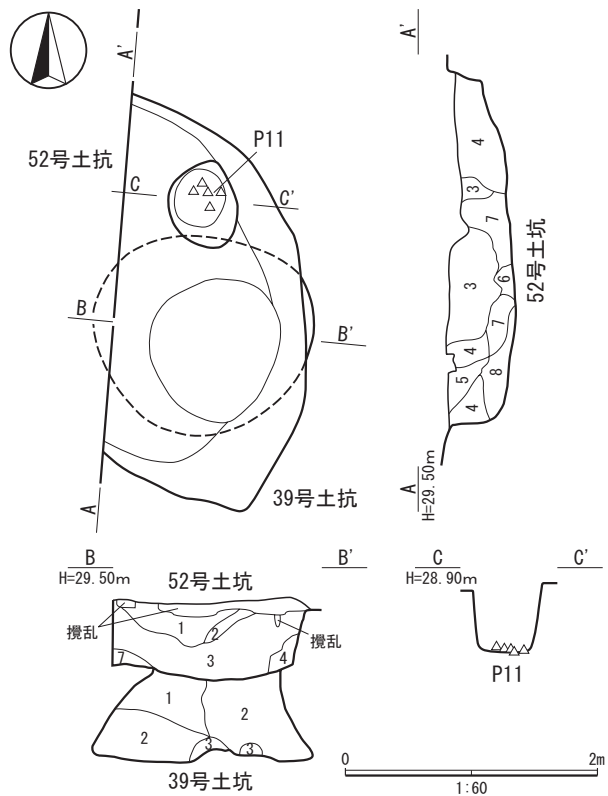
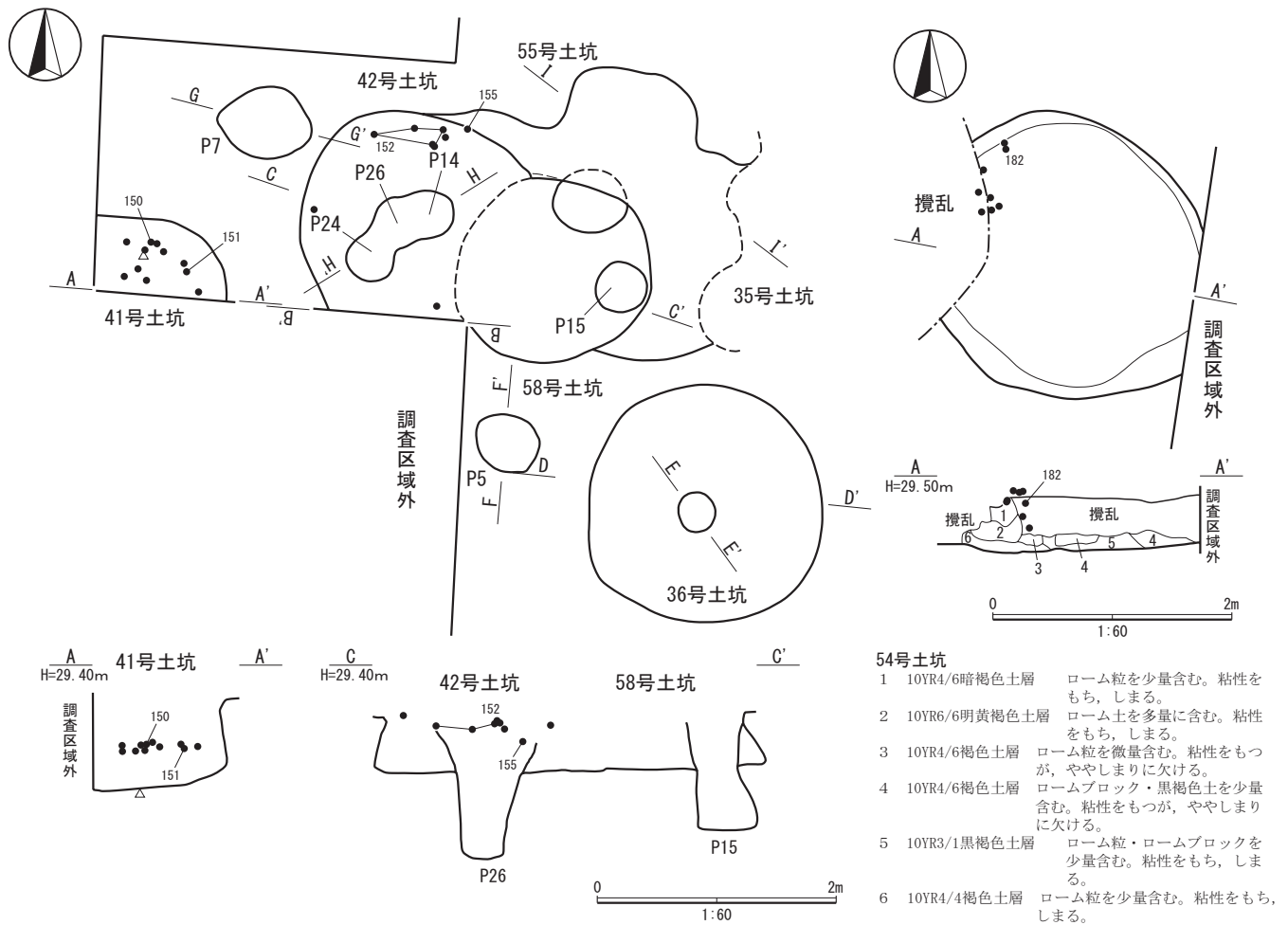
**P24**

- 1 10YR4/3にぶい黄褐色土層 ローム粒を多量、ロームブロック・黒褐色土を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR4/4褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、ややしまる。

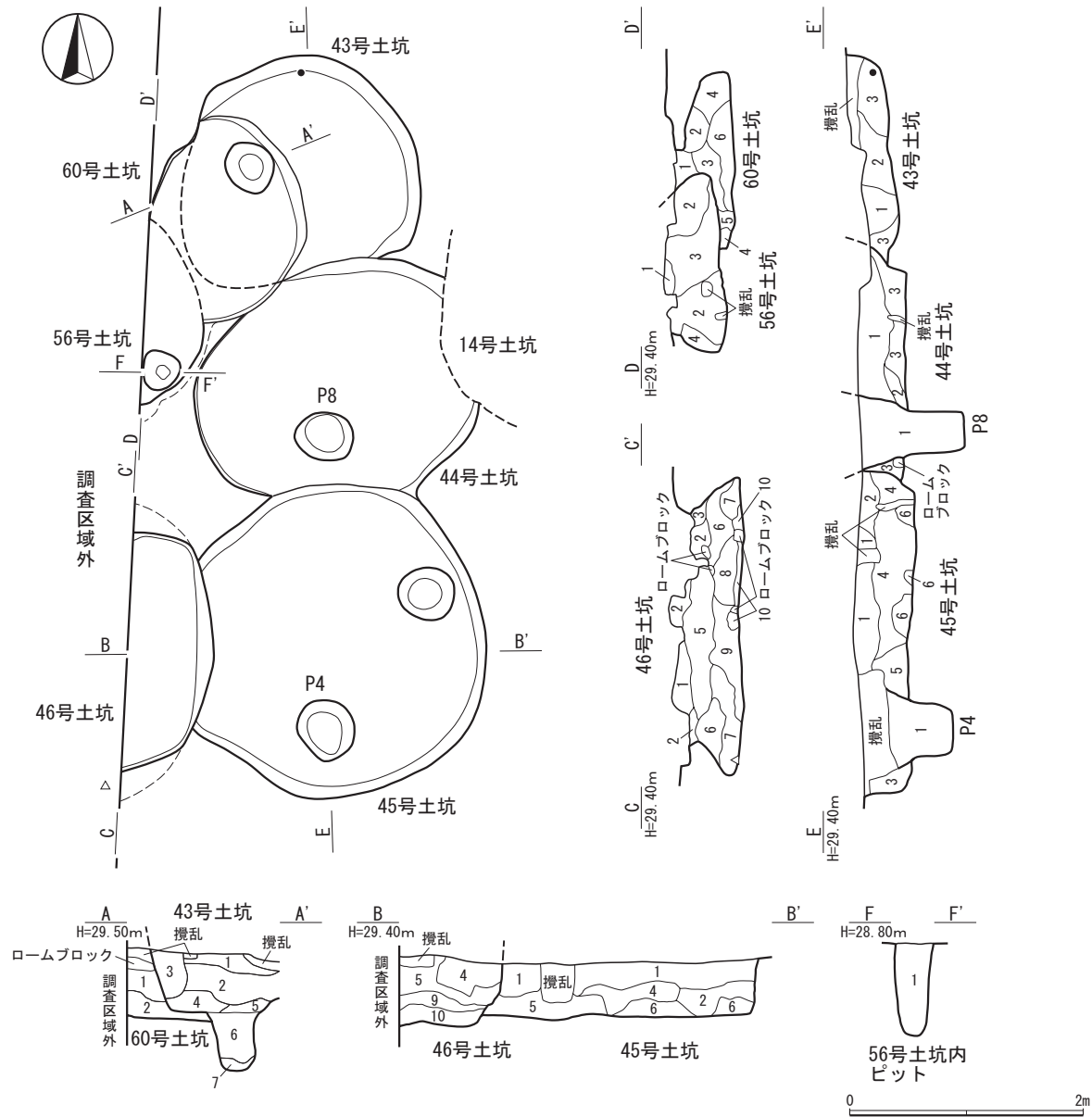
**P26**

- 1 10YR3/4暗褐色土層 ロームブロックを多量、ローム粒を少量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 2 10YR4/3にぶい黄褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 3 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 4 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒を少量、ロームブロックを微量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 5 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒を多量、ロームブロックを少量含む。粘性をもち、ややしまる。

第28図 36・41・42・55・58号土坑, 5・7・14・15・24・26号ピット(1)







**43号土坑**

- 1 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量、炭化物を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR2/2黒褐色土層 ローム粒・ロームブロック・暗褐色土を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。
- 4 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。
- 5 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒・ロームブロックを微量含む。粘性をもち、しまる。
- 6 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。
- 7 10YR4/4褐色土層 ロームブロックを多量含む。粘性をもち、ややしまる。

**44号土坑**

- 1 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・ロームブロック・炭化物を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR3/4暗褐色土層 ローム土を多量、ローム粒・ロームブロックを少量・焼土粒を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR3/2黒褐色土層 暗褐色土を多量、ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。

**45号土坑**

- 1 10YR3/2黒褐色土層 暗褐色土を多量、ローム粒・炭化物を少量、焼土粒を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR4/4褐色土層 ローム粒・ローム土を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 4 10YR4/3にぶい黄褐色土層 ローム粒・黒褐色土を多量含む。粘性をもち、しまる。
- 5 10YR4/3にぶい黄褐色土層 ローム粒・黒褐色土粒を多量、ロームブロックを少量、鹿沼土粒を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 6 10YR7/8黄褐色土層 ロームブロック主体。粘性をもち、しまる。

**45号土坑内ピット**

- 1 10YR4/3にぶい黄褐色土層 ローム粒を多量、ロームブロックを少量含む。粘性をもち、しまる。

**46号土坑**

- 1 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒を少量、ロームブロックを微量含む。粘性をもち、しまる。

- 3 10YR4/3にぶい黄褐色土層 ローム粒を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 4 10YR3/4暗褐色土層 ロームブロックを多量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 5 10YR3/3暗褐色土層 ローム土・黒褐色土を少量、ローム粒を微量含む。粘性をもち、しまる。
- 6 10YR4/4褐色土層 ロームブロックを多量含む。粘性をもち、ややしまる。
- 7 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 8 10YR4/4褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 9 10YR4/4褐色土層 ローム土を多量含む。粘性をもち、しまる。
- 10 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。

**56号土坑**

- 1 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR3/3暗褐色土層 ローム粒を少量、ロームブロックを微量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR4/4褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 4 10YR4/4褐色土層 ローム粒・ロームブロック・黒褐色土を多量に含む。粘性をもち、しまる。

**56号土坑内ピット**

- 1 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。

**60号土坑**

- 1 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 2 10YR2/3黒褐色土層 ローム粒・焼土粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 3 10YR4/4褐色土層 ローム粒・ロームブロック・黒褐色土を多量に含む。粘性をもち、しまる。
- 4 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、しまる。
- 5 10YR4/4褐色土層 ローム土を多量含む。粘性をもち、しまる。
- 6 10YR3/4暗褐色土層 ローム粒・黒褐色土を少量含む。粘性をもち、しまる。

**P4**

- 1 10YR4/3にぶい黄褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、ややしまる。

**P8**

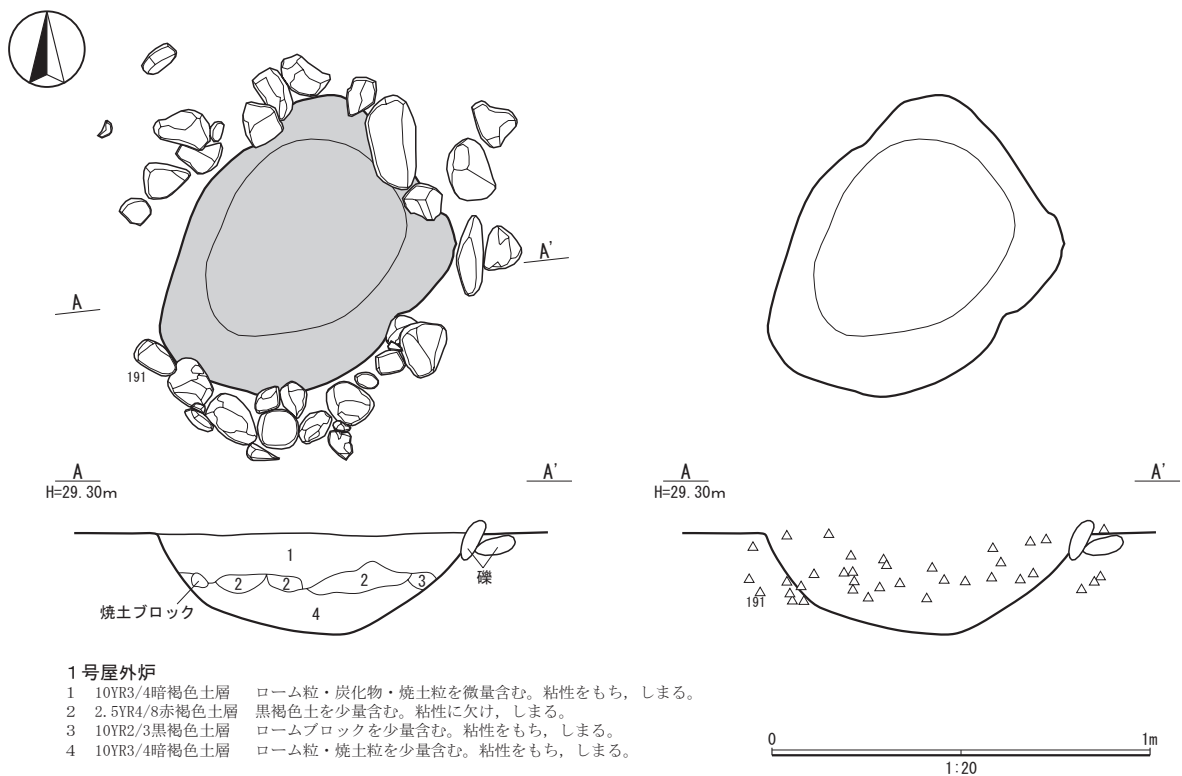
- 1 10YR4/3にぶい黄褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性をもち、ややしまる。

第32図 43・44・45・46・56・60号土坑，4・8号ピット

### (3) 屋外炉

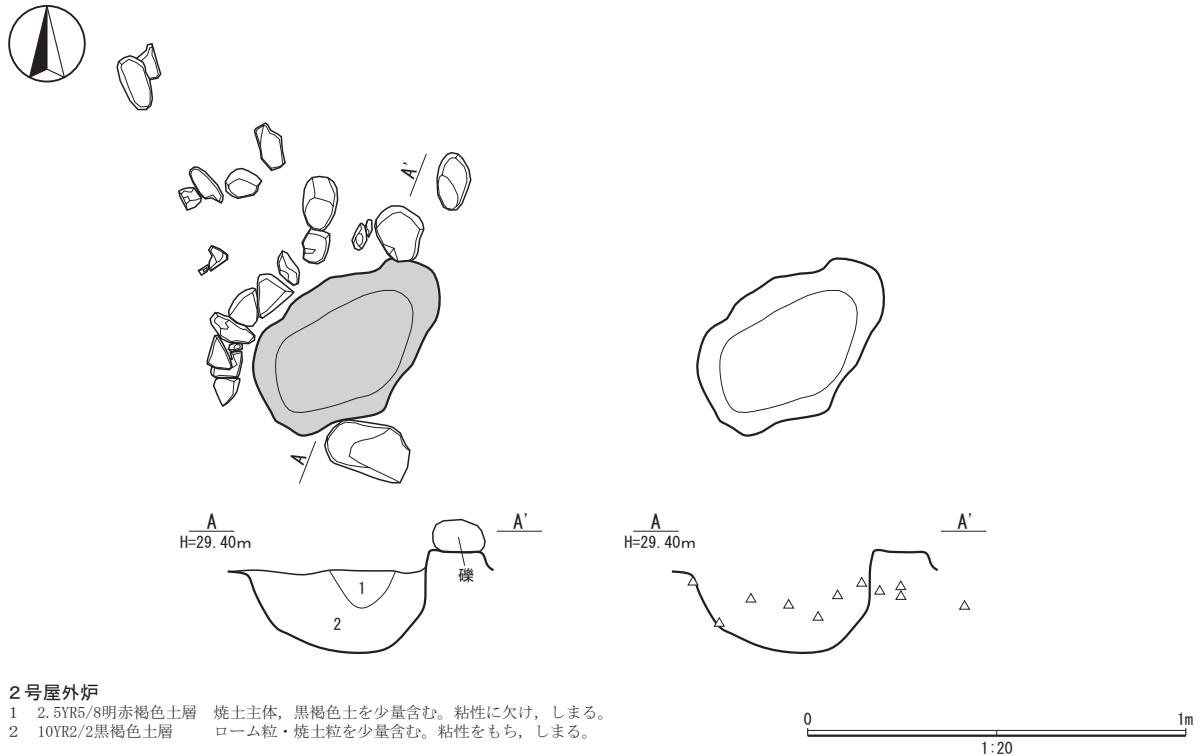
**1号屋外炉** 調査区南部の北西寄りに位置する。43号土坑上面を切るように構築されている。長径82cm、短径62cm、深さ27cmの不整な楕円形を呈し、外周を磨石片や台石片を含む大小約51個の円礫が取り囲む。長軸方向はN-51°-Eである。断面は鍋底状に近く、広い範囲にわたって焼土が堆積する。炉の外周および確認面より縄文土器の細片28点、磨石片4点、台石片8点が出土している。出土遺物や遺構の形状、覆土のあり方などから判断して縄文時代中期後葉・加曽利E式土器の時期の所産であった可能性が強い。切り合い関係をみると43号土坑に後続する。

**2号屋外炉** 調査区の中央部に位置する。28号土坑上面を切るように構築されている。長径66cm、短径36cm、深さ24cmの不整な長楕円形を呈し、外周北西側を中心に磨石片や台石片を含む大小約28個の円礫や角礫が取り囲む。長軸方向はN-58°-Eである。断面は鍋底状に近く、広い範囲にわたって焼土が堆積する。炉の外周より磨石片3点、台石片1点が出土している。出土遺物や遺構の形状、覆土のあり方などから判断して縄文時代中期後葉・加曽利E式土器の時期の所産であった可能性が強い。切り合い関係をみると28号土坑に後続する。



第33図 1号屋外炉





2号屋外炉

- 1 2.5YR5/8明赤褐色土層 焼土主体、黒褐色土を少量含む。粘性に欠け、しまる。  
 2 10YR2/2黒褐色土層 ローム粒・焼土粒を少量含む。粘性をもち、しまる。

第 34 図 2号屋外炉

(4) 地下式壙

1号地下式壙(11号土坑) 調査区の南部に他の地下式壙を共伴することなく単独で分布しており、西側で縄文時代の19号土坑を切る。壙開口部の平面形は隅丸方形を呈し、長径100cm、短径74cm、坑底までの深さ100cmを測る。断面は筒状に近く、坑底は平坦である。壙と地下室を結ぶ接続部の全体的な形状は崩落のため不明であるが、推定幅60cm、推定奥行き40cmほどを測る。地下室の床面は接続部より30cmほど低い位置にあり、足場施設は認められない。地下室の天井部は崩落しているが、平面形は南東隅がややふくらんだ隅丸方形を呈する。主軸方向はN-64°-Wであり、北西側に開口部を設けている。長さ202cm、前壁部の幅245cm、奥壁部の幅250cm、壁高は120~130cmほどを測る。壁は急傾斜で掘り込まれており、特に奥壁部はほぼ垂直に立ち上がる。工具痕や副室、内部施設などは認められなかった。覆土中層を中心に縄文土器片70点、須恵器片1点、打製石斧1点、磨石22点、敲石1点、凹石1点、台石片10点が出土しているが、いずれも流れ込みと思われる遺物であり、本遺構との関連が想定されるものは認められない。遺構の形状や覆土のあり方などから判断して中世の所産であった可能性が強い。切り合い関係をみると19号土坑に後続する。

(5) ピット

調査区の南部から中央部にかけて合計34基のピットが検出された。全体として土坑群と混在するような分布を示しており、壙穴住居跡が分布する調査区北部からの検出はみられない。ピットの多くは縄文時代中期の土坑群を掘り込む形で残されており、覆土のあり方からみても、底面より縄文土器や石皿が出土した1号ピットを除いて中世以降の所産であった可能性が強い。1号地下式壙との関連

が注目されるが、性格の明らかなものや規則的な配列状態を示すものは認められない。ピット群の詳細については第3表のピット一覧を参照されたい。(林)

第3表 ピット一覧

番号	位置	平面形態	断面形態	口径長軸 (cm)	口径短軸 (cm)	底径長軸 (cm)	底径短軸 (cm)	深さ (cm)	底部の標高 (m)	出土遺物	時期	備考
P1	南部	円形	円筒状	60	—	—	—	42	28.24	縄文土器片1点, 剥片1点, 石皿1点, 礫1点	縄文中期	14号土坑を切り, 13号土坑に切られる。底面より縄文土器, 石皿, 礫出土。
P2	中央部	円形	円筒状	58	—	30	—	125	28.52	縄文土器片6点	中世以降	
P3	南部	楕円形	円筒状	50	—	—	—	92	28.23	縄文土器片6点	中世以降	19・59号土坑を切る。
P4	南部	楕円形	鍋底状	52	—	46	—	58	28.29	磨石1点	中世以降	45号土坑を切る。
P5	中央部	楕円形	円筒状	54	—	52	—	32	28.81	縄文土器片5点, 磨石1点	中世以降	
P6	中央部	推定楕円形	鍋底状	62	—	—	—	68	28.62	—	中世以降	24号土坑を切る。
P7	中央部	楕円形	有段円筒状	80	—	60	—	94	28.20	縄文土器片2点, 礫2点	中世以降	
P8	南部	楕円形	鍋底状	48	—	40	—	96	28.13	縄文土器片1点	中世以降	44号土坑を切る。
P9	南部	推定円形	円筒状	24	—	22	—	76	28.28	—	中世以降	3号テストピット内北壁セクションで確認。
P10	中央部	円形	円筒状	38	—	22	—	90	28.23	縄文土器片6点	中世以降	33号土坑を切る。
P11	中央部	楕円形	鍋底状	64	—	54	—	107	28.22	台石2点, 礫3点	中世以降	39・52号土坑を切る。
P12	中央部	楕円形	円筒状	60	—	42	—	110	28.13	縄文土器片3点	中世以降	
P13	中央部	楕円形	円筒状	22	—	18	—	36	28.37	—	中世以降	31号土坑を切る。
P14	中央部	推定不整円形	円筒状	(40)	—	—	—	60	27.90	—	中世以降	42号土坑を切り, 26号ピットに切られる。
P15	中央部	円形	円筒状	42	—	48	—	90	28.15	縄文土器片2点	中世以降	58号土坑を切る。
P16	南部	推定円形	鍋底状	<60>	—	—	—	121	28.15	縄文土器片1点, 礫1点	中世以降	13号土坑を切る。
P17	中央部	推定楕円形	円筒状	<46>	—	<30>	—	152	28.13	—	中世以降	32号土坑を切り, 18号ピットに切られる。
P18	中央部	推定楕円形	鍋底状	<60>	—	<40>	—	158	27.87	—	中世以降	32号土坑, 17号ピットを切る。
P19	中央部	円形	円筒状	42	—	30	—	100	28.24	縄文土器片1点	中世以降	38号土坑を切る。
P20	中央部	楕円形	円筒状	50	—	42	—	42	28.24	—	中世以降	38号土坑を切る。
P21	中央部	楕円形	円筒状	40	—	32	—	50	28.86	—	中世以降	29号土坑を切る。
P22	中央部	不整楕円形	円筒状	36	—	30	—	28	28.43	—	中世以降	
P23	中央部	不整楕円形	円筒状	24	—	14	—	48	28.73	縄文土器片13点	中世以降	31号土坑を切る。
P24	中央部	推定円形	円筒状	(40)	—	—	—	66	27.84	—	中世以降	42号土坑を切り, 26号ピットに切られる。
P25	中央部	円形	円筒状	48	—	30	—	100	28.39	縄文土器片23点, 砥石1点	中世以降	20号土坑を切る。
P26	中央部	推定円形	円筒状	40	—	—	—	62	27.77	—	中世以降	42号土坑を切り, 14・24号ピットを切る。
P27	中央部	円形	円筒状	42	—	42	—	38	28.21	—	中世以降	30号土坑を切る。
P28	中央部	推定楕円形	円筒状	<54>	—	<50>	—	55	28.64	—	中世以降	34・49号土坑を切る。

法量の ( ) は推定値, < > は残存値

番号	位置	平面形態	断面形態	口径長軸 (cm)	口径短軸 (cm)	底径長軸 (cm)	底径短軸 (cm)	深さ (cm)	底部の標高 (m)	出土遺物	時期	備考
P29	中央部	推定円形	鍋底状	80	—	—	—	98	28.44	—	中世以降	25・26号土坑を切る。
P30	中央部	不整楕円形	円筒状	54	—	32	—	94	28.52	縄文土器片9点	中世以降	
P31	中央部	円形	円筒状	30	—	24	—	84	28.88	縄文土器片2点, 礫1点	中世以降	
P32	中央部	円形	円筒状	26	—	20	—	78	28.37	縄文土器片22点	中世以降	31号土坑を切る。
P34	中央部	楕円形	鍋底状	26	—	20	—	45	28.90	縄文土器片3点	中世以降	21号土坑を切る。
P35	中央部	隅丸方形	鍋底状	28	—	22	—	(40)	不明	—	中世以降	22号土坑を切る。

法量の ( ) は推定値, < > は残存値

### 3-4 遺物

今回の調査地点からは縄文土器, 須恵器, 石鏃, 打製石斧, 磨製石斧, 磨石, 敲石, 凹石, 蜂の巣石, 石皿, 台石, R・F (二次加工のある剥片), 剥片などが遺物収納箱にして約50箱分, 7,834点, 366.707kgが出土した。阿玉台式や加曽利E式などの縄文時代中期前葉～後葉の土器, および当該土器に伴うと思われる石器類が中心であり, 縄文時代以外の遺物としては, わずかに平安時代の須恵器片1点が出土しているだけにすぎない。以上の遺物のほとんどが遺構内, とりわけ縄文時代中期を中心とする土坑内から出土しているのも本地点の大きな特徴であり, これには1,419点, 248.418kgという多量の礫が伴っていることが注意される。

**縄文土器** 出土した縄文土器の総数は7,552点, 204.244kgを数える。その内訳は, 阿玉台Ⅱ～Ⅳ式土器1,751点, 55.084kg, 在地系の諏訪式土器74点, 5.332kg, 勝坂式土器6点, 0.327kg, 中峠式土器26点, 5.370kg, 加曽利EⅠ～Ⅲ式土器1,725点, 60.196kg, 大木7b～8a式土器560点, 18.373kg, 曾利式土器1点, 0.018kg, その他・不明あわせて3,409点, 59.544kgである。主体を占めるのは中期前葉～中葉・阿玉台式土器および中期後葉・加曽利E式土器であり, 両者をあわせた比率は出土土器全体の過半に近い46.0%, 型式の明らかな土器全体では83.9%にのぼる。これに次ぐのは東北系の大木式土器であるが, 出土比率はそれぞれ7.4%, 13.5%と小さく, 残る諏訪式土器・勝坂式土器・中峠式土器三者をあわせた出土比率はそれぞれ1.4%, 2.6%とごく限られる。

縄文土器の多くが当該期の土坑に伴うことは前述した通りである。大部分が破片での出土であるが, 細片は少なく, 5・7・12・13・18・28・38・42・48号の各土坑では完形ないし略完形土器の分布が確認されている。特に5号土坑では覆土中層から坑底近くにかけて阿玉台式と大木式を中心とする6点の土器が横位の状態で出土しており, さらに12号土坑でも阿玉台式と在地の諏訪式を中心とする3点の土器が横位あるいは逆位の状態で坑底に遺存していたことが注意される。

**須恵器** 中世の1号地下式墳(11号土坑)から平安時代の須恵器壺の胴部破片が1点出土しただけである。本遺構出土の多数の縄文土器や石器同様, 流れ込みによるものと思われる。

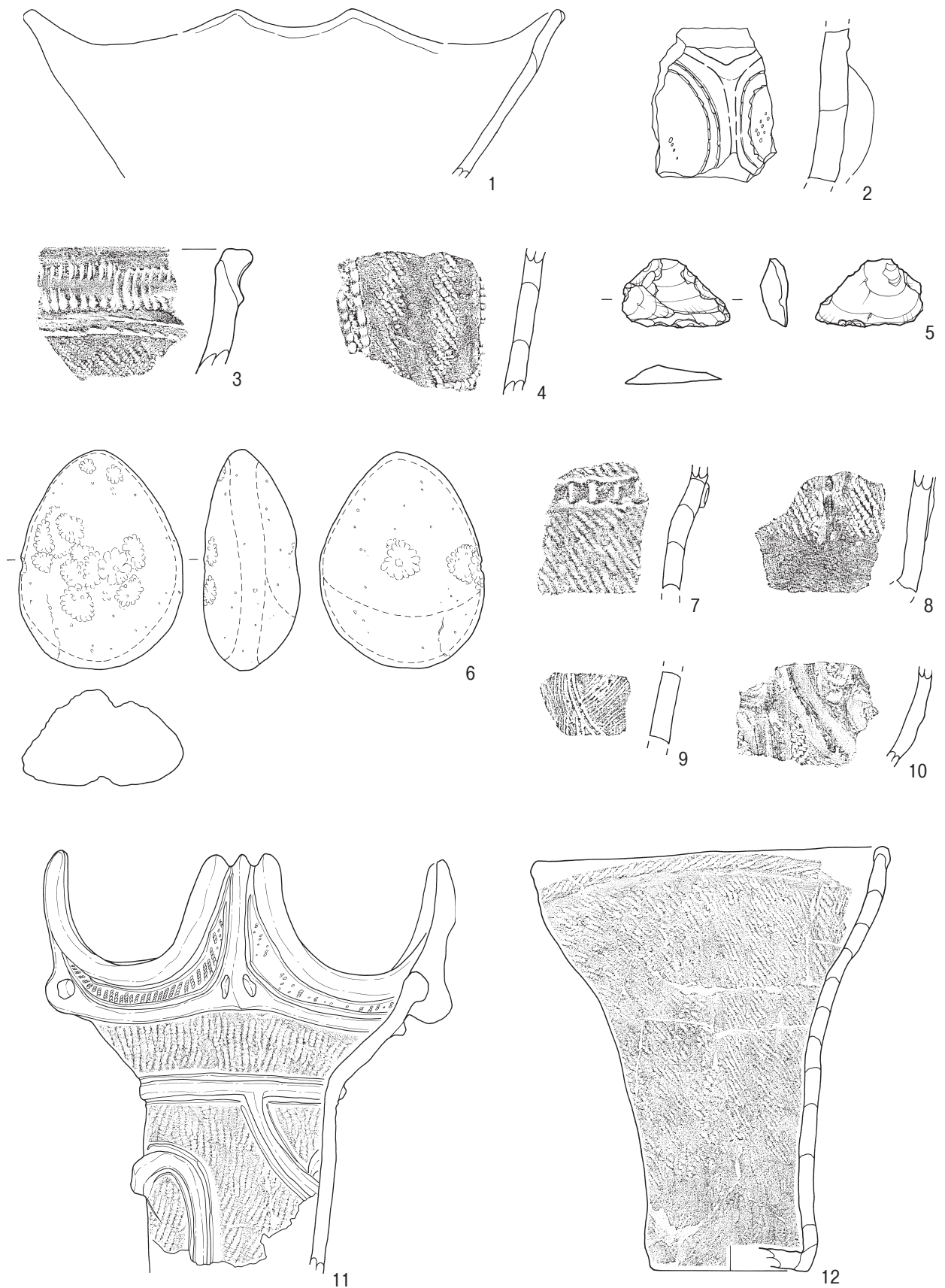
**石器** 石鏃4点, 打製石斧8点, 磨製石斧13点, 磨石110点, 敲石13点, 凹石10点, 石皿・蜂の巣石12点, 台石35点, R・F (二次加工のある剥片)11点, 剥片65点, あわせて281点, 162.455kgが出土している。縄文土器同様, 大部分が土坑に伴う形で出土しており, 縄文時代中期を

中心とする時期の所産と考えられる。

中部・南関東地方の同時期の遺跡と比べると全体的な量の貧弱さは否めないが、打製石斧の少なさに対して磨製石斧の出土数は比較的多く、この中には、未製品ではあるが32号土坑例のように垂飾への転用品と思われるものが含まれていることが注意される。

110点という多量の磨石の出土も特徴的な事実であり、石皿や蜂の巣石、台石などの出土とあわせて、多数の袋状やフラスコ状土坑が検出された本地点の性格の一端を暗示していた可能性が強い。前出の5号土坑では11点の磨石をはじめとして敲石・蜂の巣石・台石各1点が出土している。なお、本地点では、蜂の巣石は石皿や台石を転用したものが多く、両者の厳密な区分は難しい。

この他、1,419点、248.418 kgという多量の礫が出土している。土坑に伴うものが多いことは縄文土器や石器の場合と変わらない。出土状態には明瞭な傾向は認められず、赤化などの特徴もほとんどみられないことから、性格の特定は容易ではないが、完形ないし略完形土器の分布が確認された5号土坑や7号土坑ではそれぞれ70点にのぼる多数の礫が残されていたことが注意される。 (林)



0 (1:1) 3cm  
(5)

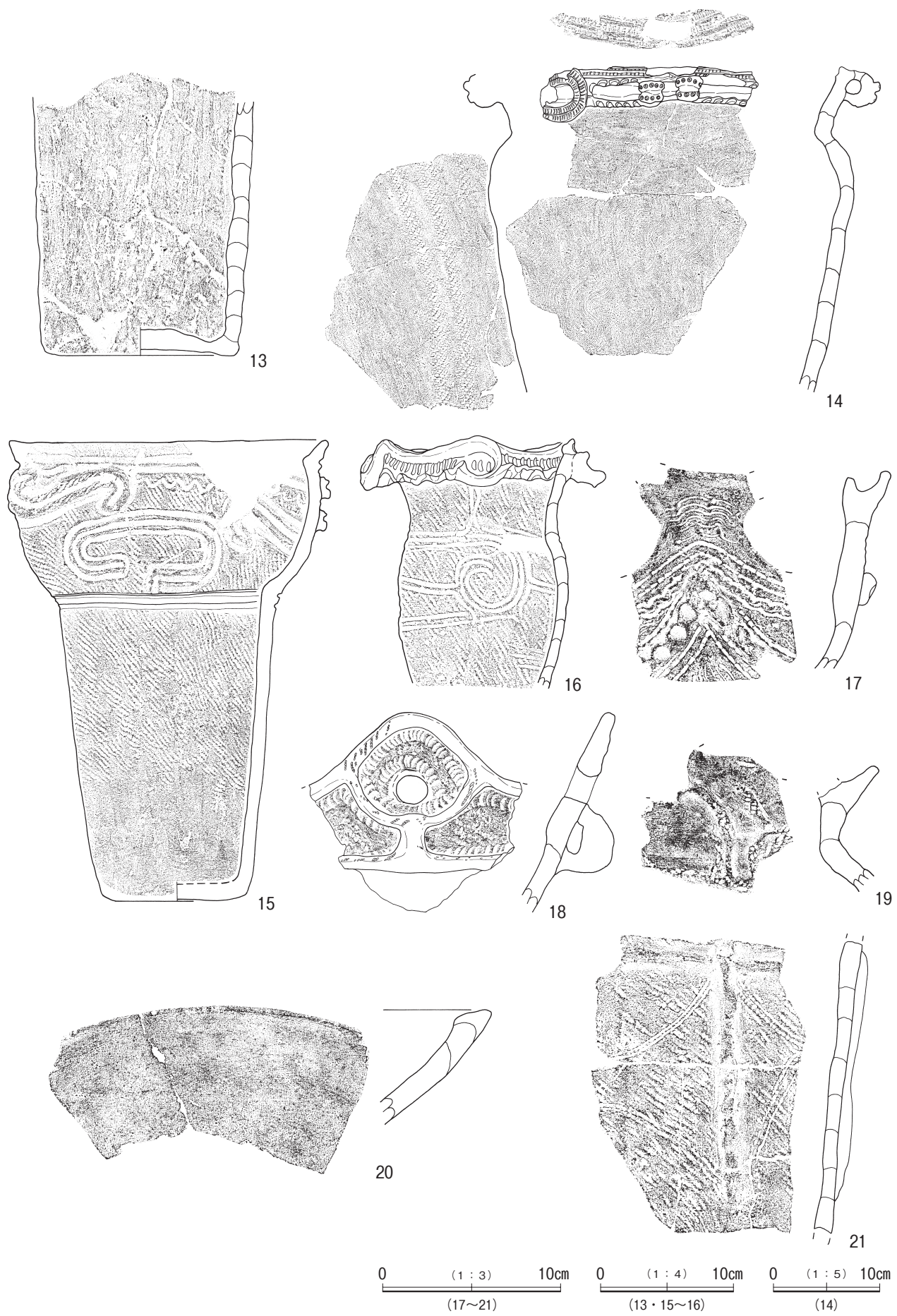
0 (1:3) 10cm  
(2~4·6~10)

0 (1:4) 10cm  
(11·12)

0 (1:5) 10cm  
(1)

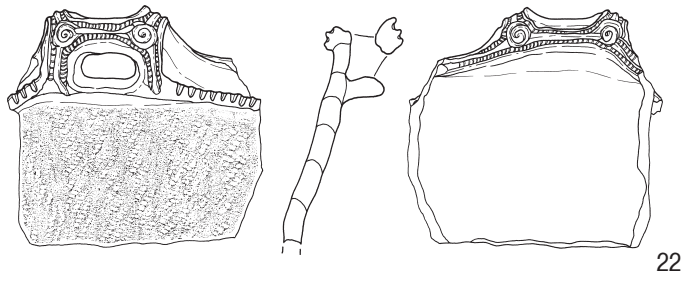
第35図 出土遺物(1)





第 36 図 出土遺物 (2)

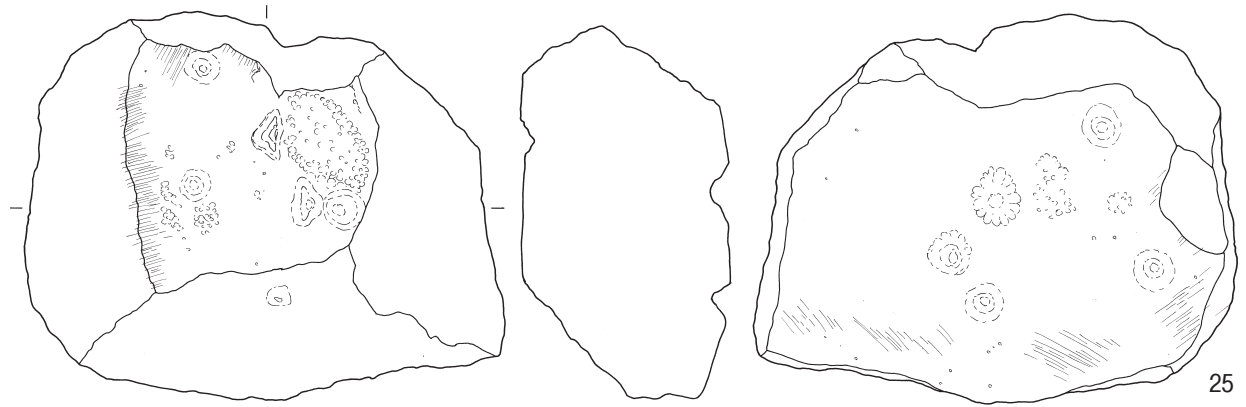




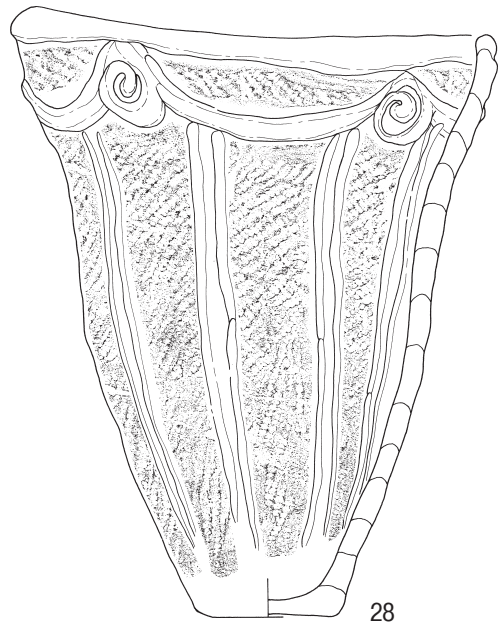
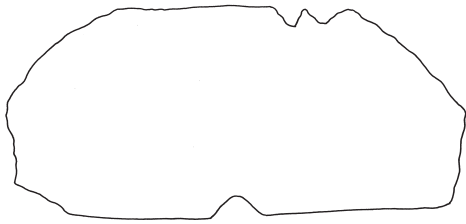
22



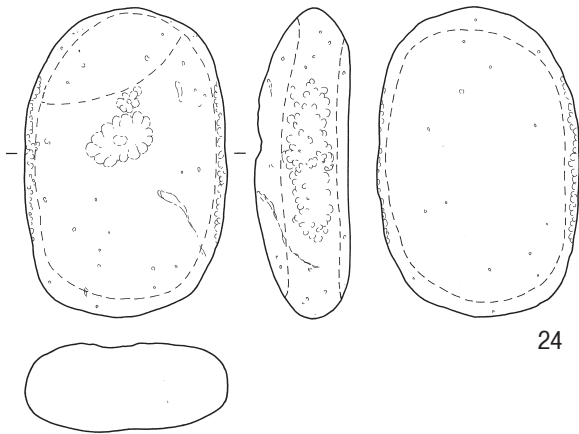
23



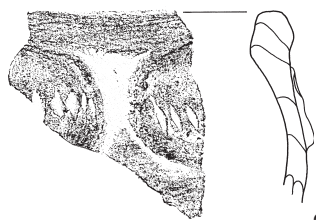
25



28



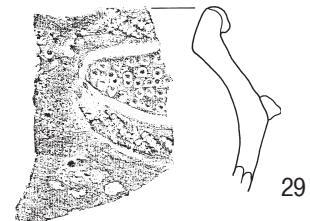
24



26



27

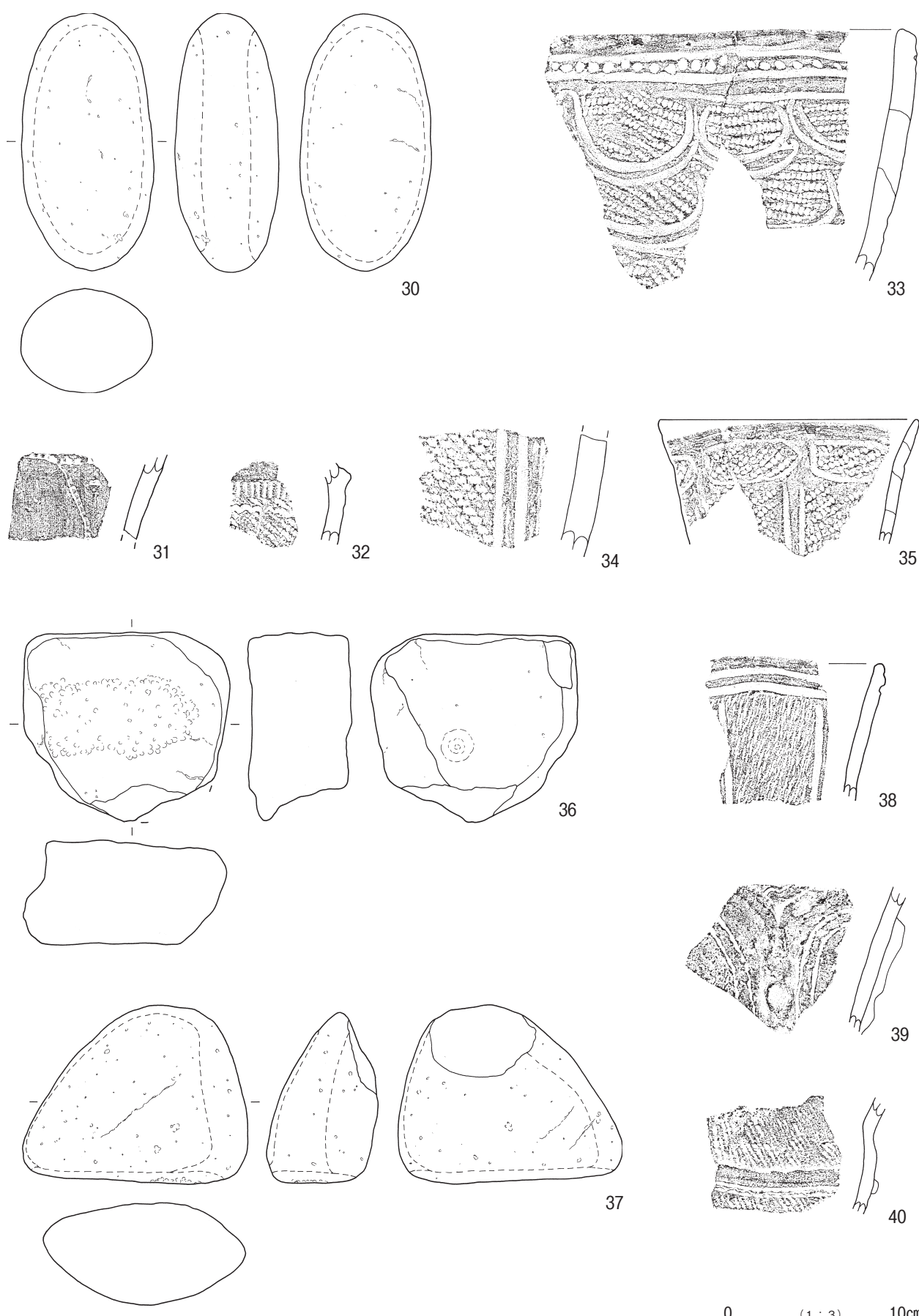


29

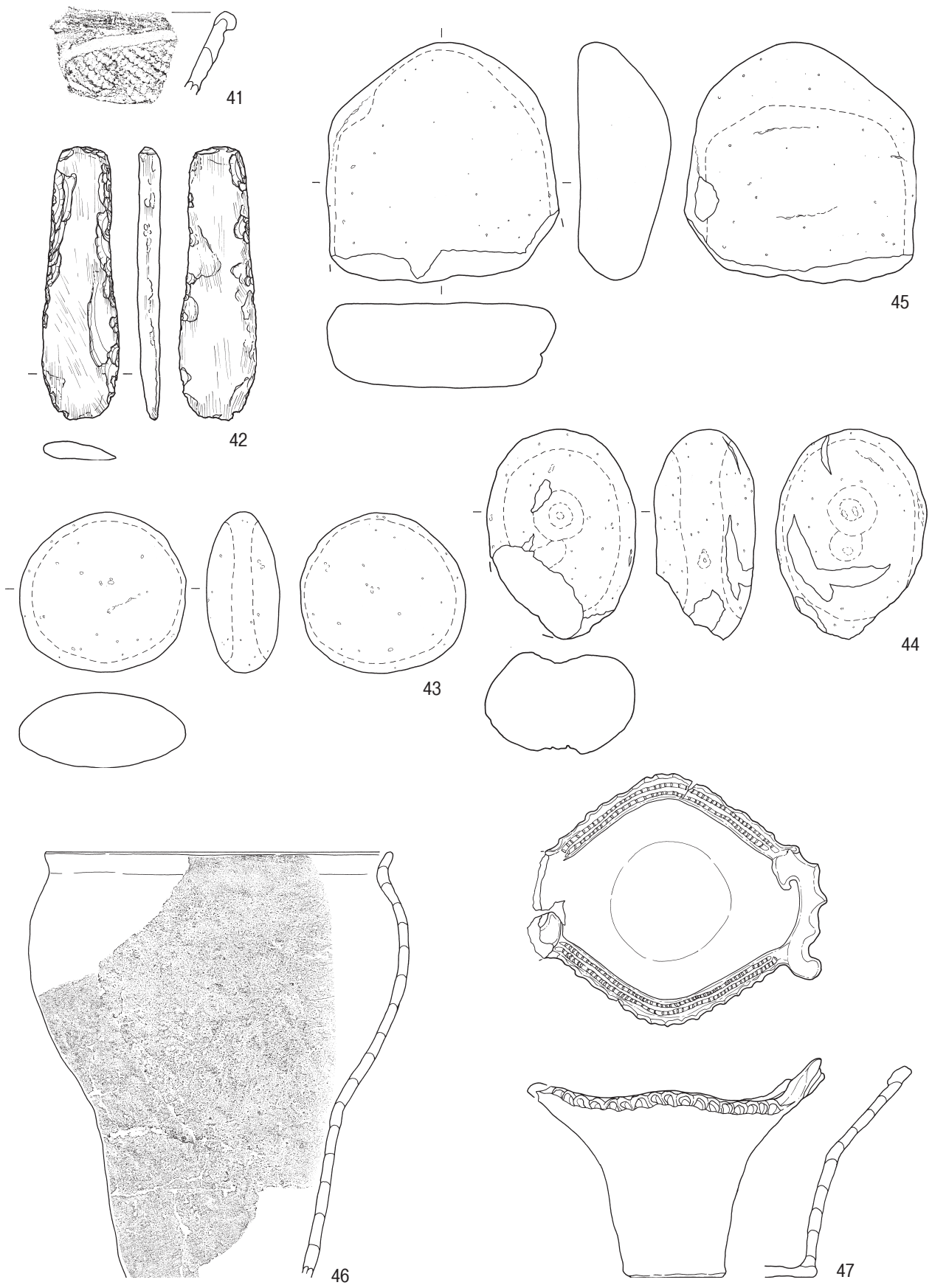
0 (1 : 3) 10cm  
(23 · 24 · 26 · 27 · 29)

0 (1 : 4) 10cm  
(22 · 25 · 28)

第 37 图 出土遺物 (3)

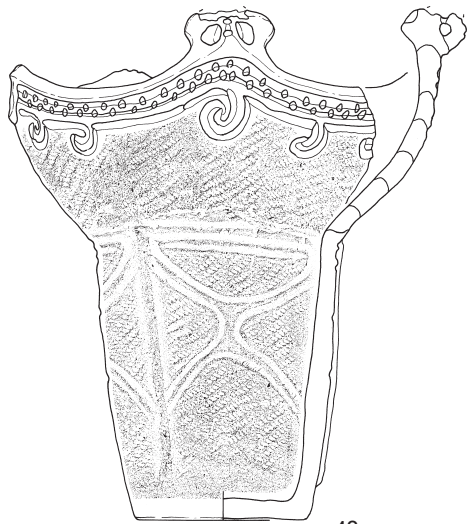


第 38 図 出土遺物 (4)

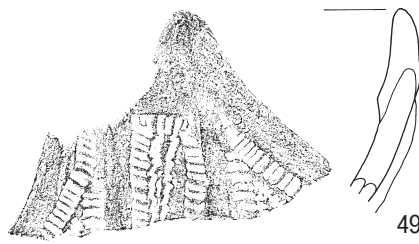


0 (1:3) 10cm (41~45)      0 (1:4) 10cm (47)      0 (1:5) 10cm (46)

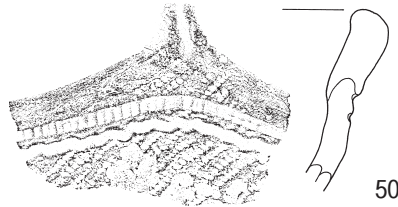
第 39 図 出土遺物 (5)



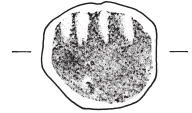
48



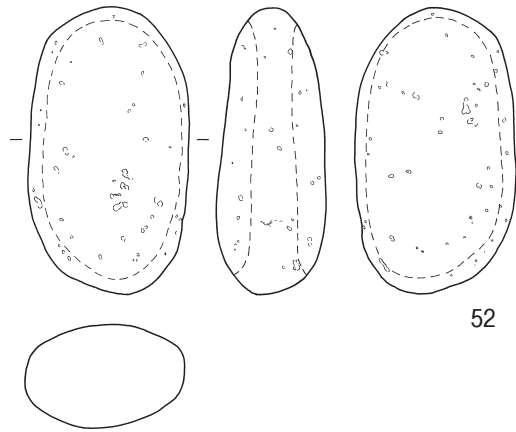
49



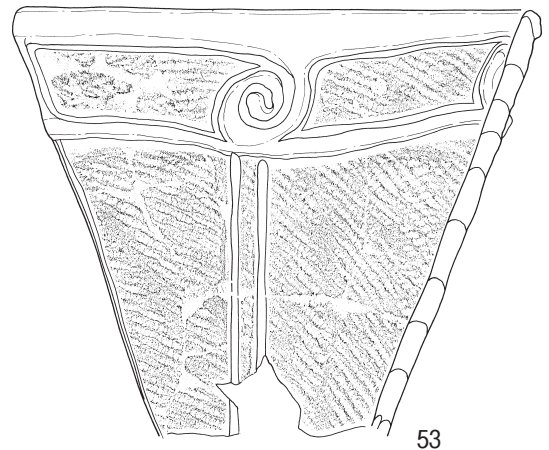
50



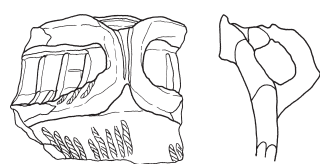
51



52



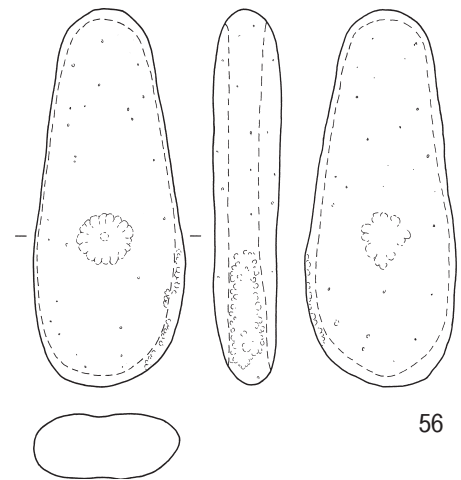
53



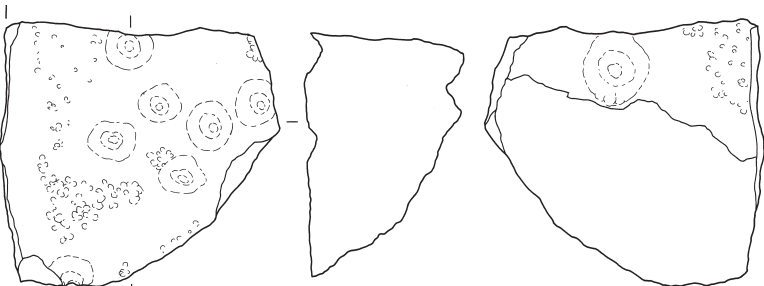
54



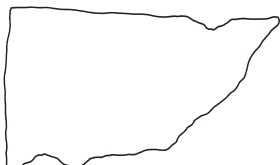
55



56



57



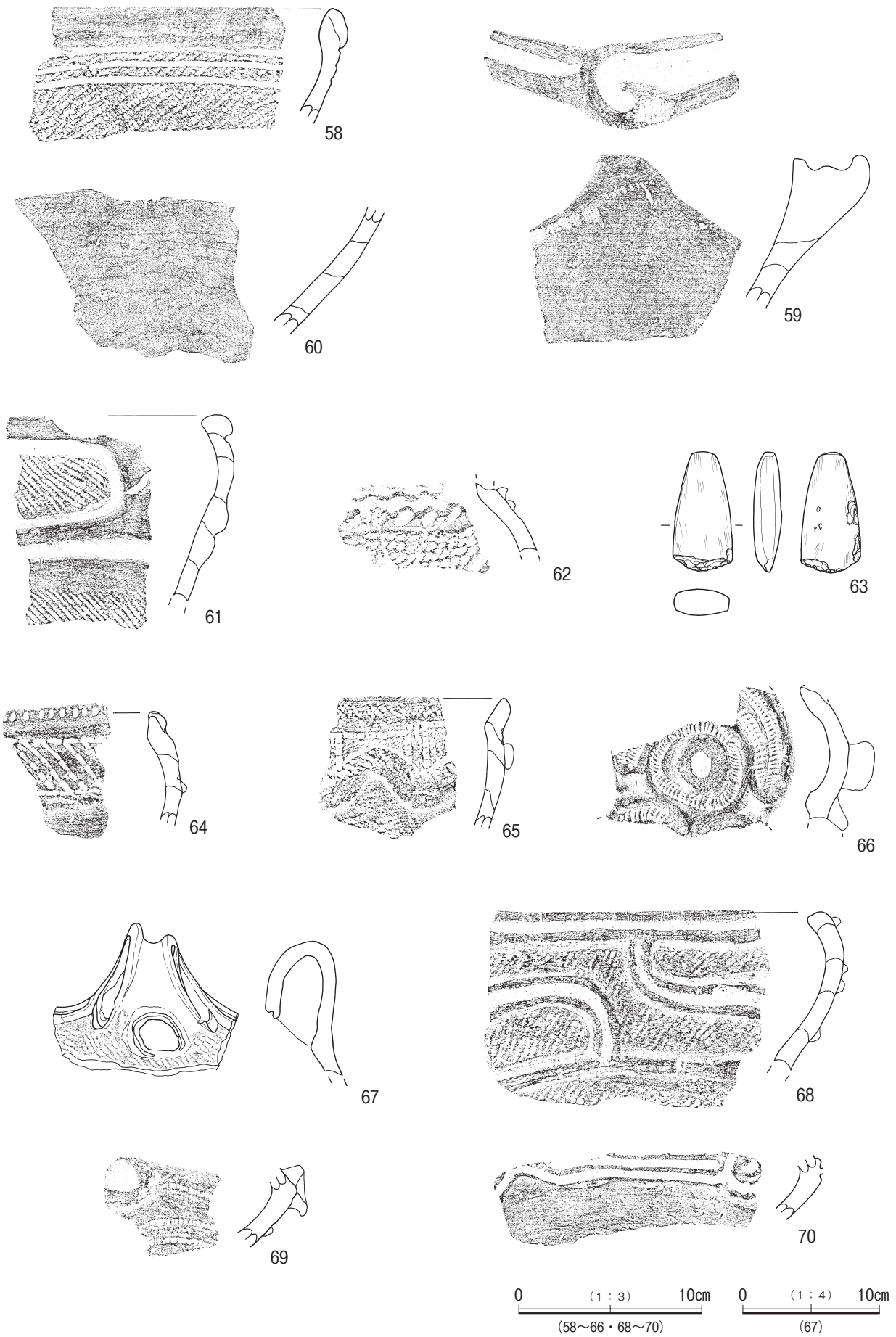
0 (1:2) 5cm  
(51)

0 (1:3) 10cm  
(49·50·52·54~57)

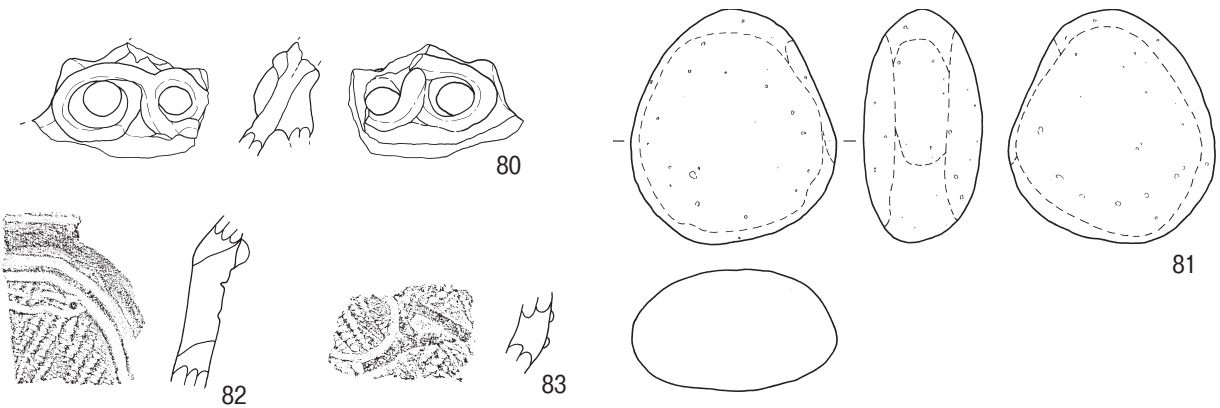
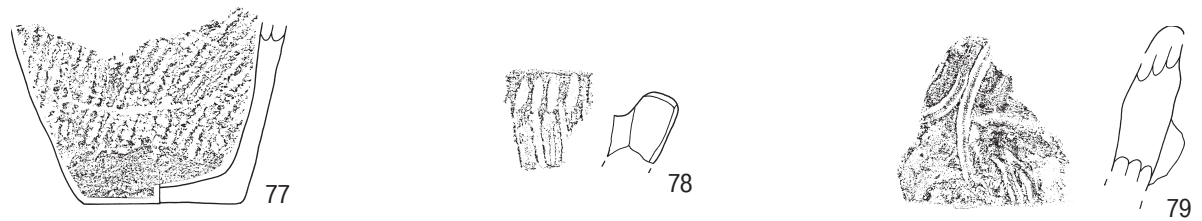
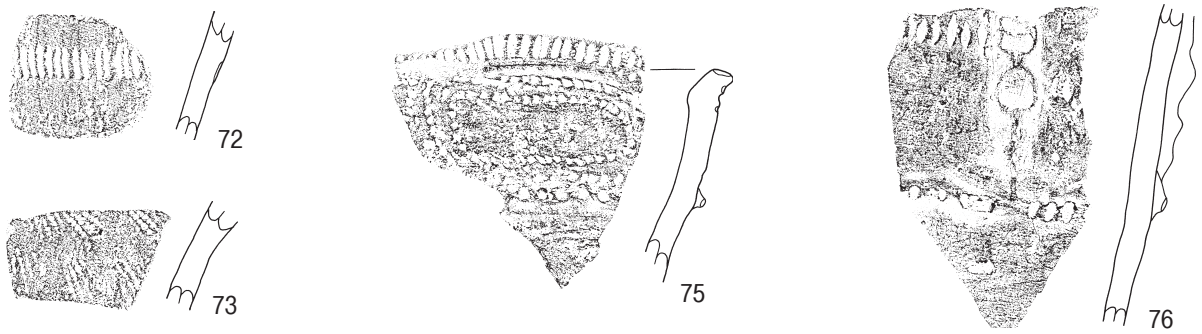
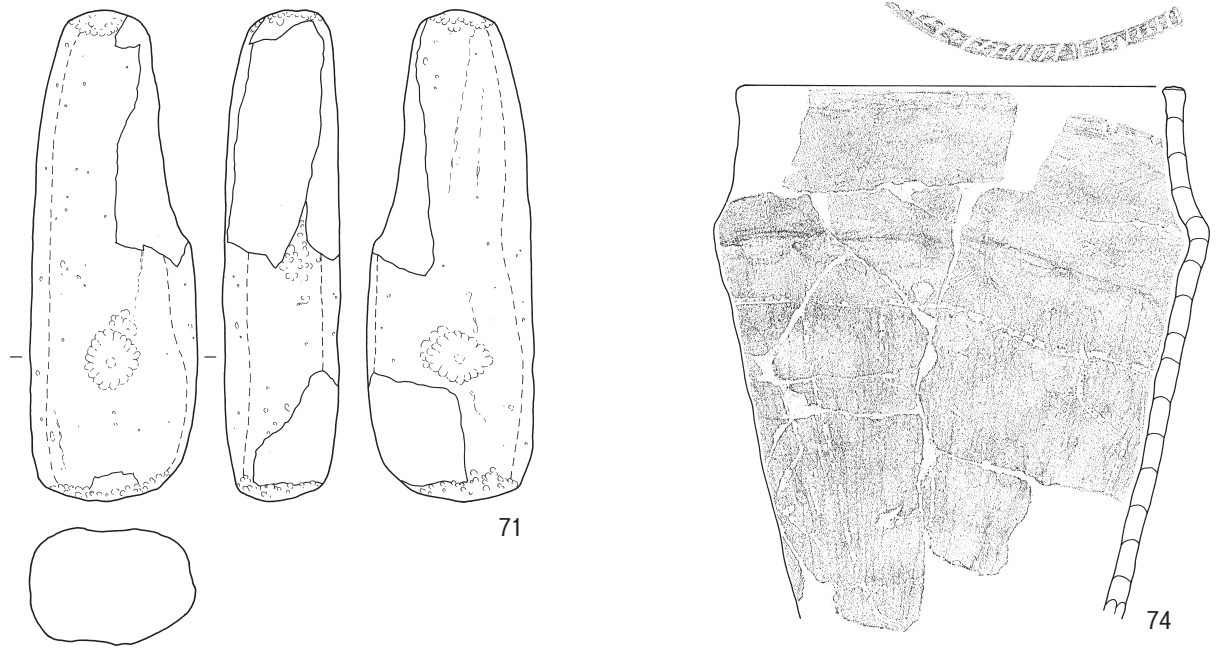
0 (1:4) 10cm  
(48·53)

第40図 出土遺物(6)





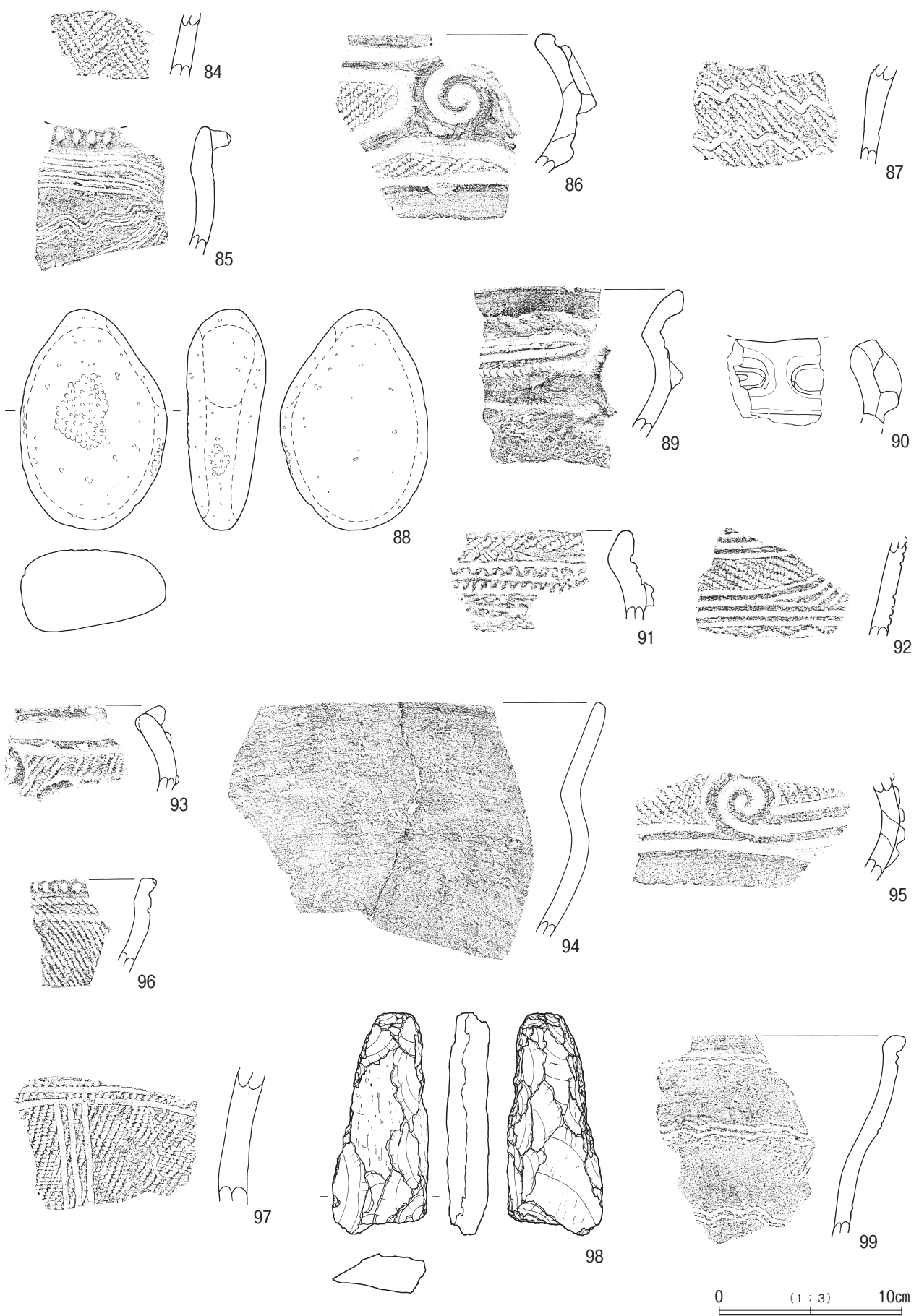
第 41 図 出土遺物 (7)



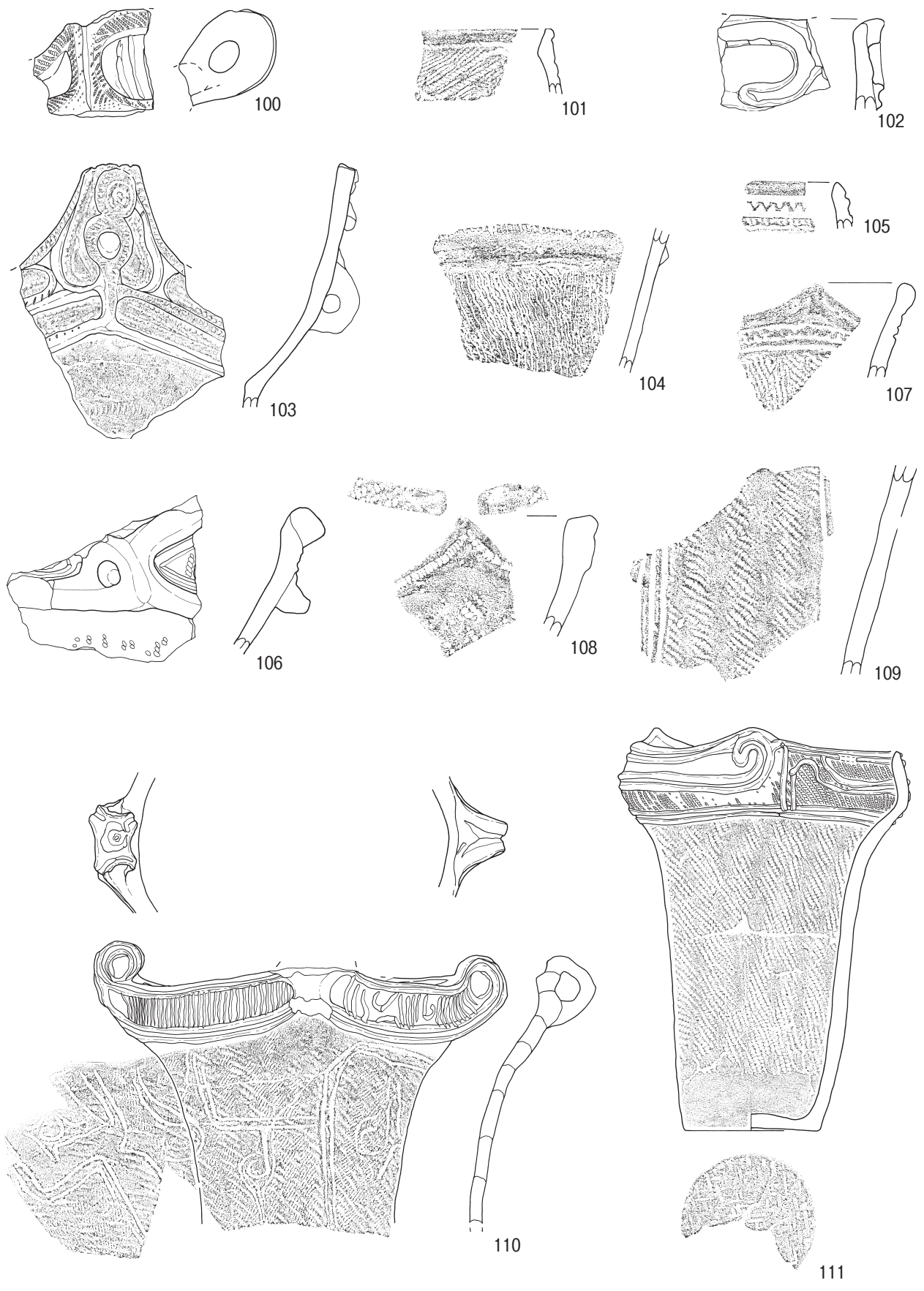
0 (1:3) 10cm (71~73・75~83)  
 0 (1:4) 10cm (74)

第42図 出土遺物(8)





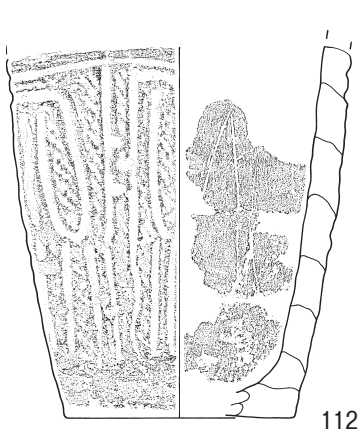
第 43 图 出土遺物 (9)



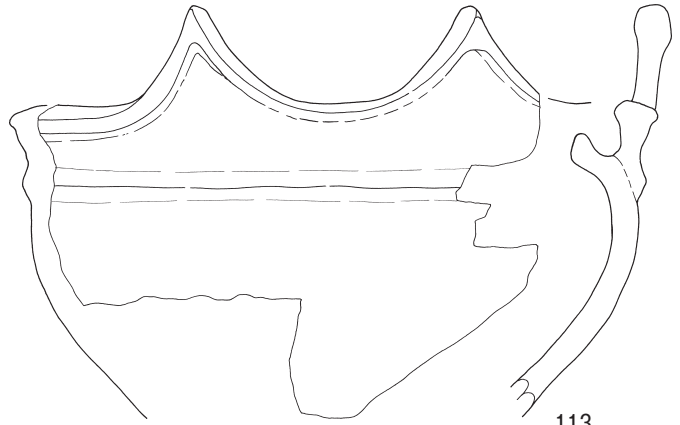
0 (1 : 3) 10cm  
 (100~102 · 104~109)

0 (1 : 4) 10cm  
 (103 · 110 · 111)

第 44 図 出土遺物 (10)



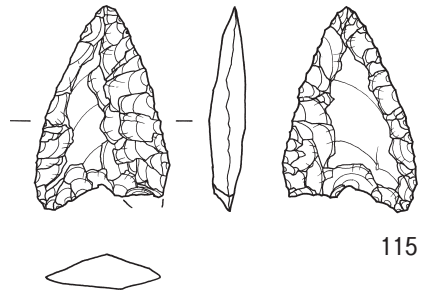
112



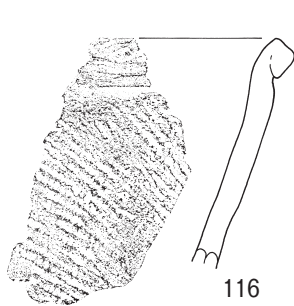
113



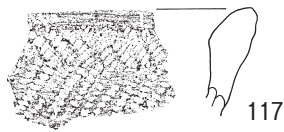
114



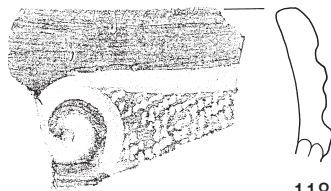
115



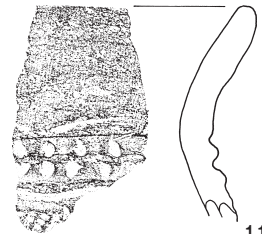
116



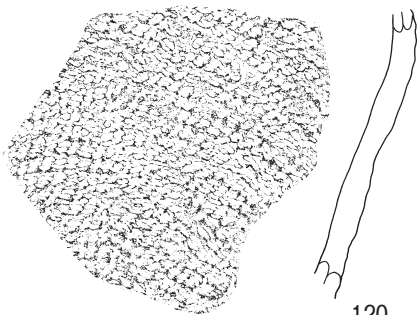
117



118



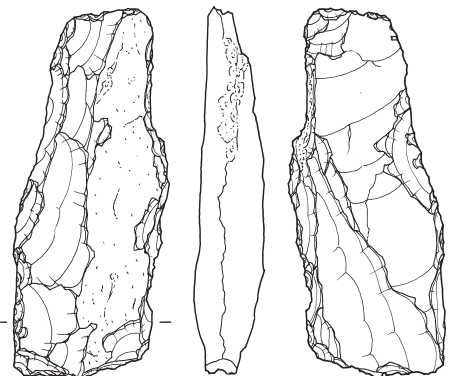
119



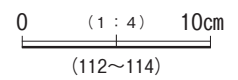
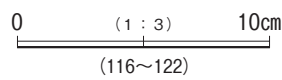
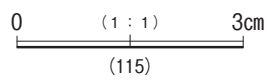
120



121

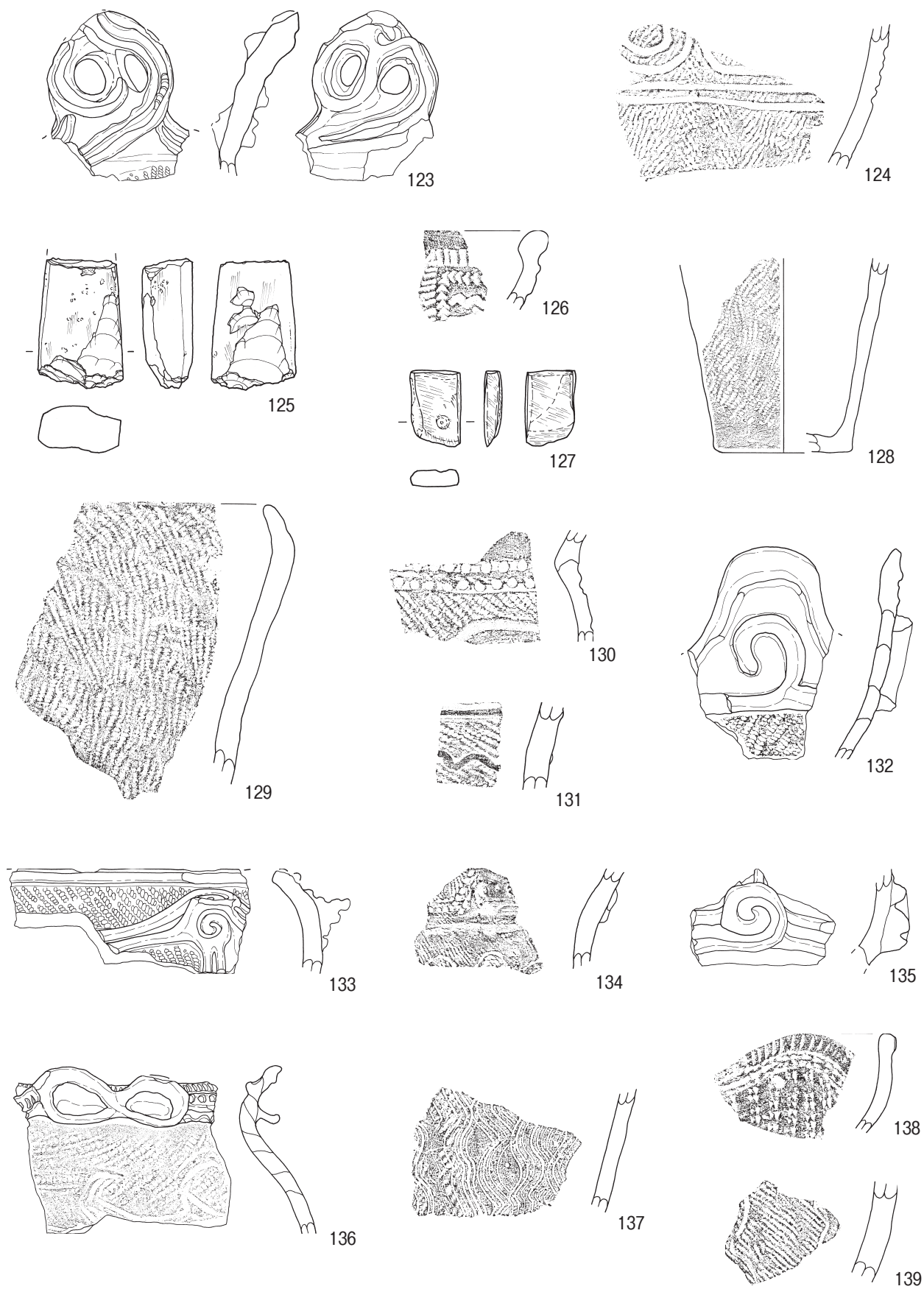


122



第 45 図 出土遺物 (11)

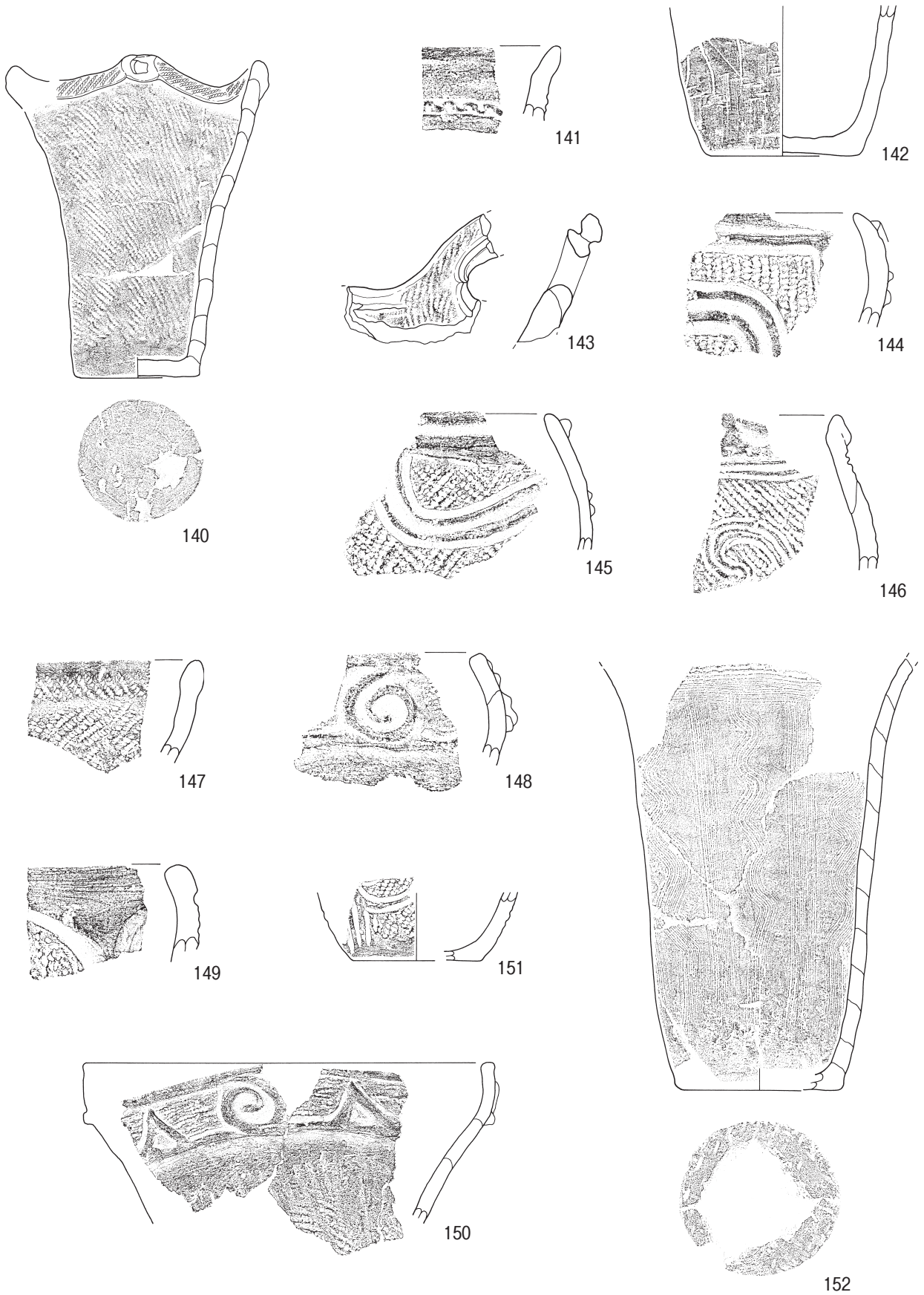




0 (1 : 3) 10cm  
 (123~127 · 129~132 ·  
 134 · 135 · 137~139)

0 (1 : 4) 10cm  
 (128 · 133 · 136)

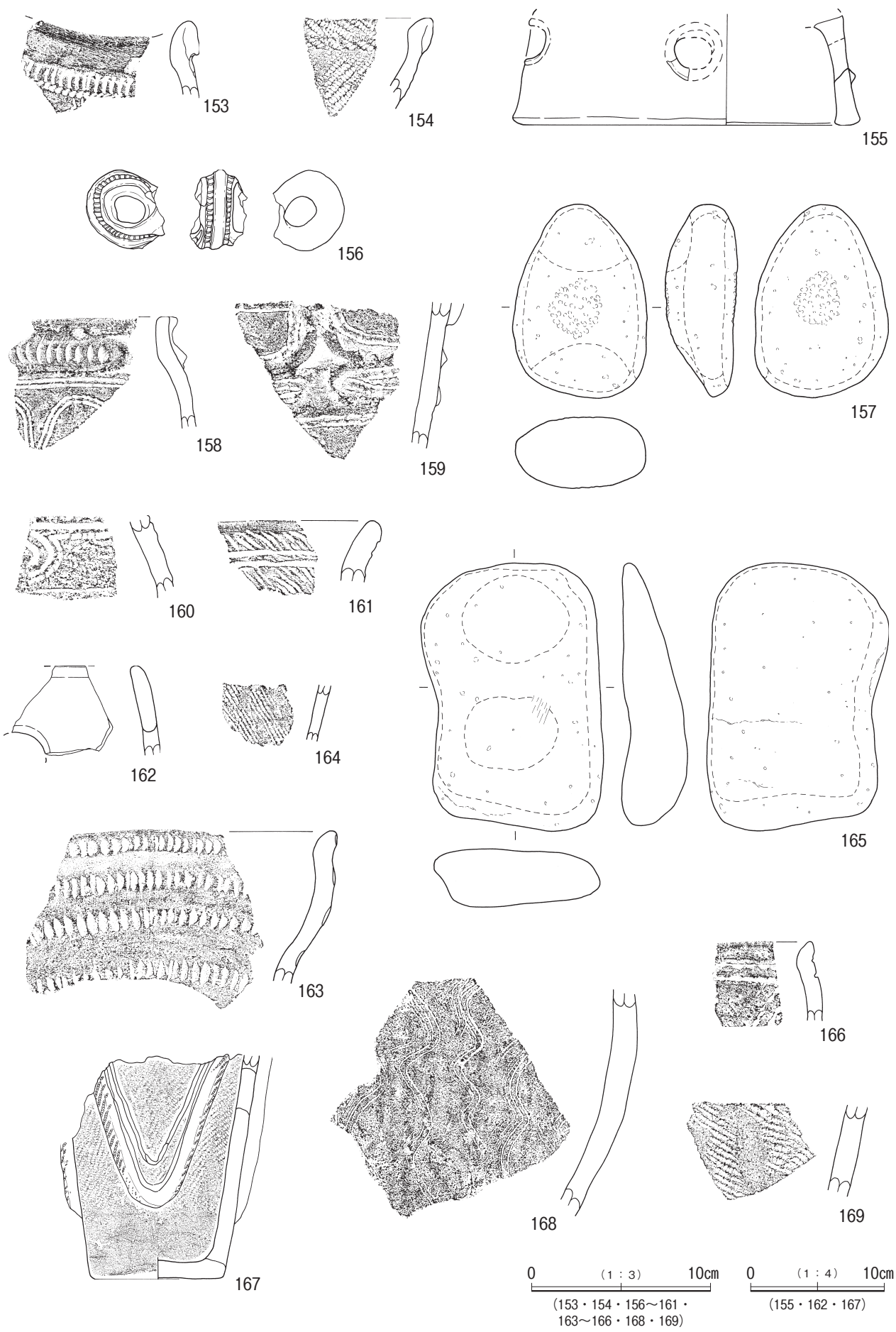
第 46 图 出土遺物 (12)



0 (1 : 3) 10cm  
(141 · 143~149)

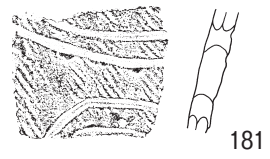
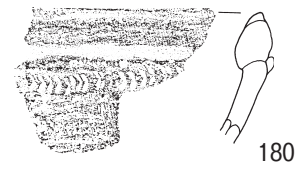
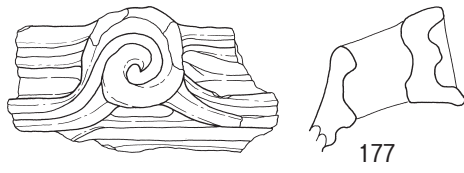
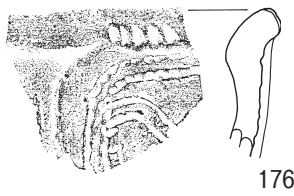
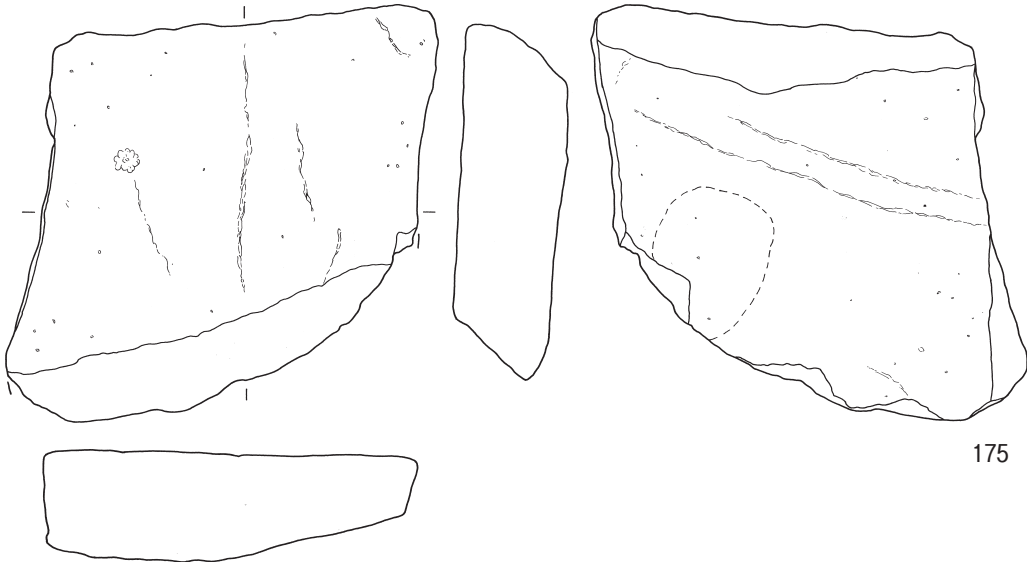
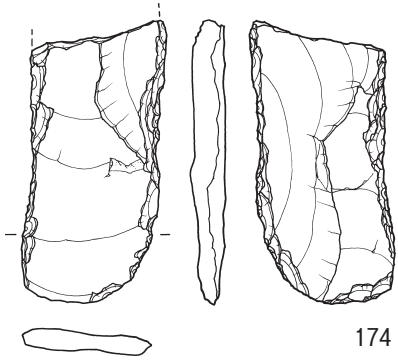
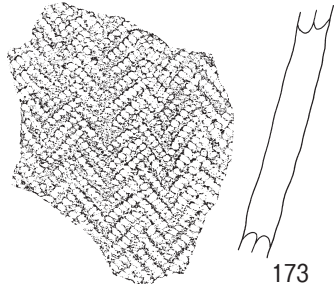
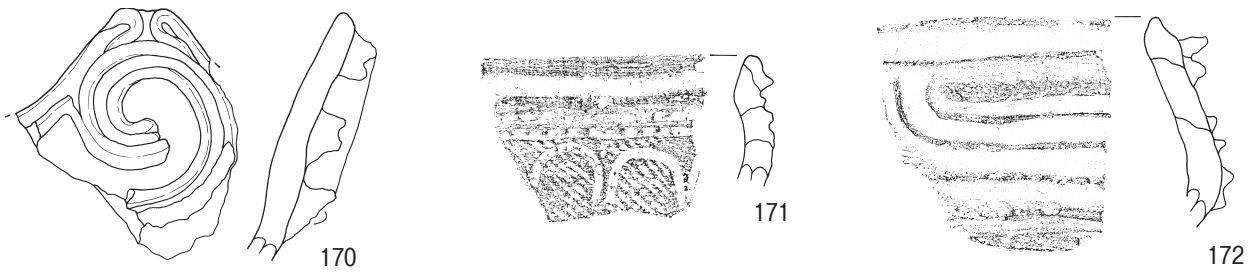
0 (1 : 4) 10cm  
(140 · 142 · 150~152)

第 47 図 出土遺物 (13)



第 48 图 出土遺物 (14)

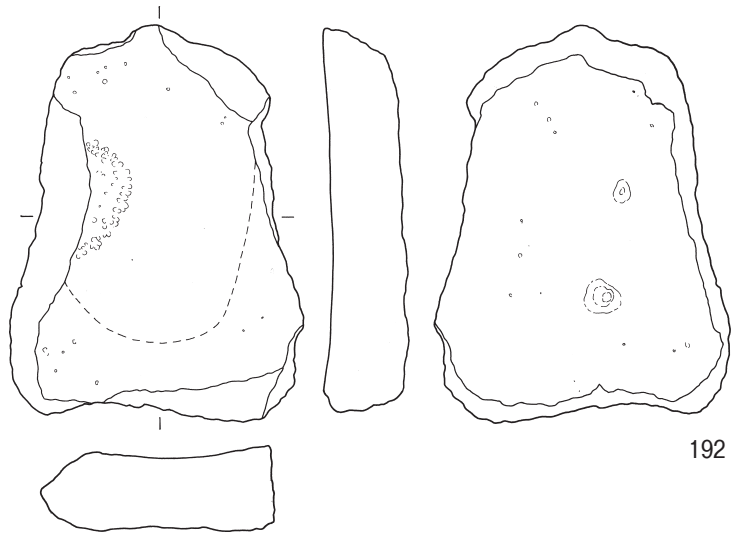
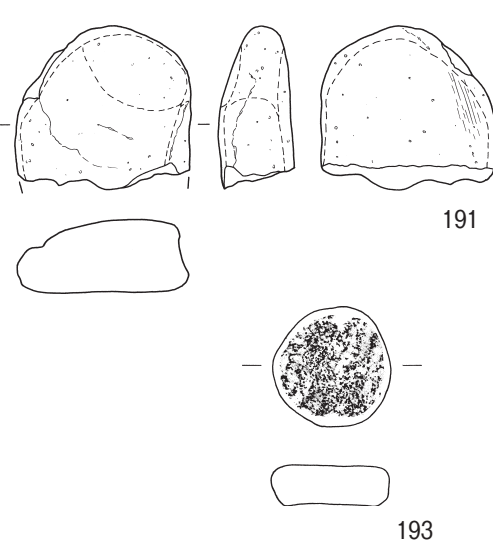
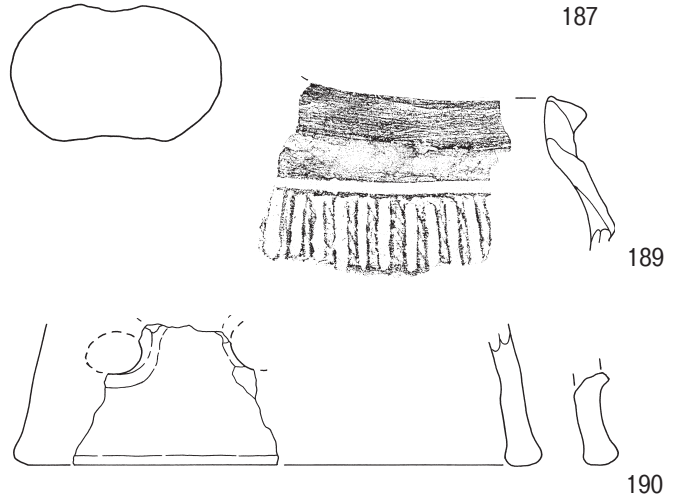
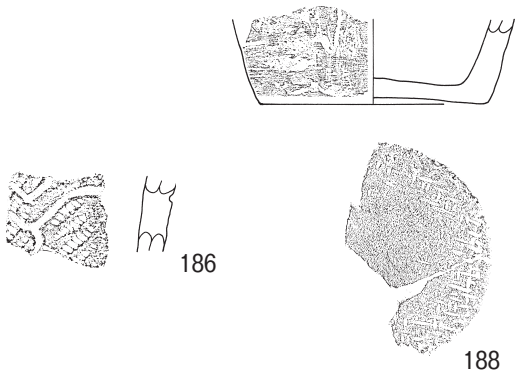
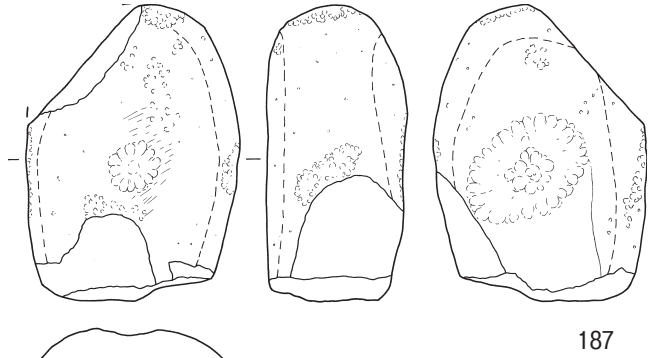
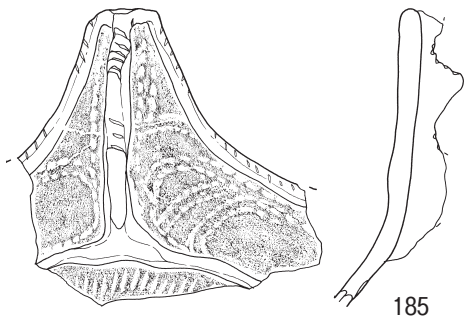




0 (1 : 3) 10cm  
(170~174 · 176 · 178~181)

0 (1 : 4) 10cm  
(175 · 177)

第 49 図 出土遺物 (15)



0 (1:2) 5cm (193) 0 (1:3) 10cm (183 · 184 · 186 · 187 · 189 · 191) 0 (1:4) 10cm (182 · 185 · 188 · 190 · 192)

第 50 图 出土遺物 (16)

第4表 出土土器属性一覧

図版番号	出土地点 遺構	種別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (推定口径) (cm)	底径 (推定底径) (cm)	器高 (残存高) (cm)	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
1	1号土坑	縄文土器	浅鉢	口縁部	—	—	—	—	双頂部をもつ無文の波状口縁部片。内外面とも横位のナデが施されている。内面に稜をもつ。	雲母多量、 角閃石	良好	外面：10YR1.7/1 黒色 内面：10YR4/2 灰黄褐色	阿玉台Ⅱ式
2	1号土坑	縄文土器	深鉢	頸部	—	—	—	—	楕円区画文に沿って押し引き刺突文が施されている。	角閃石・雲母・チャート	普通	外面：7.5YR6/6 橙色 内面：2.5Y5/3 黄褐色	阿玉台Ⅱ式
3	1号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	口縁直下に幅広の爪形文と縦位の刻目文を施し、以下に横位の刺突列を加え、下位に単節R L 縄文を施す。	角閃石・長石・雲母	良好	内外面：10YR5/4 にぶい黄褐色	勝坂式
4	1号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	降線による楕円状の区画内に沿って押し引き文が施されている。地文の縄文は単節L R の縦位回転である。	雲母・長石・チャート	普通	内外面：10YR3/1 黒褐色	大木 8a 式
7	2～4号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	刻目を加えた隆帯を巡らす。地文の縄文は単節R L 。	長石・角閃石・チャート	良好	外面：7.5YR4/6 褐色 内面：10YR3/1 黒褐色	勝坂式
8	2～4号土坑	縄文土器	深鉢	胴下部	—	—	—	—	縄文L R を施文し、垂下隆線文。	角閃石・チャート	良好	内外面：10YR6/4 にぶい黄褐色	加曾利 E I 式
9	2～4号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	曲線の条線文が描かれる。	角閃石	良好	内外面：10YR4/2 灰黄褐色	加曾利 E III 式
10	2～4号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	曲線的モチーフによる区画内に縄文R L を施す。	角閃石・長石・チャート	良好	外面：10YR6/4 にぶい黄褐色 内面：7.5YR4/2 灰褐色	
11	5号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	45	(27.0)	—	<29.6>	4単位波状口縁で、降線による施文が特徴的。降線に沿って半截竹管文による沈線。口縁部から胴部全体に単節R L の縄文が斜位、縦位に回転施文されている。	雲母・角閃石・チャート	良好	内外面：7.5YR4/3 褐色	阿玉台Ⅳ式
12	5号土坑	縄文土器	深鉢	略完形	90	25.4	11.0	29.4	平緑の口縁部直下に1段のみ無節L を横位に施し、以下にL を縦位回転で施文する。口縁直下の一部には、縄文地文上に条線文が垂下している。結節回転文もみられる。胴下半は無文の縦位のナデが加えられている。	角閃石・雲母・チャート	普通	内外面：10YR3/1 黒褐色	阿玉台Ⅳ式
13	5号土坑	縄文土器	深鉢	胴部～底部	60	—	(14.3)	<21.0>	無文で粗い縦位のナデが施されている。	角閃石・長石・チャート	不良	内外面：10YR4/3 にぶい黄褐色	阿玉台式
14	5号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	50	(32.6)	—	<30.6>	口縁部上端。突起、把手を欠損する。口唇部上面に押し引き爪形文が施され、環状把手には押し引き爪形文が残る。口縁部を区画する2条の押圧を伴う降線には、円形竹管文をつけた粘土紐が巻かれている。環状把手は2条の降線に付着している。胴部には条線による縦位の垂下文が主に施され、一部には3帯の単節R L 縄文が縦位回転で施されている。厚手の土器で内面は横位のナデが丁寧に施されている。縄文の施文が先行している。	角閃石・雲母	良好	外面：5YR4/4 にぶい赤褐色 内面：7.5YR3/2 黒褐色	中期中葉(大木 8a (古)、阿玉台Ⅲ式両者の特徴をもつ)
15	5号土坑	縄文土器	深鉢	略完形	80	(23.8)	11.0	34.5	平緑の口縁部文様帯上下を各2条の沈線で区画し、単節L R を縦位、斜位に施文して地文とする。その上に横位のS 字状、逆S 字状の隆帯を貼付。S 字状文は背割り沈線が加えられ、逆S 字状文には押し引き刺突による背割り沈線文が施され、隆帯にはL R 縄文が施される。隆帯文の周囲には鋸歯状文や弧線文が加えられている。口縁部の内面および体部上位は稜が明瞭である。体部上位にL R 縄文が縦位回転で施文されている。胴下位には横ナデが丁寧に施されている。	角閃石・長石・石英	普通	外面：10YR3/1 黒褐色 内面：7.5YR3/3 暗褐色	大木 8a 式
16	5号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	75	(14.6)	—	<18.9>	ゆるい4単位波状線、口唇部上面に浅い凹線が巡る。口縁直下に押捺を伴う降線が巡り、渦巻文が組み込まれている。降線には爪形状の刺突文が施されている。胴部には単節L R 縄文が縦位回転で施文され、その上に渦巻文と縦位、横位の沈線文が組み合わされている。	長石・雲母・白色粒子	普通	外面：7.5YR4/4 褐色 内面：10YR3/1 黒褐色	大木 8a 式
17	5号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	降線上に押圧を加え、押し引き刺突文を降線に沿って施文。上位には条線文が施文されている。	雲母多量、 チャート少量	良好	外面：7.5YR3/2 黒褐色 内面：%YR3/4 暗赤褐色	阿玉台Ⅱ式
18	5号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	小さな橋状把手を伴う波状口縁部片。L R 縄文地文上に爪形文が降線に沿って施文されている。	雲母多量、 角閃石・チャート少量	良好	内外面：10YR4/2 灰黄褐色	阿玉台Ⅲ式

( ) は推定値, < > は残存値

図版番号	出土地点 遺構	種別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (推定口径) (cm)	底径 (推定底径) (cm)	器高 (残存高) (cm)	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
19	5号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	外反の著しい口縁部破片。曲線的モチーフが描かれ、隆線にも縄文が施されている。	雲母・チャート・白色粒子	良好	内外面：7.5YR3/3 暗褐色	阿玉台Ⅳ式
20	5号土坑	縄文土器	浅鉢	口縁部	—	—	—	—	内面に稜が残り、口唇部直下に赤彩痕が残る。	雲母多量、 白色粒子	良好	内外面：7.5YR1.7/1 黒色	阿玉台式
21	5号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	横位区画下に縦位隆帯が垂下し、2本単位の細い押し引き刺突文によるX字状のモチーフが描かれている。地文の縄文はR縦位回転である。	角閃石・長石	普通	内外面：10YR5/4 にぶい黄褐色	諏訪式
22	5号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	中空把手を伴う区画隆帯で口縁部文様帯を形成し、刻目を付している。中空把手の内外面に押し引き刺突文と小渦巻貼付文が4か所つけられている。胴部の縄文は単節R Lの縦位回転である。	角閃石・チャート・白色粒子	良好	外面：5YR5/6 明赤褐色 内面：5YR3/1 黒褐色	大木8a式
23	5号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	甕形土器の破片。区画沈線文の下に蛇形隆帯が垂下している。地文は単節R L縦位回転である。	角閃石・雲母・チャート	普通	外面：10YR3/1 黒褐色 内面：10YR5/2 灰黄褐色	大木8a式
26	6号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	楕円区画内に縦位の刻目文が施されている。	雲母多量、 角閃石・白色粒子	良好	内外面：10YR4/2 灰黄褐色	阿玉台Ⅱ式
27	6号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	単節R L縄文上に曲線的モチーフが描かれている。	雲母多量、 チャート・白色粒子	良好	外面：7.5YR3/3 暗褐色 内面：5YR2/1 黒褐色	阿玉台Ⅳ式
28	7号土坑	縄文土器	深鉢	略完形	75	(24.2)	7.8	32.6	平縁のキャリバー型土器。低い隆帯によって渦巻つなぎ弧線文による口縁区画が施され、胴部に幅の狭い2本沈線による磨消帯が垂下している。8単位と思われる。胴部下半は丁寧な横ナデが加えられている。口縁部区画内は単節R L縄文の横位回転で胴部は縦位回転である。	角閃石・長石・チャート	良好	内外面：10YR6/4 にぶい黄褐色	加曾利EⅡ式
29	7号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	隆線による楕円区画文に沿って沈線が走り、区画内に円形竹管文が充填されている。隆線上にR L単節縄文が施されている。	雲母多量、 白色粒子	良好	外面：7.5YR4/3 褐色 内面：7.5YR3/1 黒褐色	阿玉台Ⅳ式
31	8号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	74と同一個体。	雲母多量、 角閃石	良好	外面：10YR3/1 黒褐色 内面：10YR5/2 灰黄褐色	阿玉台1b式
32	8号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	キャタピラ文と波状沈線文を施し、R L縄文が施されている。	角閃石・雲母・白色粒子	良好	外面：10YR3/1 黒褐色 内面：2.5Y6/3 にぶい黄色	勝坂式
33	8号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	平縁の口縁部片で、口縁直下に2条の沈線文を施し、沈線間に刺突文を加えている。R L縄文地上に2条の沈線による弧線文を2段に描いている。	砂粒・角閃石・長石・チャート	良好	外面：7.5YR2/1 黒色 内面：7.5YR4/3 褐色	加曾利EⅡ式 (連弧文系)
34	8号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	直線の磨消縄文で、複節R L縄文が縦位回転施文されている。	角閃石・長石・チャート	良好	外面：10YR6/4 にぶい黄褐色 内面：2.5Y5/2 暗灰黄色	加曾利EⅡ式
35	8号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	平縁の小型土器。口縁部に沈線による楕円区画文、以下に縦位の区画文を描き、内部には単節R L縄文が施される。	角閃石・長石、 石英微量	良好	内外面：10YR3/1 黒褐色	加曾利EⅢ式
38	10号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	口縁直下に2条の沈線文を施し、以下に縦位の磨消帯を描く。地文の縄文は、擦り戻しと思われる。	角閃石、 チャート微量	普通	内外面：10YR4/2 灰黄褐色	加曾利EⅡ式
39	11号土坑 (1号地下式壙)	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	Y字状隆帯に沿って押し引き刺突文が施されている。垂下隆帯には押圧が加えられている。	雲母・角閃石多量、 チャート	良好	内外面：10YR4/2 灰黄褐色	阿玉台Ⅱ式
40	11号土坑 (1号地下式壙)	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	横位隆帯に沿って沈線文が描かれる。地文縄文は無節Lである。	雲母・砂粒多量、 角閃石・チャート	普通	内外面：10YR5/3 にぶい黄褐色	阿玉台Ⅳ式
41	11号土坑 (1号地下式壙)	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	波状を呈する口縁部片で、沈線で楕円区画文を描く。地文はR L単節縄文である。	角閃石・長石・チャート	良好	外面：10YR4/2 灰黄褐色 内面：7.5YR4/4 褐色	加曾利EⅢ式
46	12号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部 ~胴部	80	(31.0)	—	<38.6>	平縁無文の甕形に近い器形である。内外面ともに横位のナデが加えられている。	砂粒・角閃石、 雲母多量	不良	外面：10YR2/2 黒褐色 内面：2.5Y5/3 黄褐色	阿玉台Ⅱ式 底面に逆立
47	12号土坑	縄文土器	深鉢	略完形	95	16.6	8.6	15.8	上面からみると横長楕円形を呈し、長軸の両端に横S字状の突起が付されている。口縁上端に1条の波状隆帯が走り、口縁の内面に2条の押し引き文が施されている。内面は横位のナデ、外面は縦位のナデが施されている。	角閃石・雲母多量、 チャート少量	普通	内外面：7.5YR3/2 黒褐色	阿玉台Ⅱ式

( ) は推定値, < > は残存値

図版番号	出土地点 遺構	種別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (推定口径) (cm)	底径 (推定底径) (cm)	器高 (残存高) (cm)	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
48	12号土坑	縄文土器	深鉢	略完形	90	(22.2)	9.2	<27.2>	5単位の波状口縁で、1ヶ所小さな橋状突起をつけている。突起以外の波頂部に3単位の刻み。口縁直下には交互刺突文が巡り、1ヶ所の半円弧状の区画がなされ、波状沈線が施されている。口縁部から胴部にかけて単節R Lが縦位回転で施文され、小さなT字状文や縦位区画文が付される。胴部にも5単位の隆線が垂下し、X字状の2条の沈線によるモチーフが描かれる。	長石少量、 雲母多量	良好	内外面：7.5YR3/2 黒褐色	諏訪式（大木7b（新）～8a（古））
49	12号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	波頂部片で、縦位の隆帯区画に沿ってキョウヒラ文と波状文を描く。	雲母多量、 白色粒子	良好	内外面：10YR4/2 灰黄褐色	阿玉台Ⅲ式
50	12号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	縄文R L地文上に押し引き刺突文と波状沈線文を描く。	雲母多量、 チャート・ 黒色粒子	良好	内外面：7.5YR6/4 にぶい橙色	大木8a（古） 式
51	12号土坑	縄文土器	土製円板	—	—	—	—	—	円形に整形している。上位に刺突文が残る。	角閃石・長石	良好	外面：10YR3/1 黒褐色 内面：10YR4/2 灰黄褐色	阿玉台Ⅱ式
53	13号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部 ～胴部	60	(26.8)	—	<22.6>	平縁のキャリバー形を呈し、整った渦巻文と長方形の区画による口縁部文様帯と幅の狭い2本単位の沈線による磨消帯が垂下している。地文の縄文は単節L Rの縦位回転を主とするが、斜位回転の部分もある。内面の横ナデは丁寧である。	角閃石・長石・ チャート	良好	内外面：10YR6/4 にぶい黄褐色	加曾利EⅡ式
54	13号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	楕円形を呈する区画内に縦位の短沈線文を描く。区画の上には沈線による円形のモチーフを描く。無節Lの縄文が施されている。	雲母・角閃石・ 長石	良好	外面：10YR3/1 黒褐色 内面：7.5YR2/2 黒褐色	阿玉台Ⅳ式
55	13号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	R L縄文地文上に横位の沈線文を3条描く。	雲母・角閃石・ 多量、白色粒子	普通	外面：10YR3/2 黒褐色 内面：10YR5/3 にぶい黄褐色	阿玉台Ⅳ式
58	14号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	55と同一個体か？R L単節縄文による縦位地文上に3条の沈線が巡る。	雲母多量、 角閃石・白色粒子	普通	外面：10YR3/1 黒褐色 内面：10YR4/2 灰黄褐色	阿玉台Ⅳ式
59	14号土坑	縄文土器	浅鉢	口縁部	—	—	—	—	内外面無文。口唇部に大沈線による渦巻文を描く。同所に赤彩痕が残る。	角閃石・長石・ チャート	良好	内外面：10YR3/1 黒褐色	加曾利EⅠ式
60	14号土坑	縄文土器	浅鉢	胴部	—	—	—	—	無文で内外面に赤彩痕がある。	長石・チャート	良好	内外面：10YR1.7/1 黒色	加曾利EⅠ式
61	14号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	平縁の深鉢。低隆帯と浅い凹線による楕円区画内に単節R L縄文を施文する。	角閃石・長石・ 雲母	良好	外面：10YR4/2 灰黄褐色 内面：7.5YR4/4 褐色	加曾利EⅡ式
62	14号土坑	縄文土器	深鉢	頸部	—	—	—	—	交互刺突文が2条巡り、以下に複節縄文が施されている。	角閃石・チャート	良好	内外面：10YR7/4 にぶい黄褐色	大木8a式
64	15号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	口唇部上面に刻みを加え、楕円形の口縁部区画内に1列の押し引きを巡らし、内部に斜位の押し引きを充填する。	雲母多量、 白色粒子	良好	外面：10YR3/2 黒褐色 内面：7.5YR4/4 褐色	阿玉台Ⅰb式（新）
65	15号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	R L単節縄文地文上に波状隆帯を施し、縦・横位の押し引き文を加える。口縁部と隆帯上にR Lを施文。	雲母多量、 角閃石・チャート	良好	内外面：10YR3/2 黒褐色	阿玉台Ⅲ式
66	15号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	波頂部片。曲線的隆線モチーフに沿って押し引き爪形文を描く。	長石・雲母	良好	外面：7.5YR3/1 黒褐色 内面：7.5YR4/4 褐色	勝坂式
67	15号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	中空の把手を持つ。口唇部に1条の沈線を巡らす。以下に縄文L Rを縦位に回転する。	角閃石・長石、 石英微量	良好	内外面：2.5Y5/3 黄褐色	加曾利EⅠ式
68	15号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	平縁のキャリバー形を呈する。口唇部に1条の沈線を巡らし、口縁部文様帯を1条の隆線で区画し、区画内に2条単位の隆線でクランク文を描く。地文はR Lの縦位施文である。炭化物が付着している。	角閃石・長石	良好	内外面：10YR2/2 黒褐色	加曾利EⅠ式
69	16号土坑	縄文土器	浅鉢	頸部	—	—	—	—	円形の貼付突起を有する。幅狭の爪形状の押し引き文が隆線に沿って描かれている。内面に赤彩痕が残る。	雲母多量、 角閃石	普通	内外面：7.5YR5/4 にぶい褐色	勝坂式
70	16号土坑	縄文土器	浅鉢	胴部	—	—	—	—	横位の沈線文と渦巻文が施されている。このモチーフは全体に赤彩が良く残っている。	角閃石・長石・ 雲母	良好	外面：10YR5/4 にぶい黄褐色 内面：7.5YR5/4 にぶい褐色	加曾利EⅠ式
72	17号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	竹管状工具による刺突文が付されている。	雲母多量、 角閃石	不良	外面：10YR3/2 黒褐色 内面：10YR5/4 にぶい黄褐色	阿玉台Ⅱ式
73	17号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	L R単節縄文による縦位回転で、間隔をあけて施文している。	角閃石・白色粒	良好	内外面：10YR4/2 灰黄褐色	大木8a式

( ) は推定値, < > は残存値



図版 番号	出土地点 遺構	種別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (推定口 径) (cm)	底径 (推定底 径) (cm)	器高 (残存 高) (cm)	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
74	18号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部 ～胴部	60	(23.8)	—	<28.0>	平縁で、口縁部下位で逆くの字状に屈曲する。口唇部断面形は角頭状を呈し、縦位、斜位の刻目を付している。屈曲部下位に1条の幅狭の押し引きの刺突文が巡り、そこから屈曲する垂下文（押し引きによる刺突文）と直線文が施されている。口縁部は横位のミガキが丁寧である。	雲母多量、角閃石、石英・チャート微量	良好	外面：10YR3/1 黒褐色 内面：10YR5/2 灰黄褐色	阿玉台Ⅰb ～Ⅱ式
75	18号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	楕円区画文の内側に沿って押し引き刺突文が施されている。区画隆帯には押圧が加えられている。内面に稜がある。	雲母・白色粒子多量、角閃石	普通	外面：7.5YR4/2 灰褐色 内面：7.5YR4/6 褐色	阿玉台Ⅱ式
76	18号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	区画隆帯が横位に巡り、刻み目が付されている。それに連結するように垂下隆帯が施され、押圧が加えられている。横位に貝殻による刺突文が垂下隆帯を挟んで施される。	雲母・角閃石・白色粒子多量	普通	外面：10YR4/2 灰黄褐色 内面：10YR5/3 にぶい黄褐色	阿玉台Ⅱ式
77	18号土坑	縄文土器	深鉢	底部	—	—	—	—	胴部下半に単節R L縄文が縦位回転で施され、底面直上は横位のナデが施されている。	角閃石・長石・チャート	普通	外面：10YR6/6 明黄褐色 内面：10YR2/1 黒色	加曾利EⅠ 式
78	18号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	肥厚する口縁部片で、口唇部上面に刻み目を施し、内面に段を有する。外面には縦位の沈線を描く。	角閃石・白色粒子	普通	内外面：10YR2/1 黒色	曾利Ⅱ式
79	19号土坑	縄文土器	深鉢	頸部	—	—	—	—	波頂部片で、隆帯に沿って半截竹管文が施されている。	雲母・角閃石・チャート	良好	外面：7.5YR6/6 橙色 内面：10YR4/2 灰黄褐色	阿玉台Ⅳ式
80	19号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	器体のない外面に粘土紐による貼付文が施されている。	長石・チャート、白色粒子多量	普通	内外面：7.5YR5/6 明褐色	大木8a式
82	20号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	胴上部片で内面に稜がある。隆帯に沿って沈線文が施され、波状沈線文がR L単節縄文地文上に加えられている。	雲母多量、チャート・白色粒子・黒色粒子	良好	内外面：7.5YR3/3 暗褐色	阿玉台Ⅳ式
83	20号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	キャリパー形土器で口唇部を欠く。縄文地文上に貼付隆線によるモチーフを描く。	角閃石・雲母・チャート	普通	内外面：7.5YR2/2 黒褐色	大木8a式
84	20号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	縦位羽状縄文が施されている。	角閃石・長石	普通	内外面：10YR5/4 にぶい黄褐色	大木8a式
85	21号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	波状口縁部片で、隆帯上に刻み目が施されている。隆帯区画に沿って押し引き沈線文が施され、その中に波状沈線が施されている。	雲母多量、チャート	普通	外面：10YR6/6 明黄褐色 内面：5YR5/6 明赤褐色	阿玉台Ⅱ式 (新)
86	21号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	口唇部無文帯をもつキャリパー形深鉢。L R L縄文地文上に渦巻文と楕円区画文を描いている。隆線に沈線文が沿う。	角閃石・雲母・白色粒子	良好	外面：10YR4/2 灰黄褐色 内面：7.5YR4/6 褐色	加曾利EⅠ 式
87	21号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	縄文地文に横位の棒状工具による波状文が2条巡る。	雲母・白色粒子多量、チャート	普通	内外面：10YR4/2 灰黄褐色	大木8a式
89	22号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	口縁部に隆帯が巡り、隆帯に沿い爪形状の押し引き文と沈線文が施されている。隆帯下は無文となる。	雲母・チャート・白色粒子	良好	内外面：7.5YR3/1 黒褐色	阿玉台Ⅲ式
90	22号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	波状口縁部片。楕円区画に沿って沈線文が施されている。	雲母多量、長石・チャート	良好	内外面：7.5YR3/1 黒褐色	阿玉台Ⅳ式
91	22号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	口縁部に隆帯と連続口の字文が2段施され、隆帯上および口縁部にはL Rの縄文が施されている。	角閃石・雲母・チャート	良好	内外面：10YR3/1 黒褐色	中峠式
92	22号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	縄文地文上に半截竹管文による横位文、波状文が施されている。	角閃石・チャート・白色粒子	良好	外面：10YR5/3 にぶい黄褐色 内面：10YR4/2 灰黄褐色	大木8a式
93	23号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部 片	—	—	—	—	口縁部が平坦となり、L R単節縄文上に貼付隆線によるモチーフが描かれる。	角閃石・雲母・チャート	良好	外面：10YR4/4 褐色 内面：10YR4/2 灰黄褐色	加曾利EⅠ 式
94	24号土坑	縄文土器	鉢	口縁部	—	—	—	—	無文の口縁部の内外面に赤彩痕が残る。口唇部の上面にも赤彩があり、内面の稜より上位の両面に観察できる。	雲母多量、角閃石・チャート	良好	外面：7.5YR3/1 黒褐色 内面：7.5YR4/6 褐色	阿玉台Ⅱ式
95	24号土坑	縄文土器	深鉢	頸部	—	—	—	—	口唇部を欠く。R L R縄文の地文上に隆帯による渦巻文が施され、以下は無文帯となる。	角閃石・長石	普通	外面：10YR3/2 黒褐色 内面：10YR4/4 褐色	加曾利EⅠ 式
96	24号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	口縁部上端に刻み目があり、以下R L単節縄文地文上に2条の縄文原体痕文が施されている。	角閃石・長石	良好	外面：10YR3/1 黒褐色 内面：10YR5/4 にぶい黄褐色	大木7b式

( ) は推定値、< > は残存値



図版番号	出土地点 遺構	種別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (推定口径) (cm)	底径 (推定底径) (cm)	器高 (残存高) (cm)	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
97	24号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	R L 縄文地文を施し、横位区画文の下に3条の直線文が垂下する。	角閃石・長石・雲母	良好	外面：10YR4/2 灰黄褐色 内面：10YR6/4 にぶい黄褐色	大木 8a 式
99	25号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	波状口縁部片で、垂下する曲線的隆帯に沿って横位に押しき沈線文が施されている。	雲母多量、チャート	普通	外面：7.5YR5/4 にぶい褐色 内面：7.5YR4/2 灰褐色	阿玉台Ⅱ式
100	25号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	隆帯に沿って縦位沈線文が施され、隆帯にはR L 縄文が横位、縦位回転で施され、沈線文も加えられている。	雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	普通	内外面：7.5YR3/2 黒褐色	阿玉台Ⅳ式
101	25号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	無節L 縄文地文上に横位と斜位の縄文原体圧痕文が施されている。	角閃石・長石	良好	内外面：10YR2/1 黒色	大木 7b 式
102	25号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	縄文地文上に凹線を伴う隆帯文が施されている。	長石・角閃石・チャート	良好	外面：7.5YR4/4 褐色 内面：10YR6/4 にぶい黄褐色	大木 8a 式
103	26号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	波状口縁部片で、垂下する隆帯と楕円区画文で区画され、隆帯には刻み目が施されている。口唇部上面および外端に刻み目が付されている。胴部には貝殻による刺突列がめぐっている。	雲母多量、角閃石・チャート	良好	内外面：7.5YR5/6 明褐色	阿玉台Ⅲ式(古)
104	26号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	上位に区画隆帯文が巡り、その上下に波状条線文が施されている。	雲母多量、角閃石	普通	外面：10YR1.7/1 黒色 内面：5YR5/6 明赤褐色	阿玉台Ⅳ式
105	26号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	口縁部無文帯に連続コの字文が施されている。	長石・チャート・雲母	良好	外面：10YR3/2 黒褐色 内面：10YR4/4 褐色	中峠式
106	27号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	波状口縁部片で、縄文地文上に高い隆帯で区画し、沈線文が沿う。	雲母多量、角閃石・チャート	良好	外面：7.5YR3/2 黒褐色 内面：7.5YR4/4 褐色	阿玉台Ⅳ式
107	27号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	山形突起を有する。口縁部無文帯下に3条の沈線が巡り、上2本に交互刺突文が施され、以下は縄文となっている。	雲母・長石・チャート	良好	外面：7.5YR3/3 暗褐色 内面：7.5YR3/1 黒褐色	大木 7b 式
108	27号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	山形状の突起部片である。口唇部上面および器面に単節L R 縄文が横位、縦位回転で施され、波状部に沿って1列の押しき爪形文が施されている。	角閃石・長石・雲母	良好	内外面：10YR3/1 黒褐色	大木 8a 式(古)
109	27号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	単節L R が縦位回転で間隔をあけて施され、3条の垂下沈線文が施されている。	雲母・長石・チャート	良好	外面：7.5YR4/2 灰褐色 内面：7.5YR3/1 黒褐色	大木 8a 式
110	28号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部 ～胴部	50	(24.0)	—	<23.2>	4単位(推定)小型の中空把手をもつ平縁の土器。中空把手の上面には渦巻状やY字状の沈線文が施されている。口縁部には縦位の短沈線を主に弧線文などが加えられる。胴部には単節L R の縦位回転の縄文を全体に施し、その上の一部分には無節R の縦位施文が重ねられている。これらの縄文の上に縦位、横位の区画文と曲線的モチーフが描かれている。口縁部文様帯の区画隆線には背割り沈線が加えられている。	長石・角閃石・チャート	良好	内外面：7.5YR3/2 黒褐色	大木 8a 式
111	28号土坑	縄文土器	深鉢	略完形	90	18.6	10.0	29.4	2ヶ所の小突起を有する平縁土器。小突起部を結ぶ口縁部文様帯には地文の縄文が施文されていない。その他の部分は胴下半部には単節L R が縦位回転されている。口縁部文様帯は2本組の細隆線で渦巻状、波状、クランク状のモチーフが施されている。口縁部文様帯下端は2本組の細隆線で区画されている。	砂粒・角閃石・チャート	良好	内外面：7.5YR4/2 灰褐色	大木 8a 式
112	28号土坑	縄文土器	深鉢	胴部～ 底部	40	—	12.2	<19.5>	胴下半部のみ残存。上位を2条の沈線で区画し、縦位楕円形モチーフと垂下沈線によるモチーフが描かれている。地文の縄文は単節L R 縦位回転である。連続コの字文が特徴的である。内面には細沈線による鋸歯状文が施されている。	砂粒多量、角閃石・長石・チャート	普通	外面：7.5YR4/4 褐色 内面：7.5YR3/1 黒褐色	大木 8a 式(那須系?)
113	28号土坑	縄文土器	鉢	口縁部 ～胴部	20	(27.8)	—	<22.2>	内湾する器形の外側に双頭状の波状線を付加するもので、類例に乏しい。無文で内外面とも丁寧な磨かれている。	角閃石・長石・雲母	良好	内外面：10YR3/1 黒褐色	中期中葉(大木 8a 式?)
114	28号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	大型の深鉢で、鋸歯状を呈する突起を有する。口縁部無文帯には橋状把手が付く。以下に縄文地文上に曲線的隆帯文に沿って押しき爪形文が施されている。	砂粒・角閃石・長石・チャート	普通	内外面：10YR7/4 にぶい黄褐色	大木 8a 式
116	29号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	単節L R 縄文が口唇部上は横位に、以下全面に縦位回転で施されている。	長石・角閃石	良好	内外面：10YR3/2 黒褐色	阿玉台Ⅳ式

( ) は推定値、< > は残存値

図版番号	出土地点 遺構	種別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (推定口径) (cm)	底径 (推定底径) (cm)	器高 (残存高) (cm)	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
117	29号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	単節RL縄文が横位、縦位回転で施文されている。	砂粒・角閃石・雲母	良好	内外面：10YR3/1 黒褐色	阿玉台IV式
118	30号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	渦巻文隆線と太沈線による楕円区画文が施されている。縄文はLRである。	角閃石・長石・チャート	良好	外面：2.5Y3/1 黒褐色 内面：2.5Y5/2 暗灰黄色	加曾利EⅡ式
119	30号土坑	縄文土器	鉢	口縁部	—	—	—	—	外反する無文帯の下に2条の凹線の区画内に刺突文が施されている。以下に縄文を施す。	角閃石・長石・チャート	良好	内外面：10YR3/1 黒褐色	加曾利EⅡ式
120	30号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	全面に複節LRLが縦位回転で施文されている。	角閃石・長石・チャート少量	良好	外面：10YR3/1 黒褐色 内面：10YR7/4 にぶい黄褐色	加曾利EⅡ式
121	30号土坑	縄文土器	深鉢	底部	10	—	4.4	<6.6>	単節LR縦位回転縄文上に3条単位の垂下沈線が施されている。小型の薄手の作品である。	角閃石・長石	普通	内外面：10YR3/1 黒褐色	加曾利EⅡ式
123	31号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	背割り隆帯による中空把手部片。沈線の一部には押しき爪形文が認められる。胴部には縄文が施されている。	角閃石・黒色粒子	良好	外面：10YR6/4 にぶい黄褐色 内面：10YR4/1 褐灰色	大木8a式
124	31号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	無節縄文が縦位羽状に施され、区画沈線と曲線文が施される。	角閃石・長石	良好	外面：10YR4/1 褐灰色 内面：10YR3/1 黒褐色	大木8a式
126	32号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	口縁部に沿うキャタピラ文による方形区画内にクサビ状刺突文が施され、その中に波状沈線文が描かれる。	長石・雲母	良好	内外面：10YR3/2 黒褐色	勝坂式
128	33号土坑	縄文土器	深鉢	胴部～ 底部	—	—	—	—	全面に単節縄文RLが縦位回転を主に施され、一部は縦位回転で条が縦走する。底部直上は横ナデされている。	角閃石・長石・チャート	普通	外面：7.5YR4/6 褐色 内面：10YR3/2 黒褐色	加曾利EⅠ式
129	33号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	全面に単節縄文RLを横位、斜位回転で施文する。	角閃石・長石・石英	普通	外面：7.5YR3/3 暗褐色 内面：7.5YR4/4 褐色	加曾利EⅠ式
130	34号土坑	縄文土器	深鉢	頸部	—	—	—	—	口唇部を欠く。口縁部無文帯下に2列の刺突列を施し、以下RL縄文上に逆U字状の磨消帯を描く。	長石・角閃石	良好	内外面：10YR5/2 灰黄褐色	加曾利EⅢ式
131	34号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	口唇部を欠く。RL地文上に貼付隆線で直線、波状文を描く。	角閃石・長石、石英微量	良好	外面：10YR4/2 灰黄褐色 内面：10YR6/4 にぶい黄褐色	大木8a式
132	35号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	波状口縁部片。隆線による曲線的区画に沿って沈線文を描く。地文は単節縄文RLである。	雲母多量、角閃石・チャート	普通	内外面：10YR6/4 にぶい黄褐色	阿玉台IV式
133	35号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	単節RL縄文上に突出する隆線による渦巻文を伴う楕円区画を施している。口縁直下を1条の沈線が巡る。	角閃石・長石	良好	外面：10YR4/1 褐灰色 内面：10YR6/3 にぶい黄褐色	加曾利EⅠ式
134	35号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	無節Lの縄文地文上に横位区画と楕円区画文を補い、区画に沿って押しき刺突文が施されている。下位には弧状の押しき刺突文が施されている。	角閃石・長石・雲母	良好	外面：10YR6/4 にぶい黄褐色 内面：10YR4/1 褐灰色	大木8a式
135	36号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	口唇部を欠く。隆線による渦巻区画文を描く。以下無文帯となる。	角閃石・雲母・チャート	良好	外面：7.5YR2/1 黒色 内面：7.5YR4/2 灰褐色	加曾利EⅠ式
136	36号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	横S字状の貼付文を伴う口縁部文様帯につらなって隆線による区画を行い、刺突文が付されている。口唇部上には爪形文が施されている。胴部は縄文地文上に曲線的モチーフが描かれている。	角閃石・長石・雲母	良好	内外面：7.5YR3/2 黒褐色	大木8a式
137	36号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	単節RL縦位回転縄文の上に櫛描条線文が波状に垂下している。	角閃石・雲母・チャート	普通	外面：7.5YR3/4 暗褐色 内面：10YR3/1 黒褐色	大木8a式
138	37号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	ゆるい波状口縁部片。口縁直下に爪形文を付し、口縁に沿って押しき刺突文を加え、区画内に縦位の押しき刺突文を施している。	雲母多量、チャート	普通	内外面：7.5YR6/6 橙色	阿玉台Ⅱ式
139	37号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	無節L縦位回転の地文上に蛇行沈線文を垂下させる。	雲母多量、白色粒子少量	普通	外面：10YR2/1 黒色 内面：10YR4/1 褐灰色	大木8a式
140	38号土坑	縄文土器	深鉢	略完形	70	(17.0)	9.0	23.1	推定4単位の波状線を呈する。口縁端部が肥厚し、波頂部に1か所の凹点が付されている。口縁端部に単節LR縄文が横位回転で施文され、以下は縦位回転されている。	長石、雲母・チャート微量	良好	内外面：10YR3/1 黒褐色	阿玉台IV式
141	38号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	外反する口縁部無文帯下に連続コの字文を巡らしている。	角閃石・長石・石英	良好	外面：10YR3/1 黒褐色 内面：10YR5/4 にぶい黄褐色	中峠式

( ) は推定値、< > は残存値

図版 番号	出土地点 遺構	種別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (推定口径) (cm)	底径 (推定底径) (cm)	器高 (残存高) (cm)	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
142	38号土坑	縄文土器	深鉢	底部	—	—	—	—	垂下する縦位の細沈線に直交するように横位の単沈線が描かれている。	角閃石・長石、石英微量	不良	外面：7.5YR5/4 にぶい褐色 内面：10YR3/1 黒褐色	中期中葉
143	38号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	円孔を伴う把手部片。単節L R縄文を斜位回転で施文する。	長石・角閃石・白色粒子	良好	内外面：7.5YR3/1 黒褐色	加曾利E I式
144	38号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	条が縦走する縄文地上に2本組の隆線でクランク状のモチーフを描く。	砂粒・角閃石	普通	内外面：7.5YR3/1 黒褐色	加曾利E I式
145	38号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	口縁直下に1条の沈線を巡らし、縦位羽状の縄文地上に2本組の隆線で弧線文を描く。	角閃石・長石、石英微量	良好	内外面：10YR3/1 黒褐色	大木8a式
146	38号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	波状口縁部片。縄文地上に半截竹管文による曲線直線文を描く。	長石・チャート・白色粒子	良好	外面：10YR4/2 灰黄褐色 内面：7.5YR3/1 黒褐色	大木8a式
147	39号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	有段の口縁部片。口縁部のみR L縄文の横位施文、以下縦位施文である。	角閃石・長石・雲母	普通	内外面：10YR3/1 黒褐色	阿玉台IV式
148	39号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	口縁部文様は無文地に隆線による渦巻文が施されている。以下無文帯となる。	角閃石・雲母・白色粒子	良好	内外面：7.5YR3/3 暗褐色	加曾利E I式
149	40号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	沈線による楕円区画文に縄文が施されている。	角閃石・長石	良好	外面：10YR6/4 にぶい黄褐色 内面：10YR4/2 灰黄褐色	加曾利E II式
150	41号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	口縁部文様帯は隆線により区画され、渦巻文と三角形モチーフが組み合わせられている。地文の縄文はL R単節、口縁部は斜位回転で条が横走り、胴部は縦位回転である。	砂粒・角閃石・雲母	良好	内外面：7.5YR3/2 黒褐色	加曾利E I式
151	41号土坑	縄文土器	深鉢	底部	—	—	—	—	R L縦位回転の地文上に弧線文と3本組み沈線による垂下文が施されている。底部外面は丁寧に磨かれている。	長石・角閃石	良好	外面：7.5YR6/6 橙色 内面：7.5YR1.7/1 黒色	大木8a式
152	42号土坑	縄文土器	深鉢	胴上部 ～底部	70	—	11.4	31.2	胴下半部のみ残存する。上位を7条程度の横位の条線文で区画し、以下に7状の条線文で直線と波状文を交互に垂下させている。底面に網代痕がある。	雲母・角閃石・長石・チャート	普通	内外面：7.5YR2/1 黒色	阿玉台II式
153	42号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	波状口縁部片。無文帯下に幅広のキャタピラ文とクサビ形文を施している。勝坂式の手法を取り入れているが、波状線の器形は阿玉台式と判断される。	長石・雲母・チャート	良好	外面：10YR3/1 黒褐色 内面：10YR4/1 褐灰色	阿玉台III式 (勝坂式)
154	42号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	波状口縁部片。有段口縁でR L縄文が横位、縦位回転で施文されている。	長石・雲母	普通	内外面：10YR4/1 褐灰色	阿玉台IV式
155	42号土坑	縄文土器	器台	脚部	—	—	—	—	円形の孔を伴う無文の脚部片。	角閃石・長石・雲母・チャート	良好	外面：7.5YR4/1 褐灰色 内面：7.5YR2/1 黒色	加曾利E I式
156	42号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	押しき爪形文を付された環状把手。	角閃石・赤色粒子・白色粒子	普通	内外面：10YR4/2 灰黄褐色	大木8a式
158	43号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	口唇部上面が平坦となり、口縁直下に幅の狭い長楕円区画文を描き、区画内に幅広の爪形文を施している。以下に2列単位の押しき刺突文で直線弧状のモチーフを描く。	雲母多量、石英微量、白色粒子	良好	外面：10YR3/1 黒褐色 内面：10YR4/2 灰黄褐色	阿玉台II式
159	43号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	2段の重なる楕円区画を隆線で描き、区画に沿って押しき文を施す。	雲母多量、砂粒	普通	外面：10YR2/1 黒色 内面：10YR4/2 灰黄褐色	阿玉台II式
160	43号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	縄文地上に幅狭の押しき刺突文による直線、曲線モチーフを描く。	砂粒・長石、雲母微量	普通	外面：10YR3/2 黒褐色 内面：10YR6/4 にぶい黄褐色	大木8a式 (古)
161	44号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	無節R縄文地上に横位の2条の沈線文を描く。	角閃石・雲母・チャート	良好	内外面：10YR3/2 黒褐色	阿玉台IV式
162	44号土坑	縄文土器	器台	脚部	—	—	—	—	円孔を伴うやや内湾する脚部片。内外面丁寧に調整されている。	角閃石・長石・チャート、石英微量	良好	内外面：10YR6/4 にぶい黄褐色	加曾利E I式
163	45号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	爪形状の刺突文を4段付す。	雲母多量、角閃石、チャート微量	良好	外面：10YR3/1 黒褐色 内面：10YR5/3 にぶい黄褐色	阿玉台II式
164	45号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	無節Lの縦位回転施文。	角閃石・雲母、石英微量	普通	外面：7.5YR5/4 にぶい褐色 内面：10YR5/3 にぶい黄褐色	大木8a式
166	46号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	押しき刺突文を横位と斜位に施す。	雲母多量、チャート	良好	内外面：10YR4/2 灰黄褐色	阿玉台II式

( ) は推定値, < > は残存値

図版 番号	出土地点 遺構	種別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (推定口 径) (cm)	底径 (推定底 径) (cm)	器高 (残存 高) (cm)	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
167	48号土坑	縄文土器	深鉢	胴部～ 底部	45	—	9.6	<16.8>	胴下半部のみ残存する。太隆線によるV字状のモチーフが3単位描かれる。区画内にV字状の沈線が2重に描かれている。縄文は単節R Lの縦位回転である。隆線文上も同様である。	角閃石・長石・雲母	良好	外面：10YR3/1 黒褐色 内面：10YR2/1 黒色	阿玉台Ⅳ式
168	48号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	櫛描き条線文を縦位波状に施す。	角閃石・長石、雲母微量	普通	外面：7.5YR3/1 黒褐色 内面：7.5YR6/6 橙色	阿玉台Ⅱ式
169	48号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	単節L R縄文を縦位回転で施文する。間隔を帯状にあげているのが特徴的。	角閃石・長石・雲母	良好	内外面：10YR4/2 灰黄褐色	大木8a式
170	49号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	波状口縁部片で、貼付隆線による曲線的モチーフを描く。	角閃石・長石	良好	外面：10YR3/1 黒褐色 内面：10YR4/2 灰黄褐色	大木8a式
171	49号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	口縁直下に1条の沈線を巡らし、以下に2条の押しき刺突文を施している。単節縄文L Rの縦位回転の地文上に弧状モチーフを押しき刺突文で描く。	角閃石・長石・チャート	良好	内外面：10YR5/3 にぶい黄褐色	大木8a式 (古)
172	49号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	縄文地文上に断面三角形の貼付隆線によりクランク状のモチーフを描いている。	角閃石・長石・チャート	良好	内外面：2.5Y5/3 黄褐色	大木8a式
173	49号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	全面に単節縄文を用いた縦位羽状縄文が施されている。	角閃石・長石	良好	外面：5YR5/6 明赤褐色 内面：10YR3/1 黒褐色	大木8a式
176	50号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	波状口縁部片。隆線による楕円区画内に押しき刺突文を沿わせ、内部に波状沈線文を描く。口縁部の外端の一部に刻み目を付す。	雲母多量、砂粒	良好	外面：7.5YR5/4 にぶい褐色 内面：10YR4/2 灰黄褐色	阿玉台Ⅱ式
177	50号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	大柄な隆線による渦巻把手をもつ口縁部片。	砂粒・角閃石・長石・チャート	普通	内外面：5YR5/6 明赤褐色	加曾利E I式
178	50号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	断面角頭状を呈する隆線による口縁部文様帯をもつ。無文地である点は珍しい。	角閃石・長石・雲母	良好	外面：7.5YR4/4 褐色 内面：10YR3/1 黒褐色	加曾利E I式
179	50号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	口縁直下に1条の隆線を付し、押圧を加える。以下縄文地文上に押しき刺突文による横走波状文を施す。	角閃石・雲母	良好	外面：10YR5/3 にぶい黄褐色 内面：7.5YR3/1 黒褐色	大木8a式 (古)
180	52号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	口縁部に無文帯を残し、隆線区画に沿って逆くの字状の押しき刺突文を付している。	雲母多量、角閃石・チャート	良好	内外面：7.5YR5/4 にぶい褐色	阿玉台Ⅲ式
181	52号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	単節L R縄文の縦位施文を間隔をあげて行い、弧状の沈線文を描く。	角閃石・雲母・白色粒子	良好	内外面：10YR3/1 黒褐色	大木8a式
182	54号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部 片	—	—	—	—	波状口縁部片。波頂部に小さな橋状把手をもち、口縁部文様帯を縦位、横位弧状の貼付文で区画している。地文はR L縄文である。	砂粒・角閃石・長石	良好	内外面：5YR3/2 暗赤褐色	大木8a式
183	54号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	緩い波状を呈する口縁部片で、単節縄文R Lの地文上に渦巻および直線状の区画を行う。	角閃石・チャート、白色粒子多量	普通	内外面：10YR3/1 黒褐色	大木8a式
184	54号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	波状口縁を呈し、貼付隆線で文様帯を区画している。地文はR L単節縄文の縦位回転。	雲母・チャート少量、白色粒子	良好	内外面：5YR3/2 暗赤褐色	大木8a式
185	56号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	波頂部から垂下降帯と横位の区画隆帯が接合し、楕円区画を設ける。隆線と区画に沿って押しき刺突文を施し、楕円区画内には弧状の押しき刺突文を施す。胴部には貝殻腹縁による刺突列を加える。	雲母多量、チャート、石英微量	不良	外面：10YR3/2 黒褐色 内面：10YR5/3 にぶい黄褐色	阿玉台Ⅱ式
186	56号土坑	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	—	R L縦位回転縄文を間隔をあげて施文し、その上に押しき刺突文による波状文、蛇行文を描く。	角閃石・長石・チャート	普通	内外面：10YR3/2 黒褐色	大木8a式
188	57号土坑	縄文土器	深鉢	底部	—	—	—	—	縦位沈線がわずかに残る。底面直上は横ナデされ、底面には網代痕が認められる。	砂粒・角閃石	普通	外面：10YR5/4 にぶい黄褐色 内面：2.5Y7/3 浅黄色	阿玉台式 (新)
189	58号土坑	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	—	口縁部無文帯下に1条の沈線を巡らし、以下に縄文地文上に縦位沈線を施している。	雲母多量、角閃石・白色粒子	良好	内外面：10YR3/1 黒褐色	阿玉台Ⅳ式
190	58号土坑	縄文土器	器台	脚部	—	—	—	—	2つの円孔が残存する無文の脚部片。孔部の周縁が盛り上がる特色を有する。	角閃石・長石・雲母少量	良好	外面：10YR6/4 にぶい黄褐色 内面：7.5YR4/3 褐色	加曾利E I式
193	表土一拵	縄文土器	土製円板	—	—	—	—	—	R L単節縄文を縦位回転で施文する。円形に磨り込んでいる。	雲母・角閃石・チャート	普通	外面：10YR3/1 黒褐色 内面：10YR6/4 にぶい黄褐色	加曾利E式

( )は推定値、< >は残存値

第5表 出土石器属性一覧

図版番号	出土地点 遺構	時代	器種	材質	残存率	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・手法	備考
5	1号土坑	縄文時代	R・F	黒曜石	100%	1.2	1.9	0.5	0.9	横打ちの剥片素材、背面右側縁、末端部に不規則ながら連続した二次加工痕。	
6	1号土坑	縄文時代	凹石	砂岩	100%	11.3	8.7	5.1	626.0	表裏両面に複数の凹み、部分的に顕著な研磨痕。	火熱を受け赤化。
24	5号土坑	縄文時代	磨石	砂岩	100%	12.2	8.0	3.8	558.0	表面に凹み、表裏両面に顕著な研磨痕、側面に顕著な敲打痕。	凹石としても使用。
25	5号土坑	縄文時代	蜂の巣石	砂岩	—	<19.8>	<24.0>	11.1	8340.5	表裏両面に多数の凹みと敲打痕、表裏両面に顕著な研磨痕、上面大きく窪む。	石皿片を転用。
30	7号土坑	縄文時代	磨石	砂岩	100%	13.6	7.1	5.6	784.0	全面に研磨痕。	
36	8号土坑	縄文時代	台石	安山岩	—	<10.0>	<11.1>	5.6	1020.0	表面を敲打後に研磨、溝状に窪む、裏面にも凹み。	土坑内集石出土、蜂の巣石としても使用。
37	9号土坑	縄文時代	磨石	砂岩	90%	9.5	15.1	6.0	823.5	全面に研磨痕、平坦な底面の一部に敲打痕。	
42	11号土坑 (1号地下式壙)	縄文時代	磨製石斧	粘板岩	100%	14.5	4.2	1.3	102.3	偏平な礫素材、剥離調整後、研磨された部分多く残る。	
43	11号土坑 (1号地下式壙)	縄文時代	磨石	砂岩	100%	8.5	8.8	3.9	402.5	部分的に弱い研磨痕。	
44	11号土坑 (1号地下式壙)	縄文時代	凹石	凝灰岩	80%	11.3	8.1	5.4	529.5	表裏両面に凹み、部分的に弱い研磨痕。	
45	11号土坑 (1号地下式壙)	縄文時代	台石	砂岩	60%	<12.9>	<12.6>	5.0	1190.0	全面に弱い研磨痕。	
52	12号土坑	縄文時代	磨石	砂岩	100%	11.2	6.3	4.3	445.0	全面に研磨痕。	
56	13号土坑	縄文時代	凹石	砂岩	100%	14.7	6.0	2.8	371.5	表面に凹み、表裏両面に弱い研磨痕。	
57	13号土坑	縄文時代	蜂の巣石	安山岩	—	<10.3>	<11.1>	6.7	744.0	表裏両面に多数の凹みと敲打痕、弱い研磨痕。	石皿片を転用。
63	14号土坑	縄文時代	磨製石斧	蛇紋岩	100%	6.5	3.3	1.5	50.8	丁寧な研磨整形、刃部および本体の一部に剥離痕残す。	定角式磨製石斧。
71	16号土坑	縄文時代	敲石	緑泥片岩	80%	19.3	6.6	4.6	990.0	棒状礫の上下端および側面に敲打痕、表裏両面に凹み。	凹石としても使用。
81	19号土坑	縄文時代	磨石	砂岩	100%	9.2	8.1	4.6	522.0	全面に研磨痕。	
88	21号土坑	縄文時代	磨石	砂岩	100%	12.0	8.0	4.5	565.0	全面に研磨痕、表面と側面の一部に敲打痕。	
98	24号土坑	縄文時代	打製石斧	粘板岩	100%	12.1	5.2	2.3	154.9	細身、刃部折れ後の再生、節理面多い。	撥形石斧。
115	28号土坑	縄文時代	石鏃	黒曜石	90%	2.8	1.8	0.5	1.6	片脚欠損、表裏両面に素材面を残す。	凹基無茎石鏃。
122	30号土坑	縄文時代	打製石斧	緑泥片岩	100%	14.5	6.2	2.8	257.8	基部の両側縁は敲打や剥離により抉られ、刃部に比べて細身。	短冊形石斧。
125	31号土坑	縄文時代	磨製石斧	凝灰岩	70%	<6.9>	4.5	2.7	152.9	基部欠損、胴部に敲打痕残す、刃部両面に内側に入りこんだ剥離痕。	定角式磨製石斧。
127	32号土坑	縄文時代	磨製石斧	蛇紋岩	25%	4.1	2.7	1.0	18.3	上端と側面の2箇所切断面、刃部に近い片面に穿孔途中の凹み。	垂飾品に転用しようとしたものと思われる。
157	42号土坑	縄文時代	凹石	流紋岩	100%	10.7	7.5	3.9	436.0	表裏両面に凹み、全面に研磨痕。	
165	45号土坑	縄文時代	石皿	流紋岩	100%	14.8	10.3	3.6	767.5	全面に顕著な研磨痕、2ヶ所にわたって上面大きく窪む。	
174	49号土坑	縄文時代	打製石斧	結晶片岩	70%	<11.2>	<5.7>	<1.6>	8.3	基部欠損、剥片素材、両面周縁加工。	短冊形石斧。
175	49号土坑	縄文時代	石皿	砂岩	70%	<28.0>	22.5	6.0	4320.0	表面顕著な研磨痕、一部に凹み、裏面部分的に弱い研磨痕。	蜂の巣石としても使用か。
187	56号土坑	縄文時代	凹石	玄武岩	70%	<11.5>	8.4	5.5	840.0	表面顕著な研磨痕、部分的に凹み、裏面弱い研磨痕。	蜂の巣石としても使用。
191	1号屋外炉	縄文時代	磨石	砂岩	50%	<6.5>	7.0	3.0	176.0	全面に研磨痕。	
192	1号ピット	縄文時代	石皿	花崗岩	60%	<22.8>	<15.5>	4.5	1479.5	表面顕著な研磨痕、大きく窪む、一部敲打痕、裏面複数の凹み。	蜂の巣石としても使用、火熱を受け、一部赤化。

< > は残存値



第6表 出土石器・石器計量表

出土地点	1号住居		1号土坑		2~4号土坑		5号土坑		6号土坑		7号土坑		8号土坑		9号土坑		10号土坑		11号土坑 (1号地下式塚)		12号土坑			
	点数	重量 (g)	個体 数	重量 (g)	個体 数	重量 (g)	個体 数	重量 (g)	個体 数	重量 (g)	個体 数	重量 (g)	個体 数	重量 (g)	個体 数	重量 (g)	個体 数	重量 (g)	個体 数	重量 (g)	個体 数	重量 (g)		
土器	阿玉台式	56	2,640.0	23	3,200	230	1	7,915.0	50	9,400	28	7,050.0	17	2,960.0	3	1,100	2	650.0	22	7,100	69	1	2,640.0	
	諏訪式						2	1,230													72	1	5,209.0	
	勝坂式																							
	中峠式						11	2,538.0																
	加曾利E式	5	1,630	38	6,400	101	4,630.0	9	1,120	14	3,569.0	146	3,215.0				25	7,340	12		14		6,300	
	大木式	1					100	3,100.0	17	1,440	4	810	4	900	1	340				2		18		2,096.0
	曾利式																							
	その他	1	6.0	33	529.0	78	1,156.0	128	2,440.0	21	2,180	23	3,140	38	351.0	3	47.0	16	236.0	26		77		1,112.0
	不明	4	28.0	15	54.0	193	2,104.90	11	500	9	410	13	1,390	4	390	4	380	4	380	8		46		1,770
	小計	1	6.0	100	3,440.0	155	2,220.0	765	6,311.950	108	1,464.0	78	4,710.0	219	4,111.0	11	230.0	47	1,073.0	70		296	3	11,864.0
縄文時代	石鏃																							
	打製石斧																							
	磨製石斧																							
	磨石	1	361.0	2	1,560.0	11	7,065.0				4	2,540.0	8	4,601.0	1	830.0	3	4,700.0	22		1		133	
	敲石						1	564.0					1	1,110										
	石 か	1	633.0																					
	石皿・峠の東石						1	8,340.0																
	台石						1	2,070.0					1	1,020.0										
	R・F	1		0.9					1	17.9	1	26.7												
	剥片	1		2,228					6	47.1			12	110.6	1	28								
礫	48	3,790.0	51	17,750.0	70	13,906.0	29	15,154.0	70	7,630.0	415	40,903.0	15	1,220.0	5	3,810.0	51	10,322.0	37		1		30	
小計	52	5,007.7	54	19,284.4	84	31,885.0	36	15,219.0	75	10,196.7	437	46,745.6	17	2,052.8	10	11,280.0	86	36,550.0	40		3		3,195.3	
平安時代 須恵器 壺	1	6.0	152	8,447.7	209	21,548.4	849	6,630.800	144	16,683.0	153	14,906.7	656	50,856.6	28	2,282.8	57	12,353.0	156		336	3	15,059.3	
小計							1	8.0																
小計	1	6.0	152	8,447.7	209	21,548.4	850	6,630.880	144	16,683.0	153	14,906.7	656	50,856.6	28	2,282.8	57	12,353.0	156		336	3	15,059.3	
総計																								

出土地点	13号土坑		14号土坑		15号土坑		16号土坑		15・16号土坑		17号土坑		18号土坑		19号土坑		20号土坑		21号土坑		22号土坑			
	点数	重量 (g)	個体 数	重量 (g)	個体 数	重量 (g)	個体 数	重量 (g)	個体 数	重量 (g)	個体 数	重量 (g)	個体 数	重量 (g)	個体 数	重量 (g)	個体 数	重量 (g)	個体 数	重量 (g)	個体 数	重量 (g)		
土器	阿玉台式	15	365.0	55	2,360.0	47	1,550.0	44	1,420.0	85	1,560.0	2	700	36	1,333.0	10	276.0	34	1,500.0	32		34	9,000	
	諏訪式																							
	勝坂式						1	1,100	1	45.0														
	中峠式	1	94.0	1	64.0																			
	加曾利E式	17	2,635.0	48	1,480.0	10	495.0	3	1,490	53	1,100.0	4	295.0	7	1,320	25	541.0	8	369.0	8		1	730	
	大木式	2	340	16	6,620	7	4,550	7	4,330	5	660			1	51.0	6	184.0	3	90.0	3		5	1,500	
	曾利式																							
	その他	22	372.0	108	2,939.0	51	964.0	53	1,561.0	150	2,854.0	3	880	13	210.0	4	41.0	26	599.0	41		67		1,184.0
	不明	8	32.0	17	64.0	22	92.0	12	112.0	16	140.0			3	26.0	3	20	13	48.0	18		7		200
	小計	65	1,353.0	245	7,569.0	138	3,666.0	120	3,720.0	309	5,720.0	5	1,580	57	1,388.15	25	502.0	104	2,872.0	102		122		2,469.0
縄文時代	石鏃																							
	打製石斧																							
	磨製石斧																							
	磨石																							
	敲石																							
	石 か	1	372.0				1	446.0																
	石皿・峠の東石	1	742.0																					
	台石						1	990.0	1	698.0														
	R・F	1		120																				
	剥片	1	151	5	621.9	2	103																	
礫	14	3,140.0	31	5,830.0	38	6,578.0	41	6,760.0	36	6,900.0	2	440.0	13	1,007.0	6	2,040.0	1	390.0	14		1		85	
小計	17	4,269.1	40	7,434.7	44	7,906.3	43	8,196.0	37	7,598.0	2	440.0	15	1,887.0	9	5,842.0	2	3,450.0	17		12		1,328.5	
小計	82	7,801.1	285	15,003.7	182	11,572.3	163	11,916.0	346	13,318.0	7	5,980	72	1,576.5	34	6,344.0	106	6,322.0	119		134		3,797.5	
平安時代 須恵器 壺																								
小計																								
小計	82	7,801.1	285	15,003.7	182	11,572.3	163	11,916.0	346	13,318.0	7	5,980	72	1,576.5	34	6,344.0	106	6,322.0	119		134		3,797.5	
総計																								



出土地点	23号土坑		24号土坑		25号土坑		26号土坑		27号土坑		28号土坑		29号土坑		30号土坑		31号土坑		28~31号土坑		32号土坑			
	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)		
縄文時代	阿玉台式	11	374.0	27	808.0	50	1,730.0	31	1,260.0	32	1,040.0	45	1,970.0	6	231.0	31	794.0	3	790.0	11	335.0	9	318.0	
	甌形式																							
	中時式	1																				1	22.0	
	加曾利E式	21	490.0	122	2,660.0	20	597.0	22	1,173.0	15	623.0	22	1,320.0	20	460.0	131	3,250.0	1	120.0	30	610.0	22	494.0	
	大木式	3	83.0	23	523.0	5	160.0	2	85.0	2	50.0	6	1,996.0	2	17.0	1	18.0	6	274.0			2	23.0	
	曾利式																							
	その他	33	533.0	170	2,770.0	38	554.0	60	590.0	42	746.0	52	1,104.0	27	459.0	105	1,302.0	8	206.0	78	1,443.0	30	590.0	
	不明	6	45.0	49	877.0	12	86.0	41	83.0	6	34.0	27	1,780.0	7	24.0	34	92.0	2	5.0	23	126.0			
	小計	74	1,525.0	392	7,671.0	126	3,234.0	157	3,212.0	98	1,591.0	153	3,982.0	62	1,191.0	302	5,456.0	21	691.0	142	2,514.0	64	1,447.0	
	石鏃																							
	打製石斧	1																						
	磨製石斧																							
磨石	2	896.0	1	149.0																				
敲石	1	880.0																						
凹石																								
石皿・漆の裏石	2	2,510.0																						
台石																								
R・F																								
剥片																								
礫	4	590.0	31	4,040.0	19	2,160.0	7	1,530.0	10	1,180.0	12	2,200.0	28	3,150.0	39	13,083.0	18	1,080.0				3	21.2	
小計	4	590.0	37	8,480.9	21	2,914.8	8	1,728.0	13	1,197.6	16	7,039.1	28	3,150.0	63	24,135.8	21	2,274.0	2	15.3	11	2,059.2		
小計	78	2,115.0	429	16,151.9	147	5,548.8	165	4,940.0	111	2,788.6	169	3,168.591	90	4,341.0	365	29,591.8	42	2,965.0	144	2,529.3	75	3,506.2		
平安時代																								
須恵器 壺																								
小計	78	2,115.0	429	16,151.9	147	5,548.8	165	4,940.0	111	2,788.6	169	3,168.591	90	4,341.0	365	29,591.8	42	2,965.0	144	2,529.3	75	3,506.2		
総計																								

出土地点	33号土坑		34号土坑		35号土坑		36号土坑		37号土坑		38号土坑		39号土坑		40号土坑		41号土坑		42号土坑		43号土坑			
	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)		
縄文時代	阿玉台式	18	440.0	8	224.0	26	698.0	34	1,720.0	13	212.0	40	1,110.0	10	198.0	4	216.0	2	31.0	34	1,500.0	35	746.0	
	甌形式																							
	中時式																							
	加曾利E式	42	1,490.0	32	970.0	96	3,240.0	18	760.0	53	1,440.0	64	3,268.0	60	2,220.0	10	302.0	2	60.0	56	3,150.0	4	242.0	
	大木式	2	86.0	1	60.0	14	320.0			4	57.0	151	4,470.0					108	1,626.0	7	164.0	3	52.0	
	曾利式																							
	その他	47	890.0	33	882.0	93	1,080.0	48	956.0	33	346.0	100	1,400.0	19	180.0			4	101.0	33	481.0	22	285.0	
	不明	14	58.0	8	42.0	16	66.0	3	16.0	19	38.0	20	62.0	3	8.0			3	10.0	2	6.0	4	14.0	
	小計	123	2,964.0	82	2,178.0	245	5,404.0	103	3,452.0	122	2,093.0	376	4,153.400	92	1,606.0	14	518.0	119	1,828.0	133	5,401.0	68	1,389.0	
	石鏃																							
	打製石斧																							
	磨製石斧																							
磨石																								
敲石																								
凹石																								
石皿・漆の裏石																								
台石																								
R・F																								
剥片	2	1.5																						
礫	7	656.0	4	326.0	35	5,970.0	2	284.0	10	890.0	8	2,764.0	30	1,570.0	2	1,460.0	3	167.0	18	6,120.0	23	6,780.0		
小計	9	657.5	4	326.0	37	6,595.0	2	284.0	13	908.8	14	4,193.1	34	1,660.3	2	1,460.0	3	167.0	20	6,730.0	25	7,064.3		
小計	132	3,621.5	86	2,504.0	282	11,999.0	105	3,736.0	135	3,001.8	390	4,175.331	126	3,266.3	16	1,978.0	122	1,995.0	153	5,401.0	93	8,403.3		
平安時代																								
須恵器 壺																								
小計	132	3,621.5	86	2,504.0	282	11,999.0	105	3,736.0	135	3,001.8	390	4,175.331	126	3,266.3	16	1,978.0	122	1,995.0	153	5,401.0	93	8,403.3		
総計																								

出土地点	44号土坑		45号土坑		46号土坑		48号土坑		49号土坑		50号土坑		52号土坑		54号土坑		55号土坑		56号土坑		57号土坑		
	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	
縄文時代	阿玉台式	362.0	39	1,080.0	10	1,580.0	12	1,505.0	20	725.0	31	7,700.0	17	4,480.0	85	1,480.0	35	840.0					
	諏訪式																						
	勝坂式																						
	中峠式																						
	加曾利E式	6	81.0	5	71.0	1	28.0	24	1,420.0	67	1,590.0	6	1,220.0	19	350.0	69	1,880.0	4	66.0				
	大木式	4	56.0			2	84.0			4	248.0			1	47.0	2	56.0	1	24.0				
	曾利式																						
	その他	14	1,700.0	6	1,050.0	1	22.0	22	514.0	62	1,314.0	30	3,170.0	71	1,496.0	70	1,338.0	2	34.0	32	326.0	2	240.0
	不明	3	8.0	7	24.0					4	16.0	8	150.0	19	82.0	19	112.0	1	6.0				
	小計	39	677.0	57	1,280.0	14	292.0	58	1,343.0	157	3,893.0	76	15,700.0	127	2,423.0	246	4,889.0	2	34.0	73	1,262.0	2	240.0
	石鏡																						
	打製石斧																						
	磨製石斧																						
	磨石	1	158.0			2	791.0			1	356.0			2	1,380.0	2	591.0						
敲石																							
石器																							
石																							
石皿・峠の裏石	1	768.0																					
石台	1	2,940.0	1	4,630.0	1	3,060.0			1	4,320.0			1	1,370.0									
R・F	1	245.0																					
剥片	1	195.0																					
礫	11	1,780.0	11	4,880.0	6	494.0	14	1,201.0	16	6,988.0	2	1,301.0	16	5,780.0	10	1,960.0	2	241.0	6	272.0			
小計	11	1,780.0	16	8,190.0	9	5,915.0	16	15,766.0	19	11,771.5	3	1,370.1	24	9,418.6	14	2,560.8	2	241.0	15	1,729.7			
小計	50	2,457.0	73	9,470.0	23	6,207.0	74	19,265.0	176	15,664.5	79	29,401.1	151	11,841.6	260	7,449.8	4	275.0	88	2,991.7	2	240.0	
平安時代																							
須恵器																							
小計	50	2,457.0	73	9,470.0	23	6,207.0	74	19,265.0	176	15,664.5	79	29,401.1	151	11,841.6	260	7,449.8	4	275.0	88	2,991.7	2	240.0	
総計																							

出土地点	58号土坑		1号屋外		2号屋外		1号ピット		2号ピット		3号ピット		4号ピット		5号ピット		7号ピット		8号ピット		10号ピット		
	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	
縄文時代	阿玉台式	12	389.0	4	75.0			1	1,220.0	1	260.0	3	760.0										
	諏訪式																						
	勝坂式																						
	中峠式																						
	加曾利E式	11	157.0	6	186.0			1	1,000.0					2	44.0					1	14.0		
	大木式																						
	曾利式																						
	その他	18	188.0	15	213.0			4	780.0	1	100.0												
	不明	8	23.0	3	100.0					2	80.0												
	小計	49	757.0	28	484.0			1	1,220.0	6	2,040.0	6	940.0			5	860.0	2	230.0	1	14.0	6	320.0
	石鏡																						
	打製石斧																						
	磨製石斧																						
	磨石	1	795.0	4	796.0	3	2,920.0							1	302.0	1	720.0						
敲石																							
石器																							
石																							
石皿・峠の裏石								1	1,470.0														
石台																							
R・F																							
剥片																							
礫	11	1,540.0	39	23,600.0	24	9,770.0	1	1,270.0															
小計	12	2,335.0	51	42,660.0	28	16,820.0	3	2,741.5					1	302.0	1	720.0	2	237.0					
小計	61	3,092.0	79	43,144.0	28	16,820.0	4	2,863.5	6	20,400.0	6	940.0	1	302.0	6	1,580.0	4	2,600.0	1	14.0	6	320.0	
平安時代																							
須恵器																							
小計	61	3,092.0	79	43,144.0	28	16,820.0	4	2,863.5	6	20,400.0	6	940.0	1	302.0	6	1,580.0	4	2,600.0	1	14.0	6	320.0	
総計																							

出土地点	11号ビット		12号ビット		15号ビット		16号ビット		19号ビット		23号ビット		25号ビット		24・26号ビット		30号ビット		31号ビット		32号ビット			
	点 数	個 体 数	重 量 (g)	個 体 数	重 量 (g)	個 体 数	重 量 (g)	個 体 数	重 量 (g)	個 体 数	重 量 (g)	個 体 数	重 量 (g)	個 体 数	重 量 (g)	個 体 数	重 量 (g)	個 体 数	重 量 (g)	個 体 数	重 量 (g)	個 体 数	重 量 (g)	
縄文時代	阿玉台式	1	180						1	940	2	380	1	240	1	310	2	260						
	諏訪式																							
	勝坂式																							
	中峠式																							
	加曾利E式	1	90				21.0				2	600	19	286.0	3	580	3	1000				22	674.0	
	曾利式																							
	その他	2	51.0	1	22.0						8	677.0	3	36.0	4	51.0	4	42.0			1	7.0		
	不明											1	2.0								1	2.0		
	小計	3	69.0	2	31.0	1	21.0	1	94.0	13	777.0	23	346.0	8	140.0	9	168.0	2	9.0	22	674.0			
	石鏃																							
打製石斧																								
磨製石斧																								
磨石																								
敲石																								
石器 凹石																								
石皿・膝の裏石																								
台石	2	4,220.0																						
R・F																								
剥片																								
礫	3	38,40.0					112.0																	
小計	5	8,060.0				112.0																		
小計	5	8,060.0	3	69.0	2	31.0	2	133.0	1	94.0	13	777.0	23	346.0	8	140.0	9	168.0	3	99.0	22	674.0		
平安時代	須恵器 壺																							
小計																								
総計	5	8,060.0	3	69.0	2	31.0	2	133.0	1	94.0	13	777.0	23	346.0	8	140.0	9	168.0	3	99.0	22	674.0		

出土地点	34号ビット		攪乱		表土一括		総計		
	点 数	個 体 数	重 量 (g)	個 体 数	重 量 (g)	個 体 数	重 量 (g)	個 体 数	重 量 (g)
縄文時代	阿玉台式	85	1,220.0			1,751	6	55,084.0	
	諏訪式					74	1	5,322.0	
	勝坂式					6		327.0	
	中峠式	2	153.0			26	2	5,370.0	
	加曾利E式	43	693.0			1,725	7	60,196.0	
	大木式	4	77.0			560	3	18,373.0	
	曾利式					1		17.5	
	その他	1	6.0	1,174.0		2,550	3	43,810.0	
	不明	56	288.0			859	3	15,734.0	
	小計	3	159.0	3,452.0		7,552	22	204,243.5	
平安時代	石鏃					3	21	4	37
	打製石斧					2	132.0	8	878.2
	磨製石斧					4	203.0	13	945.4
	磨石	2	950.0			110	55,843.0		
	敲石					13	5,435.0		
	石器 凹石					10	5,447.0		
	石皿・膝の裏石					1	443.0	12	21,841.0
	台石					35	70,538.0		
	R・F					1	22.0	11	1,993
	剥片	4	54.0			600	65	1,324.5	
礫	2	47.0			1,492	287,393.0			
小計	8	1,051.0	15	862.1	1,773	449,848.1			
平安時代	須恵器 壺								
小計	3	159.0	308	4,503.0	15	862.1	9,325	22	654,091.6
総計	3	159.0	308	4,503.0	15	862.1	9,326	22	654,099.6

## 第4章 考察

今回の調査では、縄文時代、平安時代、中世以降の各時期の遺構・遺物が検出された。主体となるのは、縄文時代中期の土坑群とそれに伴う多数の土器・石器である。平安時代は須恵器が1点出土したのみで、該期の遺構は未検出である。中世以降は地下式壙と考えられる土坑を一基検出している。

本項では、検出遺構・遺物の主体をなす縄文時代を中心に概要をまとめ、問題点を考察する。

### 1 縄文時代

今回の調査で検出した縄文時代の遺構は、竪穴住居跡1軒、土坑58基、屋外炉2基、ピット1基である。縄文時代の遺物は土器7,552点、石器281点が出土した。土器は縄文時代中期前葉～後葉が主体で、特に阿玉台式、加曽利E式が多い。当地方における該期の土器の様相は複雑で、東北地方の大木7b式・8a式や関東西部・中部地方の勝坂式、在地的な中峠式、諏訪式土器が混在し、時期的推移を把握するのは容易ではない。土器編年にも混乱が生じているものの、ここではシンポジウム『縄文時代の新地平』で示されたいわゆる「新地平編年」(黒尾・小林・中山 2004)や、大木式と他型式との並行関係(中野 2008)に基づいて、土器型式の前後関係を整理したい。

在地の土器を軸に据えると、今回の調査で出土した土器は、阿玉台Ⅱ式→阿玉台Ⅲ式→阿玉台Ⅳ式→中峠式→加曽利EⅠ式→加曽利EⅡ式までの土器が出土している。各型式に伴う他地域の土器との併行関係をまとめてみると、阿玉台Ⅱ式は、大木7b式新段階(諏訪式も含む)・勝坂1～2式(新道～藤内Ⅰ式)併行、阿玉台Ⅲ式は、大木8a式古段階・勝坂2式(藤内Ⅱ式古段階)併行、阿玉台Ⅳ式は、大木8a式新段階・勝坂2式(藤内Ⅱ式新段階)併行、中峠式は、大木8a式新段階・勝坂3式(井戸尻式)併行、加曽利EⅠ式は大木8b式古段階併行、加曽利EⅡ式は大木8b式中段階併行とそれぞれ考えられる。

土坑覆土からは完形・略完形の土器が比較的多く出土しており、それらの土器を各土器型式の中で把握すると、本遺跡で最も古い段階の土器は大木7b式(12号土坑：第39図47)、諏訪式(12号土坑：第40図48)、阿玉台Ⅱ式(12号土坑：第39図46、18号土坑：第42図74、42号土坑：第47図152)、次段階のものは阿玉台Ⅳ式(5号土坑：第35図11・12、38号土坑：第47図140、48号土坑：第48図167)、次が大木8a式新段階(5号土坑：第36図15・16、28号土坑：第44図110～112)、その次が加曽利EⅠ式(41号土坑：第47図150)、最も新しい段階の土器は加曽利EⅡ式(7号土坑：第37図28、8号土坑：第38図35、13号土坑：第40図53)である。

以上のことから土器が土坑に共伴するという前提で、土器の変遷をもとに土坑の新旧関係を整理すると、12号土坑・18号土坑・42号土坑→5号土坑・38号土坑・48号土坑→5号土坑・28号土坑→41号土坑→7号土坑・8号土坑・13号土坑となる。土坑の切り合い関係に着目すると、上記の土坑の中では、12号土坑(大木7b式・諏訪式)は7号土坑(加曽利EⅡ式)に切られる以外は明確な切り合い関係を持たず、不明瞭ではあるものの、土器の新旧関係と大きく矛盾するものではない。このように土坑出土土器の時期的傾向から、これらの土坑が少なくとも5段階もの変遷を経て形成されていたことが想定できる。

検出された当該期の土坑 58 基は、調査区南部から中央部にかけて密集する傾向にあり、北側に存在しない点特徴的である。平面形は円形のもの(1～4・6・7・16・18・19・21・28・34・36・38・45・47・54・58・59)と楕円形のもの(5・8～10・12～15・17・20・22～27・29～33・35・37・39～44・46・48・49～53・56・57・60)がある。断面形は、フラスコ状のもの(1・5・6・12・16・22・26～28・39・48・60)、袋状のもの(2～4・14・15・17～19・24・31・36・38・41・42・46・56・58)、円筒状のもの(7・8・9・20・21・25・29・30・33・34・35・47・49・50・52・54・55・57)、鍋底状のもの(10・13・23・32・40・43～45・51・53・59)がある。このうち、阿玉台～加曾利 E I 式に伴うと考えられる 5 号土坑・12 号土坑・18 号土坑・28 号土坑・38 号土坑・41 号土坑・42 号土坑・48 号土坑はフラスコ状または袋状を呈するのに対し、加曾利 E II 式に伴うと考えられる 7 号土坑・8 号土坑・13 号土坑は円筒状または鍋底状を呈し、時期によって土坑の断面形状が異なっている点が興味深い。

これらの土坑の用途としては貯蔵穴とみなす見解が有力であるが、一方では底部を欠いた阿玉台 II 式期の深鉢形土器(第 39 図 46)が逆位の状態で出土した 12 号土坑例や、磨製石斧を転用した石製垂飾未成品が出土した 32 号土坑のように埋葬施設の可能性があるものも含まれており、一様ではない。

今回の調査で唯一検出された 1 号堅穴住居は、明確に伴う遺物が出土していないことから、時期は明確にはできないものの、覆土出土土器に阿玉台式土器が多いことから、阿玉台式期の可能性が考えられ、土坑群の中でも阿玉台 II 式～IV 式期のものは同時期に存在する可能性がある。

出土した石器 281 点の内訳は、石鏃 4 点、打製石斧 8 点、磨製石斧 13 点、磨石 110 点、敲石 13 点、凹石 10 点、石皿・蜂の巣石 12 点、台石 35 点、R・F(二次加工のある剥片) 11 点、剥片 65 点である。磨石が際立って多く、凹石、石皿・蜂の巣石、台石の出土も目立つ。これらの石器は堅果類の加工と関連を持つことが有力視されており、土坑群が貯蔵穴としての性格を持つことを裏付ける可能性が推定される。

本遺跡の西側に位置する高天原遺跡、坏遺跡では、本遺跡と重なる時期の堅穴住居跡や貯蔵穴と考えられる土坑群を検出しており、本遺跡を含む約 1 km 四方の範囲には該期の拠点的な集落が営まれていた可能性が考えられ、今後各遺跡間の遺構や遺物の相互検討が必要であろう。

## 2 古代以降

平安時代の遺物は、須恵器 1 点が出土したのみである。本調査地点で該期の遺構・遺物は少ないものの、本遺跡西側の坏遺跡で奈良時代の堅穴住居跡を検出していることから、本調査地点周辺にも該期の遺構が存在する可能性はある。

中世では地下式墳と考えられる 11 号土坑を検出している。地下式墳は、本遺跡西側の坏遺跡でも検出(小川・関口・川口・新垣 2007)している。本遺跡近辺には該期のものとして鎌倉街道や河和田城が存在することから、今後、該期の遺構に関して包括的な地域的視点を持って検討していく必要がある。(林)



## 引用・参考文献

- 池上 悟 1986 「地下式壙警見」『立正史学』59 立正大学史学会
- 石井 毅 1981 「第6章 松原遺跡」『常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』財団法人茨城県教育財団
- 井上義安 1985 『高天原 水戸市河和田町地内団地造成工事に伴う古墳および住居址・土壙の発掘調査記録』水戸市高天原古墳発掘調査会
- 井上義安編 1995 『水戸市堀遺跡 堀町住宅団地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市堀遺跡発掘調査会
- 井上義安・鈴木浩子 1996 『水戸市坏遺跡 共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会・株木建設株式会社
- 茨城城郭研究会 2006 『茨城の城郭』国書刊行会
- 小川将之編 2007 『坏遺跡（第3地点）—ヴィヴァンコート赤塚建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 坂口 隆 2003 『未完成考古学叢書5 縄文時代貯蔵穴の研究』アム・プロモーション
- 小林謙一・中山真治・黒尾和久 2004 「第1部 縄文時代中期の時期設定 1. 多摩丘陵・武蔵野台地を中心とした縄文時代中期の時期設定（補）」『シンポジウム 縄文時代集落研究の新地平3 —勝坂から曾利へ—』縄文集落研究グループ・セツルメント研究会
- 高尾栄一 1991 「第3節 中世の葬地一段切り状遺構」『五段田遺跡Ⅱ』五段田遺跡調査会
- 外山泰久 1983 『常陸赤塚—国道50号水戸バイパス道路建設工事に伴う発掘調査—』国道50号水戸バイパス埋蔵文化財発掘調査会
- 中野幸大 2008 「大木7a～8b式土器」『総覧 縄文土器』アム・プロモーション
- 西脇俊郎・大橋 生・林 邦夫・小野麻人・市瀬俊一 2007 『炭焼戸東遺跡 つくば明野北部工業団地進入路埋蔵文化財発掘調査報告書』筑西市教育委員会
- 三輪孝幸編 2007 『坏遺跡（第4地点）—プランタンコリーヌⅡ建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 渡辺俊夫 1981 「第5章 大塚新地遺跡」『常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』財団法人茨城県教育財団



# 写真図版





調査区全景（北より）



調査区全景



図版2



調査区全景（南より）



調査区全景（北より）





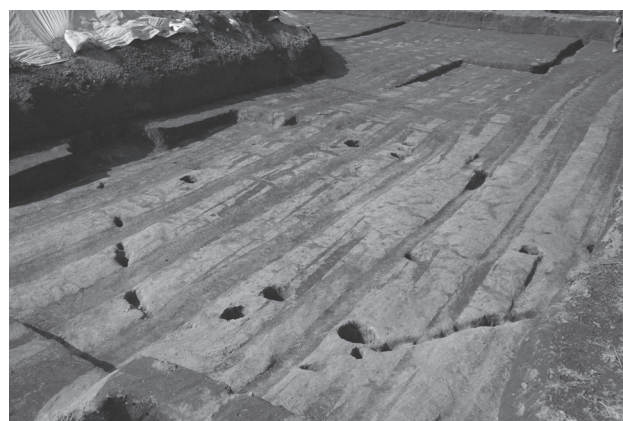
1号テストピット東壁（西より）



2号テストピット東壁（西より）



3号テストピット北壁（南より）



1号住居跡（南東より）



1号土坑（東より）



2～4号土坑（南東より）



5号土坑（南より）



6・7・12号土坑（西より）



図版4



7号土坑遺物出土状態 (西より)



12号土坑遺物出土状態 (西より)



8号土坑 (南より)



9号土坑 (南東より)



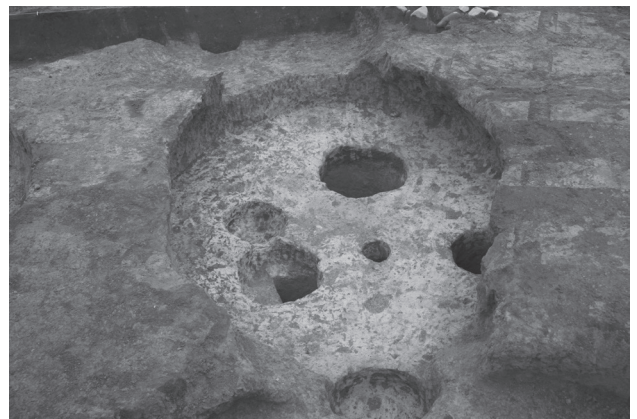
10号土坑 (西より)



11号土坑 (1号地下式壙) (東より)



13号土坑 (西より)



14号土坑 (東より)





15号土坑（南より）



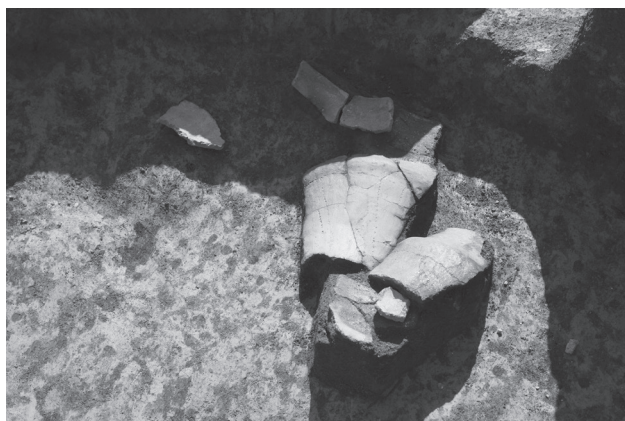
16号土坑（北東より）



17号土坑（北東より）



18号土坑（南西より）



18号土坑遺物出土状態（北西より）



19号土坑（北より）



20号土坑（東より）



21・57号土坑（南より）



図版6



22号土坑（北より）



23号土坑（南より）



24号土坑（西より）



24号土坑遺物出土状態（南より）



25号土坑（東より）



26号土坑・ピット29（東より）



27号土坑（南より）



28・29・31・37・38号土坑（南より）





28号土坑遺物出土状態（西より）



38号土坑遺物出土状態（南東より）



30号土坑（東より）



30号土坑遺物出土状態（北東より）



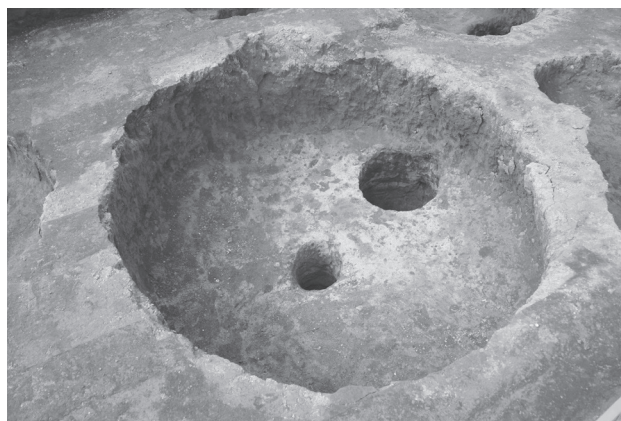
32号土坑（西より）



32号土坑遺物出土状態（南より）



33～35・40・49号土坑（東より）



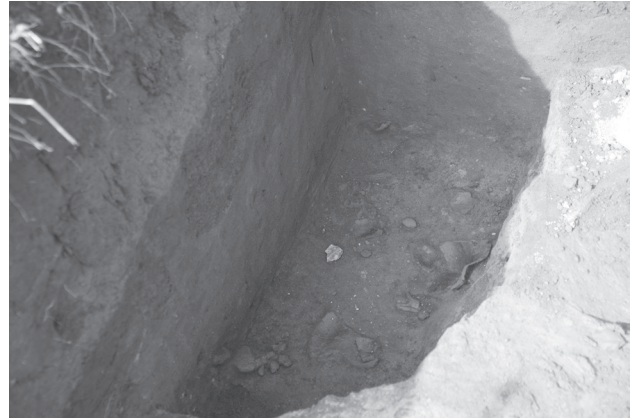
36号土坑（南東より）



図版8



39・52号土坑（南東より）



41号土坑（東より）



42・58号土坑（北西より）



42号土坑遺物出土状態（南より）



43～46・56・60号土坑（南東より）



48号土坑（西より）



50号土坑（南より）



51号土坑（東より）





53号土坑（北より）



54号土坑（西より）



54号土坑遺物出土状態（東より）



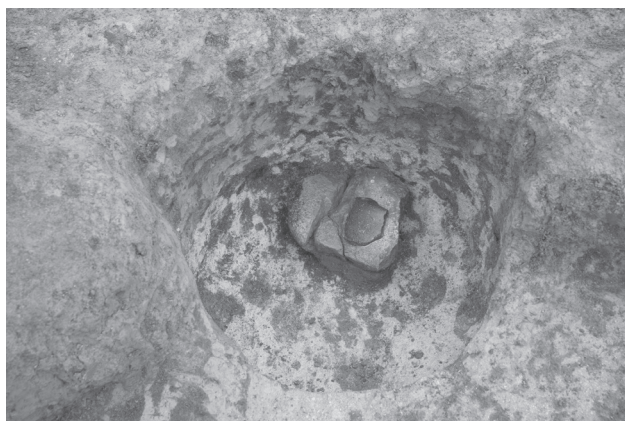
56号土坑（北東より）



1号屋外炉（南より）



2号屋外炉（北より）

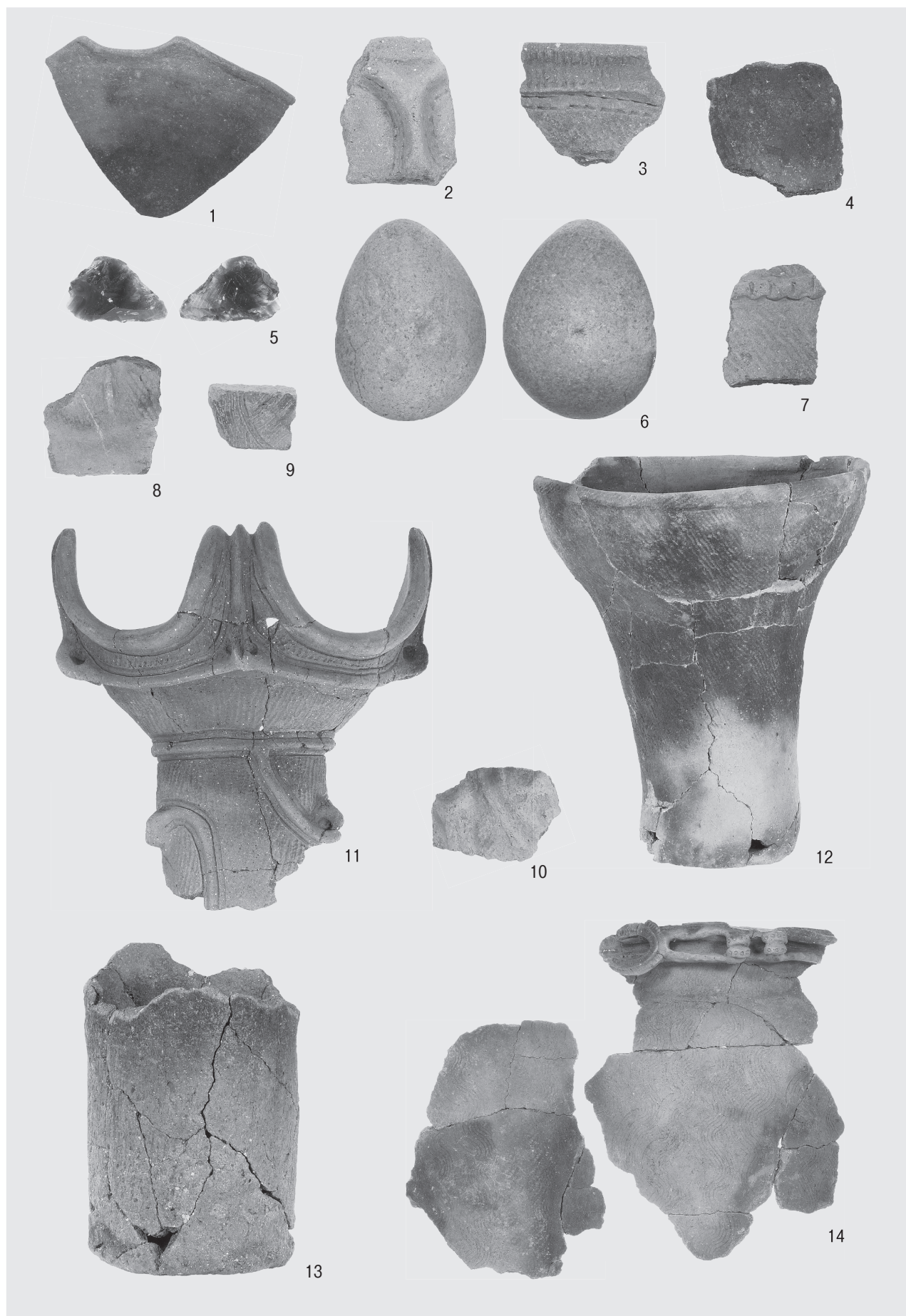


1号ピット遺物出土状態（西より）



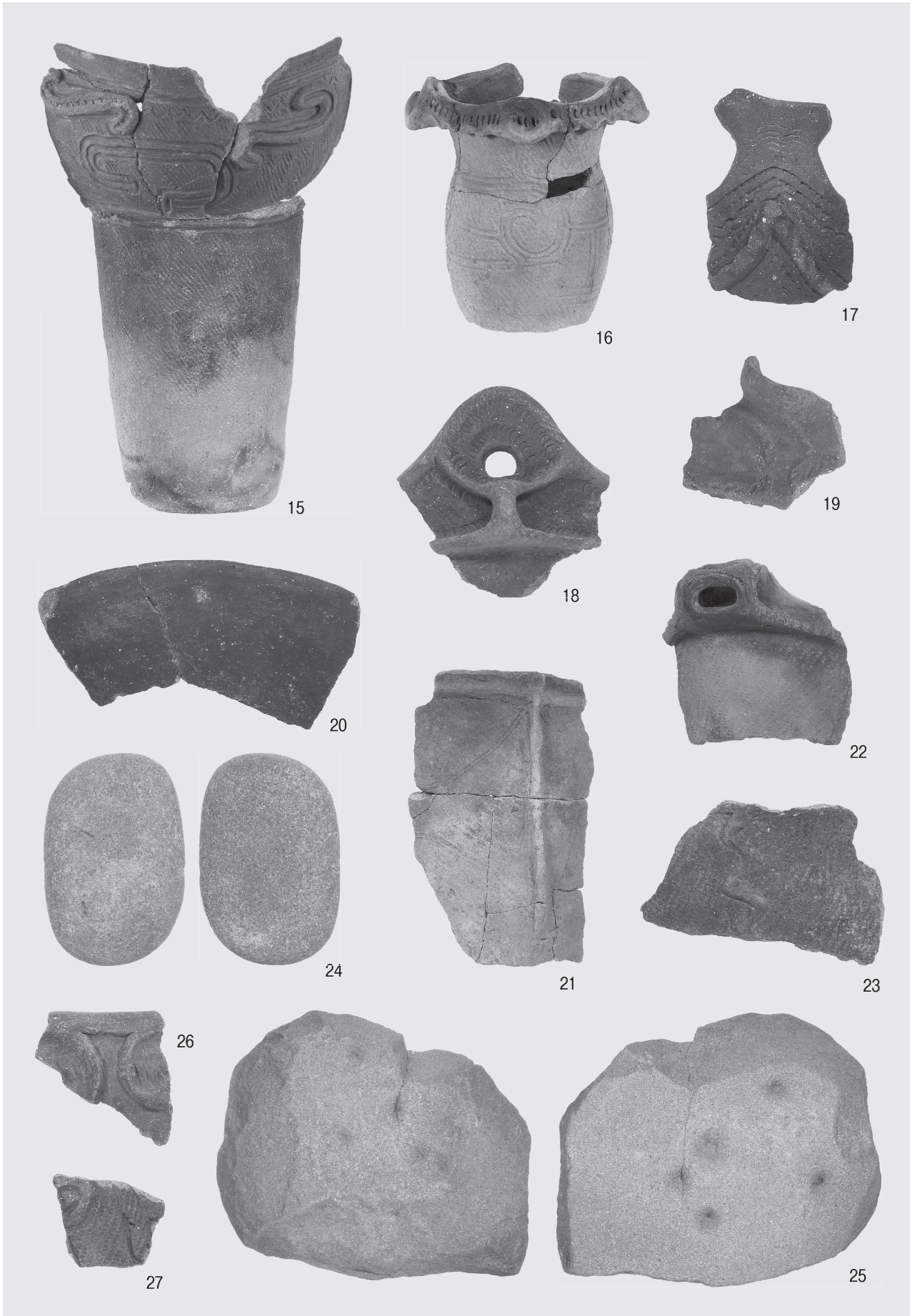
作業風景





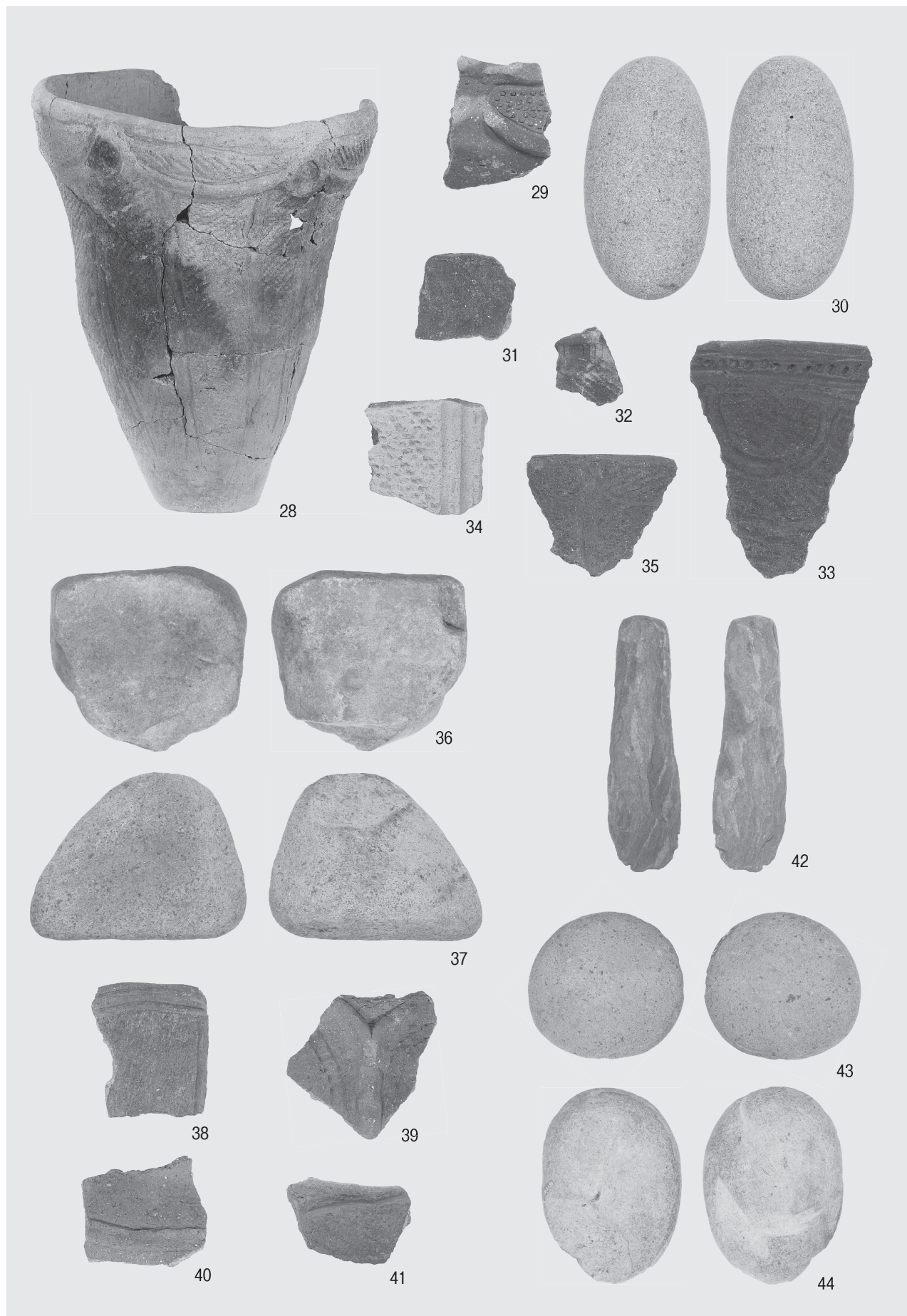
出土遺物 (1)

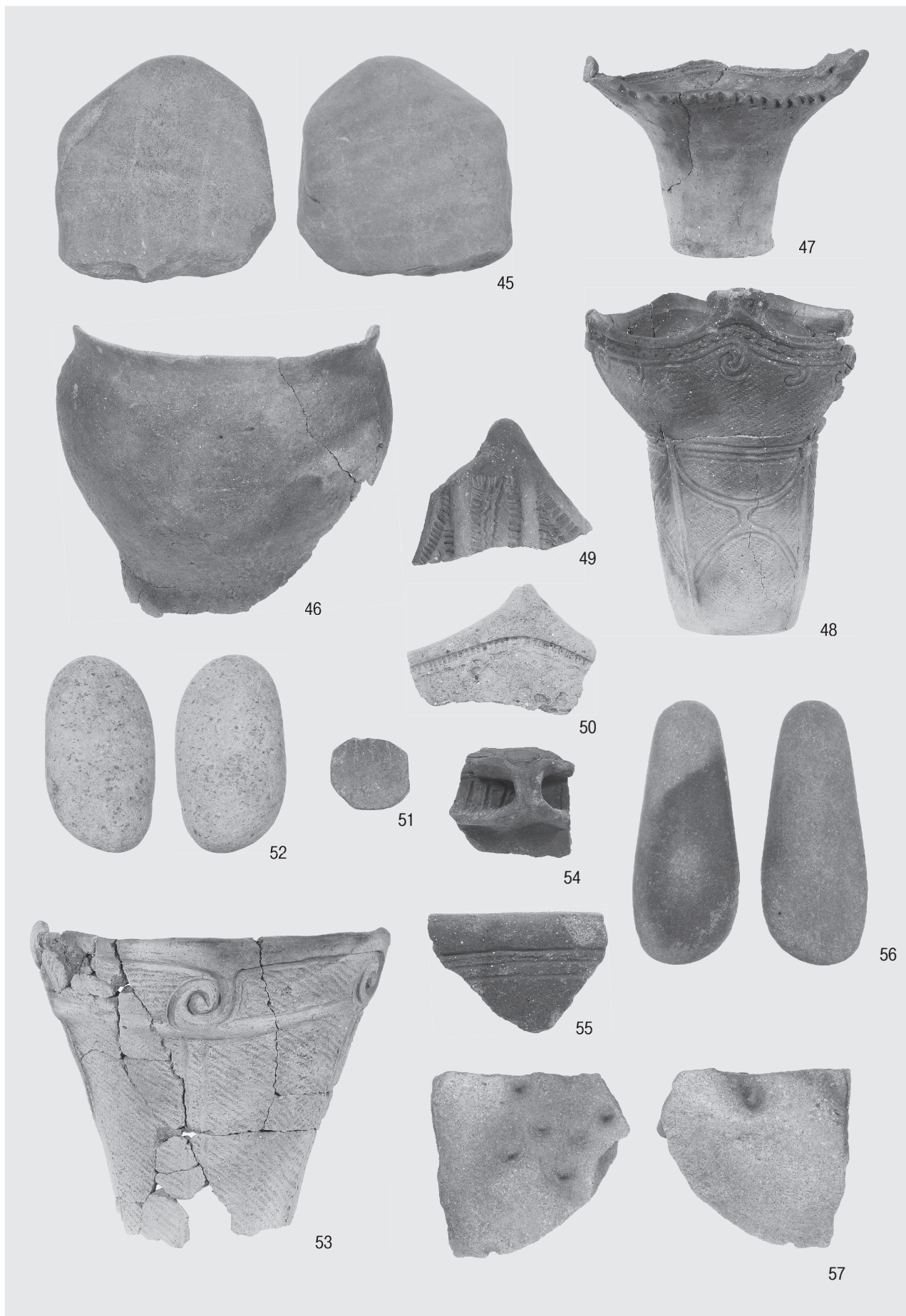




出土遺物 (2)







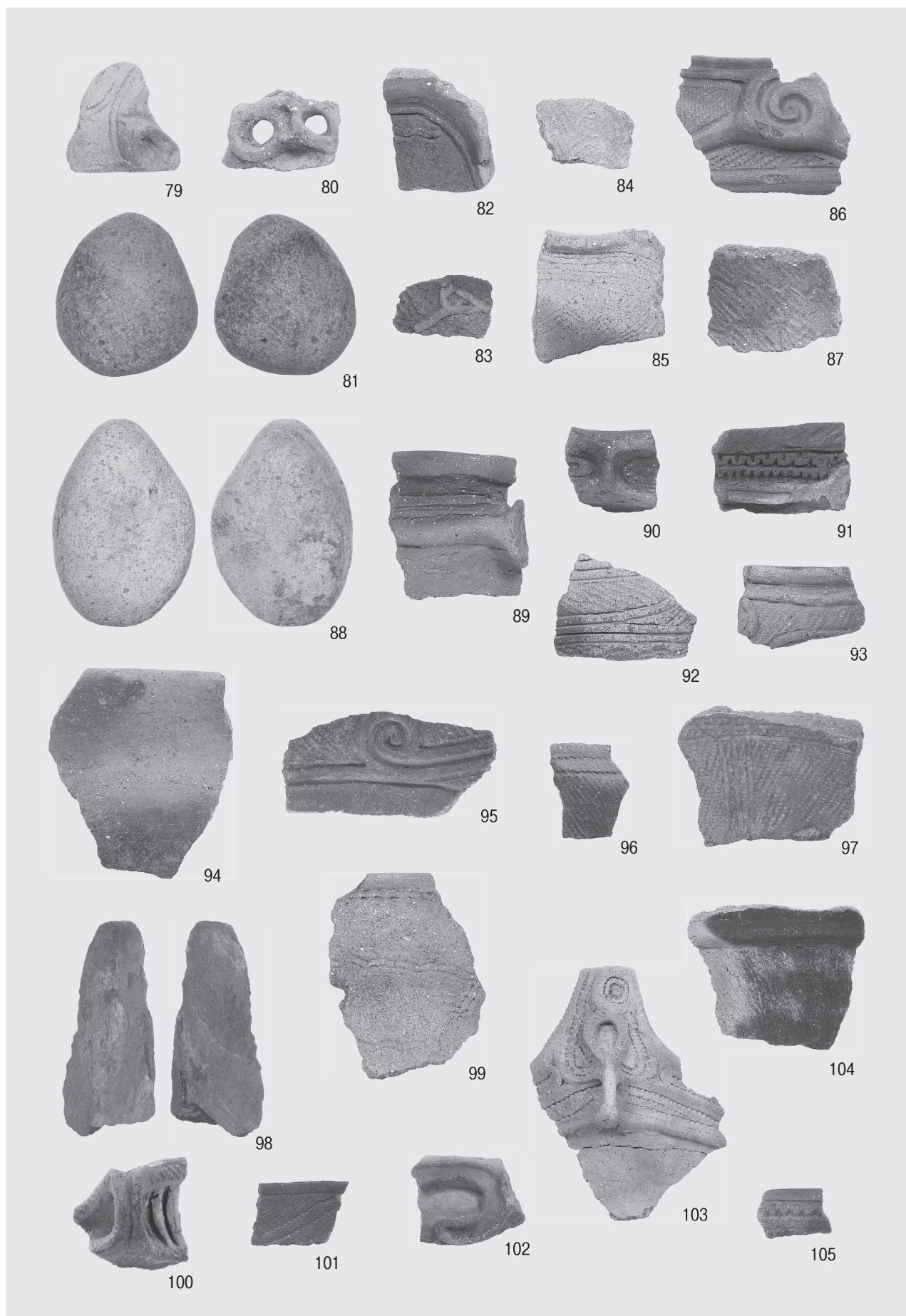
出土遺物 (4)



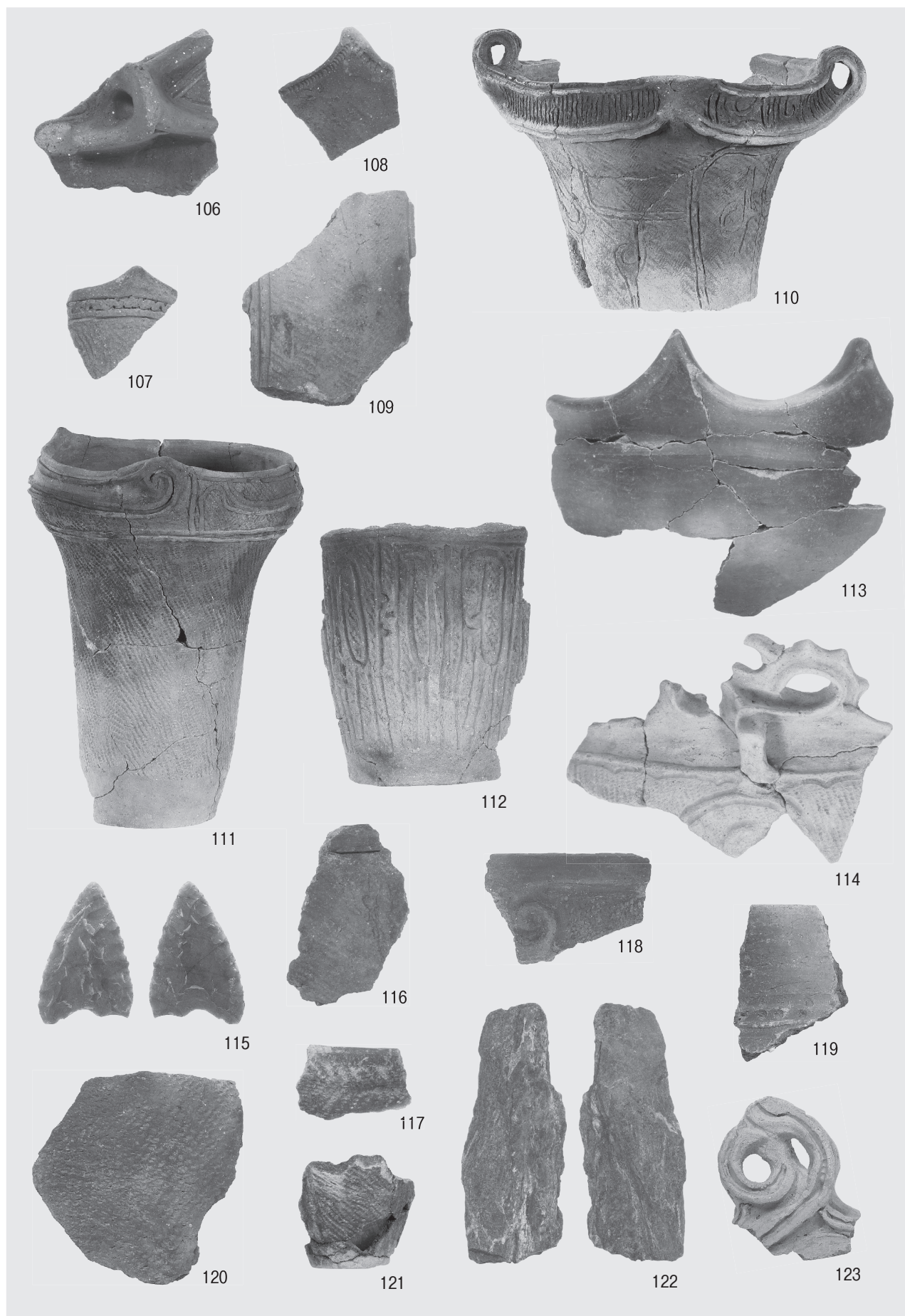


出土遺物 (5)

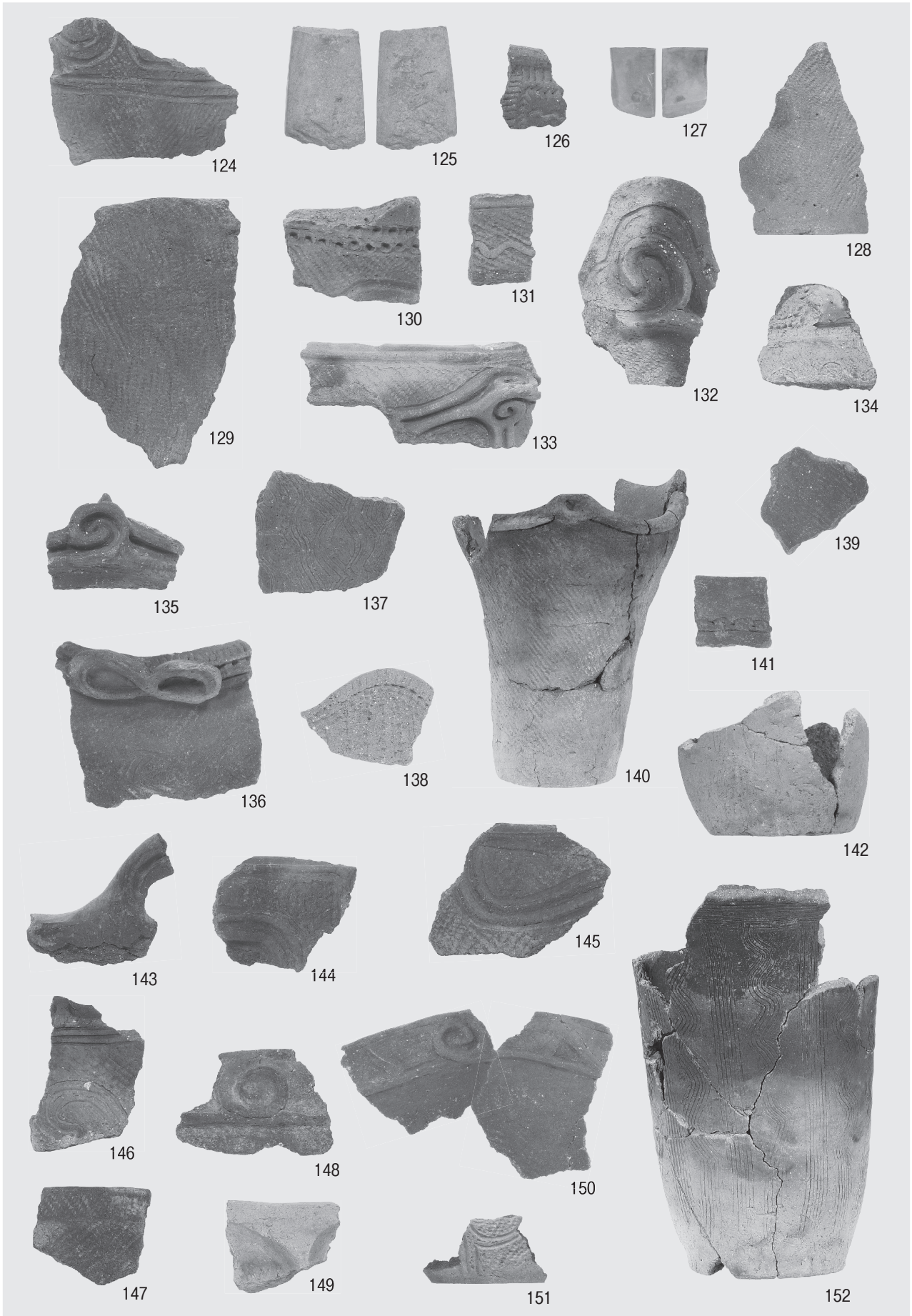




出土遺物 (6)

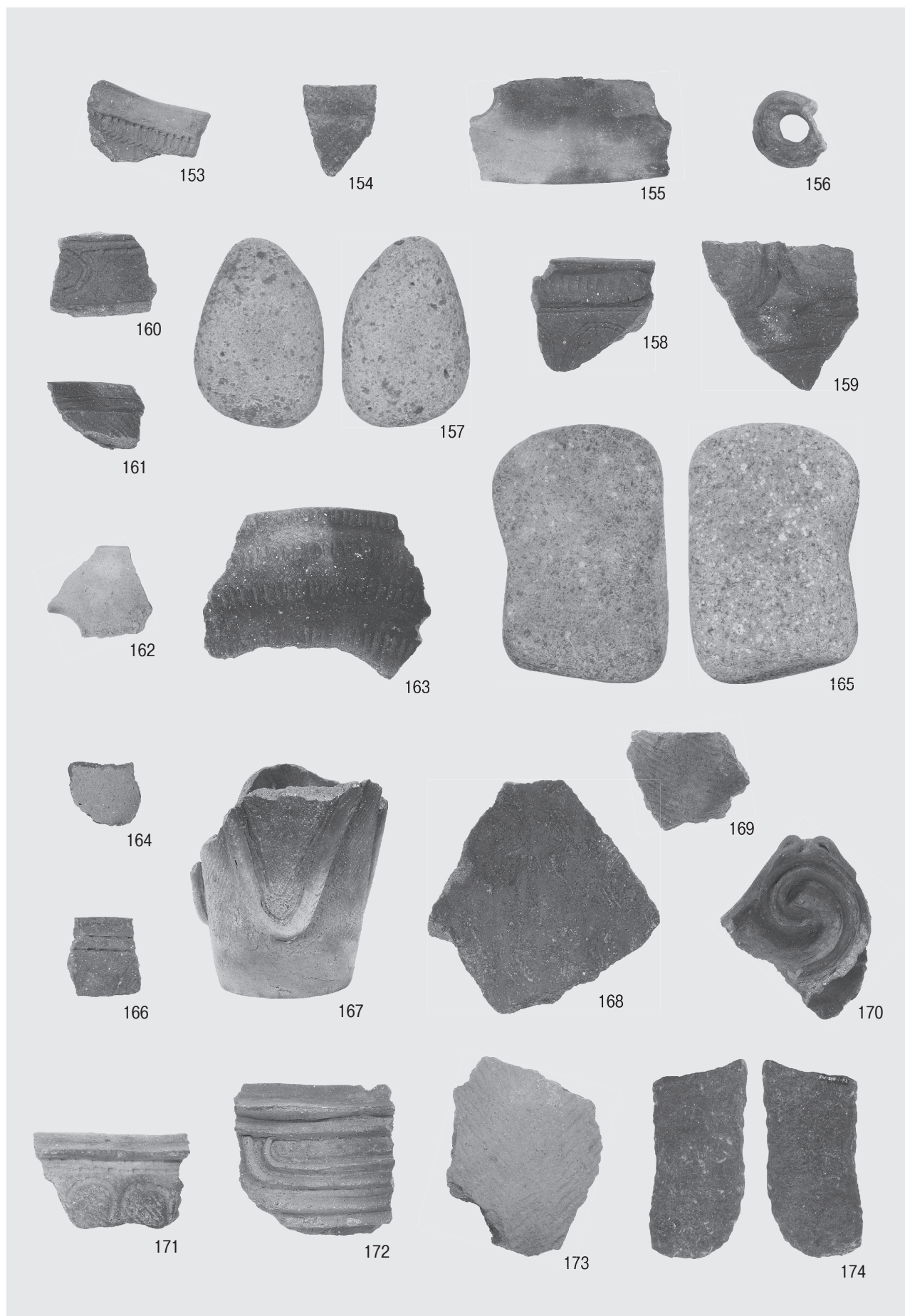


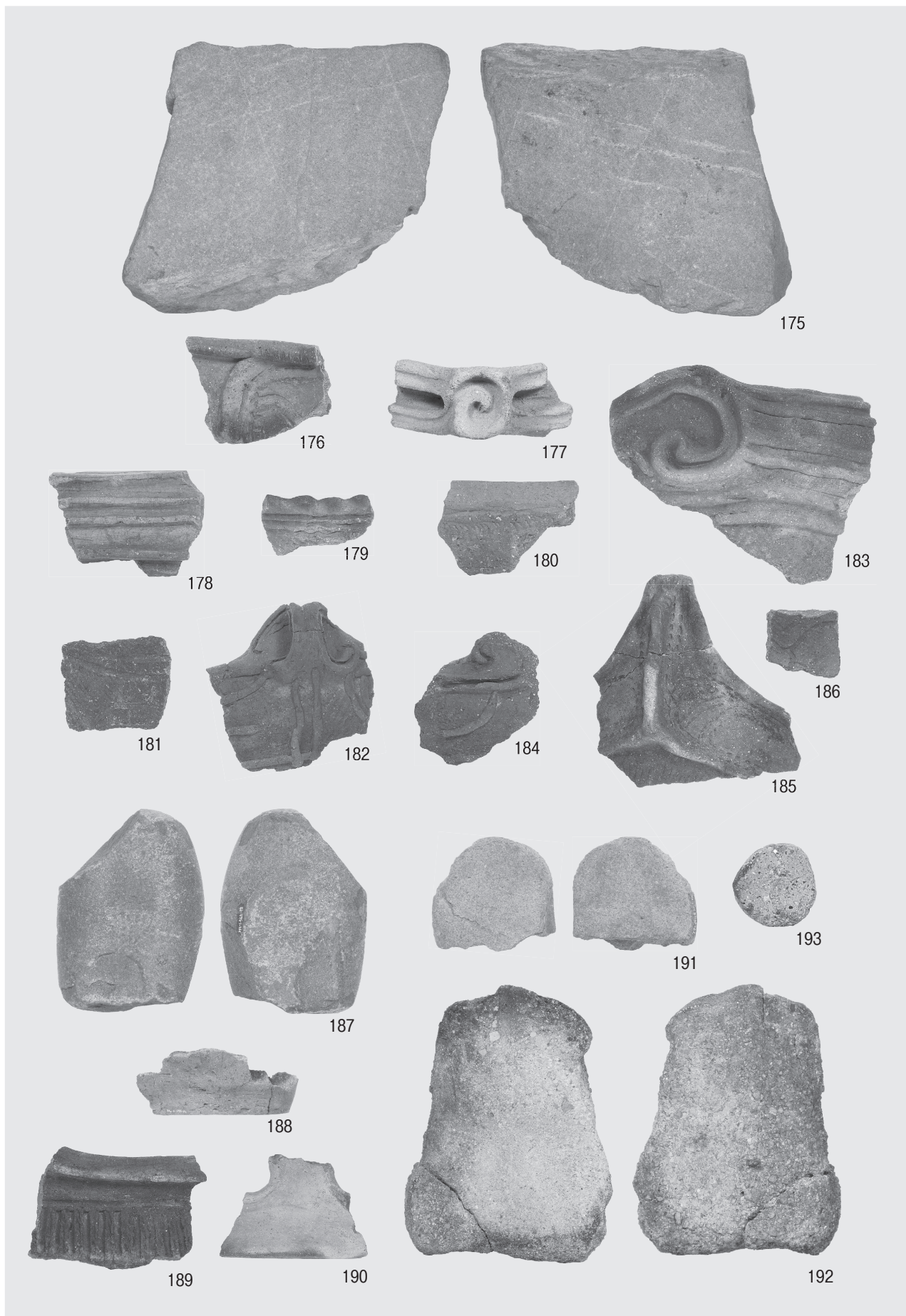




出土遺物 (8)







出土遺物 (10)



## 報 告 書 抄 録

ふりがな	わかばやしせいせき (だいいちちてん)							
書名	若林遺跡 (第1地点)							
副書名	宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告第31集							
編集者名	林 邦雄							
著者名	関口慶久・林 邦雄							
編集機関	水戸市教育委員会							
所在地	〒310-8610 茨城県水戸市中央1-4-1 ☎029-224-1111							
発行年月日	2009 (平成21) 年8月14日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
わかばやしせいせき 若林遺跡	みとしみわ 水戸市見和3丁目 1391番1外	08201	016	36° 22' 18"	140° 25' 22"	2009.2.2 ～ 2009.3.20	646.19 m <sup>2</sup>	宅地造成工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
若林遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡1軒 土坑58基 屋外炉2基 ピット1基	縄文土器, 石器		<p>縄文時代の竪穴住居跡1軒は阿玉台式期の可能性が考えられる。土坑58基は、断面形がフラスコ状や袋状を呈するものが多く、調査区南側～中央にかけて密集しており、群集貯蔵穴としての性格を持つ可能性が高いが、逆位の状態で出土した深鉢形土器や石製装身具なども出土していることから埋葬施設も含む可能性がある。土坑からは縄文時代中期前葉・阿玉台式～中期後葉・加曽利E式にかけての土器が多数出土しており、これらの土坑が該期に断続的に形成されたものと考えられる。土坑群からは、磨石や石皿が多く出土しており、これらの土坑群が貯蔵穴としての性格を持つことを裏付ける可能性を持つ。</p> <p>平安時代の遺物は須恵器1点のみで該期における調査地点の利用状況は低調であったといえる。</p> <p>中世以降の遺構として、地下式壙を1基検出しており、本遺跡西側にある坏遺跡例に続く検出例となった。</p>		
		平安時代	なし	須恵器				
		中世以降	土坑1基 地下式壙1基 ピット33基	なし				

※北緯・東経は世界測地系。

項目	遺物の取り扱い
水洗い	・すべて行った。
注記	・手書きによる。 例) ミ16-1 SD01-P1のように注記した。
接合	・接合は必要に応じて最小限行った。
実測	・遺物実測図は報告書掲載分についてのみ作成した。
台帳	・遺物台帳, 図面台帳, 写真台帳があり, 検索が可能ないように作成している。合計1冊(綴り)。
遺物保管方法	・出土遺物は, 報告書使用と未使用に分け, 遺物収納箱に納めた。各箱には収納内容を明記している。なお, 未使用分については種別毎に分類, 収納してある。



## 水戸市埋蔵文化財調査報告

第1集	台渡里廃寺跡—範囲確認調査報告書—	2005年3月発行
第2集	台渡里廃寺跡 —市道常磐17号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(1)—	2005年4月発行
第3集	大鋸町遺跡 —グランディヒルズ元吉田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2005年8月発行
第4集	台渡里廃寺跡 —市道常磐17号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)—	2006年3月発行
第5集	台渡里遺跡—集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2006年3月発行
第6集	吉田古墳Ⅰ—史跡整備計画に伴う吉田古墳群第3次調査報告書—	2006年3月発行
第7集	大鋸町遺跡(第3地点) —市道浜田207号線側溝新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2006年3月発行
第8集	坏遺跡(第3地点) —ヴィヴァンコート赤塚建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2007年3月発行
第9集	坏遺跡(第4地点) —プランタンコリーヌⅡ建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2007年3月発行
第10集	吉田古墳Ⅱ —史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号墳の第3次発掘調査報告書—	2007年3月発行
第11集	平成17年度水戸市内遺跡発掘調査報告書	2007年3月発行
第12集	アラヤ遺跡(第2地点) —市道常磐10号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2007年3月発行
第13集	米沢町遺跡(第5地点) —住宅展示場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2007年3月発行
第14集	大串遺跡(第7地点) —介護老人保健施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年3月発行
第15集	台渡里遺跡(第39次調査) —公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年3月発行
第16集	渡里町遺跡(第5地点) —市道常磐31号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年6月発行
第17集	渡里町遺跡(第6地点) —市道常磐34, 275号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年6月発行
第18集	薄内遺跡—移動体通信基地局建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年8月発行
第19集	堀遺跡(第9地点)—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年9月発行
第20集	元石川大谷原遺跡—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年12月発行
第21集	台渡里1—平成18年度長者山地区範囲確認調査概報—	2009年3月発行
第22集	平成18年度水戸市内遺跡発掘調査報告書	2009年3月発行
第23集	吉田古墳Ⅲ —史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号墳の第4・5次発掘調査報告書—	2009年3月発行
第24集	町村遺跡(第1地点)—共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年3月発行
第25集	東組遺跡(第1地点)—物販店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年3月発行

- 第 26 集 荷鞍坂遺跡（第 1 地点）  
—コンビニエンスストア建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書— 2009 年 3 月発行
- 第 27 集 大鋸町遺跡（第 8 地点）—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書— 2009 年 3 月発行
- 第 28 集 雁沢遺跡（第 1 地点）—工場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書— 2009 年 3 月発行
- 第 29 集 渡里町遺跡（第 7 地点）  
—市道常磐 23, 31, 307 号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書— 2009 年 6 月発行
- 第 30 集 台渡里 2  
—市道常磐 283 号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(台渡里第 51 次)— 2009 年 6 月発行
- 
- 水戸城跡 三の丸土塁および堀の復旧に伴う工事・調査報告書 2006 年 9 月発行

水戸市埋蔵文化財調査報告第 31 集

## 若林遺跡

—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

印 刷 平成 21 年 8 月 14 日  
発 行 平成 21 年 8 月 14 日

編 集 株式会社東京航業研究所  
発 行 水戸市教育委員会  
印 刷 野崎印刷紙器株式会社  
〒 230-0001  
横浜市鶴見区矢向 3-15-27  
TEL 045-571-3508